

平成27年度
「市民生活実感調査」に
係る分析結果

平成28年3月

「未来の京都創造研究事業」

公益財団法人大学コンソーシアム京都・京都市

目 次

はじめに	P 1
特集 5年間で市民の生活実感が大きく変化した項目	P 5
I 政策分野別の考察について	P 15
II 統計的分析手法を用いた分析について	P 85
1 政策重要度と生活実感の関係について	P 87
2 生活実感と幸福実感における相関について	P 97
3 自由記述の分析について	P 105
III 平成27年度市民生活実感調査の概要について	P 109
IV 生活実感、政策重要度、市政関心度、幸福実感の回答結果について	P 115
むすびに	P 128

「市民生活実感調査」とは、京都市の政策評価制度の一環として、市基本計画に掲げる政策・施策がどの程度達成されているかについて市民の皆様の実感を把握するため、生活実感（27政策分野130問）、政策重要度（27政策分野）、市政関心度、幸福実感、自由記述の5項目の調査を、平成16年度から毎年、市が行っている。

はじめに

「市民生活実感調査」は政策評価や事業の効果を検証するために京都市が平成23年度から毎年実施しているアンケート調査である。そこで得られたデータを基に、未来の京都づくりに向けて、現状の分析や課題の抽出、政策の企画・立案等のために公益財団法人大学コンソーシアム京都と京都市が共同で分析を行っており、今年度で5年目を迎えた。

27年度は、単年の視点のみならず、5年間の推移という観点から分析を進めた。質問項目は従来と同じであったことから、「生活実感」と「市政への関心度」は5年分の回答の変化、「幸福実感」は4年分の回答の変化、「政策重要度」は3年分の変化、生活実感と政策重要度の関係は3年分の変化、生活実感と幸福実感の単年度の分析、「自由記述」の単年度の分析をそれぞれ行った。

回答者の属性は、これまでの「市全体」「世代別・性別」「居住区別」に加え、「職業別」「京都市での居住年数別」も新たに採用して、5年分の回答に対する分析をさらに細かく行った。

今年度の分析では5年間で蓄積されたデータを用いており、これまで以上に深掘りした分析ができたと考える。

ただし、属性ごとの分析には一定のサンプル数が必要であるため、本分析では市全体と世代別・性別を中心に記載し、居住区別、職業別、京都市での居住年数別の中で該当するものがあれば取り上げている。すべての集計結果等は当財団のホームページに掲載しているので、そちらをご覧ください。

なお、「未来の京都創造研究事業」とは、「大学のまち・京都」が有する知の集積を活用し、未来の京都づくりに向けた政策を創造するための調査・研究を行うとともに、最先端の研究に取り組む意欲ある若手研究者等の発掘・育成とネットワーク形成を目指して公益財団法人大学コンソーシアム京都と京都市が平成23年度から始めた共同事業である。

◎ この報告書の見方 ◎

この報告書は平成27年度市民生活実感調査における「生活実感」「政策重要度」「市政関心度」「幸福実感」という四つの調査項目の回答結果について分析した結果を掲載している。

生活実感については、行政の取組が市民にプラス方向に感じられているのか？ という観点から「肯定的な回答割合」ということで、各設問に対して「そう思う」または「どちらかというと思う」と回答した人の割合に注目した。

政策重要度については、京都市民にとってはどの政策がどれくらい重要と感じているのか？ という観点から「重要である」または「どちらかという重要である」と回答した人の割合に注目した。

市政関心度は、市民が京都市政にどのくらい関心を持っているのか？ に対して「関心がある」または「少しは関心がある」と回答した人の割合に注目した。

幸福実感は、市民が現在幸せと感じているのか？ について「とても幸せだと思う」または「どちらかという幸せだと思う」と回答した人の割合に注目した。

四つの調査項目の回答方法は次のとおりである。

- 1 「生活実感」・・・日々の生活に対する市民の実感度合を把握するため、京都市政に係る130の設問について「そう思う」「どちらかというと思う」「どちらとも言えない」「どちらかというと思わない」「そう思わない」の5段階で回答（どれにもあてはまらない場合は無回答）。
- 2 「政策重要度」・・・27の政策分野の重要度を把握するため、それぞれについて「重要である」「どちらかという重要である」「どちらとも言えない」「どちらかという重要ではない」「重要ではない」の5段階で回答（どれにもあてはまらない場合は無回答）。
- 3 「市政関心度」・・・京都市政に対する関心度合を把握するため、「関心がある」「少しは関心がある」「あまり関心がない」「まったく関心がない」「わからない」の5段階で回答（どれにもあてはまらない場合は無回答）。
- 4 「幸福実感」・・・市民の幸福実感度合を把握するため、「とても幸せだと思う」「どちらかという幸せだと思う」「どちらとも言えない」「どちらかという幸せではないと思う」「不幸せだと思う」の5段階で回答（どれにもあてはまらない場合は無回答）。

生活実感調査 設問一覧（27政策分野130問）

「そう思う」「どちらかというと思う」「どちらとも言えない」「どちらかというと思わない」「そう思わない」の5段階で回答

分野	番号	設問文
1 環境	1	京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかげがえのないものと実感している。
	2	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。
	3	省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。
	4	太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。
	5	京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。
	6	マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。
	7	ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。
2 人権・男女共同参画	1	くらしのなかで互いの人権を尊重し合う習慣と行動が広がっている。
	2	いきいきと活動して自分の能力を発揮する場所や自分に合った働き方を見つける機会がある。
	3	女性も男性も、仕事と生活（家庭や地域活動など）をバランスよく充実できる社会になってきている。
	4	女性に対する暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。
3 青少年の成長と参加	1	青少年が社会体験を通して「生きる力」を伸ばせている。
	2	青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。
	3	青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が生かされている。
	4	青少年がネット、不登校などの課題に直面したときに信頼して相談できる場所があり、支援がされている。
	5	青少年の成長を支援する社会環境と、青少年を受け入れる居場所がある。
4 市民生活とコミュニティ	1	地域の一員として安心してくらするまちになっている。
	2	町内会・自治会など地域の組織の活動が盛んである。
	3	地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。
	4	多様なNPOやボランティア組織と町内会・自治会などの地域の組織が協力して活動している。
	5	町内会、自治会などの地域の組織の主体的な活動と、それに対する行政の支援とがうまくかみ合っている。
5 市民生活の安全	1	犯罪や事故など万が一のことがあっても、お互いに助け合えるまちである。
	2	事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にくらするまちになっている。
	3	悪質商法などによる消費者被害を防止し、被害を救済するしくみが整っている。
	4	消費生活に関する情報や知識を備えた自立した消費者が増えている。
6 文化	1	京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。
	2	市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。
	3	文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。
	4	文化財が社会全体で大切にされ、地域の活性化にもつながっている。
7 スポーツ	1	気軽に体を動かしたり、スポーツやレクリエーションを楽しんだりする機会がある。
	2	プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。
	3	スポーツイベントや運動会、レクリエーションなどの活動を、スタッフやボランティアとして支えるひとが増えている。
8 産業・商業	1	京都では、さまざまな企業や産業の活動が互いに刺激し合って発展している。
	2	京都では、価値を高めるために工夫したものづくりが行われている。
	3	京都の特色を生かした産業活動が行われている。
	4	京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。
	5	働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。
	6	京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている。
	7	ソーシャルビジネス（社会的企業）が育ってきている。
	8	京都の卸売市場は、安全・安心な生鮮食品の提供に役立っている。
9 観光	1	じっくり滞在し、ほんものどふれあい、歩いて楽しむ観光客が増えている。
	2	京都は、観光客にとって質の高い観光都市である。
	3	京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる。
	4	京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。
	5	京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都観光の振興に協力的である。
	6	子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。
	7	京都は、国際会議などが盛んに開かれるMICE都市になってきている。
10 農林業	1	京都の農林業が魅力を増し、後継者や新たな担い手が育っている。
	2	京都の農林業は、環境に負荷をかけない栽培の取組や森林の整備を通して、地域社会に役立っている。
	3	市民農園や森林を守る運動、学校の体験学習などにより、京都の農林業が身近になってきている。
11 大学	1	京都は、「大学のまち」として学びの環境が充実し、多様な伝統文化芸術等に触れる機会に恵まれている。
	2	京都では、世界から留学生や研究者が集まり、国際社会で活躍する人材が育っている。
	3	京都の大学は、世界に貢献する高い研究成果を上げている。
	4	学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。
	5	大学の人材や研究成果は、産業の活性化と雇用の創出に役立ち、地域の発展にもつながっている。
12 国際化	1	京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。
	2	京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。
	3	国籍、民族、文化等が違っても互いに理解し合い、ともにいきいきとくらするまちになっている。
	4	京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。
13 子育て支援	1	子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる。
	2	京都では、子どものいのちと人権が大切にされている。
	3	必要ときに健康相談を受けたり、病院に行けたり、安心して子どもを生み育てることができる。
	4	働き方の見直しや男性の育児参加など、仕事と子育ての両立に取り組むひとや企業が増えている。
	5	子どもたちが安心して過ごせる居場所や遊び場が身近にある。

分野	番号	設問文
14 障害者福祉	1	障害への理解が進み、障害のあるひともないひととも、認め合い、支え合ってくださるまちになっている。
	2	障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域で暮らしやすくなっている。
	3	働く場で、障害のあるひとがいきいきと働く姿を多く見かけるようになっている。
	4	バリアフリーなどの生活しやすい社会環境の整備が進み、暮らしやすいまちになっている。
15 地域福祉	1	社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。
	2	地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。
	3	地域において福祉にかかわる民生委員などのボランティアのひとびとが活発に活動している。
	4	地域のつながりが、福祉活動や防犯・防災の取組に役立っている。
16 高齢者福祉	1	高齢者が敬われ、心身ともに健康で充実した暮らしを送れている。
	2	高齢者の知恵や経験、技能が社会に生かされている。
	3	高齢者が地域で見守られ支えられて、安心してくださるまちになっている。
	4	介護サービスや住環境整備などが充実し、高齢者が住み慣れた地域でそのひとらしい暮らしを送れている。
	5	高齢社会が進展するなか、介護職が重要な仕事となっている。
17 保健衛生・医療	1	正しい情報を基に、健康づくりに取り組むひとが増えている。
	2	利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。
	3	安心して食べられる食品が手に入るなど、衛生的な生活環境が整っている。
	4	公共の場では禁煙が進んでいる。
	5	感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。
18 学校教育	1	保護者や地域のひとびとが学校のさまざまな活動に参画するなど、地域ぐるみの教育が進んでいる。
	2	安全快適な学校施設や最新の設備など、充実した教育環境が整っている。
	3	学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとびとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。
	4	子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある。
	5	京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。
19 生涯学習	1	京都には、大学や博物館、神社仏閣、企業、NPOなどが提供する学習機会が豊富にある。
	2	生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。
	3	地域での取組において、幅広い世代がともに学ぶ機会が充実している。
	4	子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。
20 歩くまち	1	京都では、過度な自動車利用を控え、歩くことを中心としたライフスタイル（くらし方、生き方）が大切にされている。
	2	京都での移動には、公共交通が便利である。
	3	歩いてこそ魅力を満喫できるまちとなっている。
	4	まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。
	5	地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。
	6	駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により、自転車と歩行者が共存できている。
21 土地利用と都市機能配置	1	買物などの日常生活には、徒歩や自転車、公共交通が便利である。
	2	田の字地域や京都駅の周辺は、にぎわいのある魅力的な地域である。
	3	京都のまちの南部地域が発展してきている。
	4	身近な地域が魅力的になっている。
	5	身近な地域で、自主的なまちづくり活動が進んでいる。
22 景観	1	京都の個性的な町並み景観が守られている。
	2	身近に誇りや愛着を持てる町並みや風景がある。
	3	京都のくらしや文化を伝えている京町家が継承されている。
	4	大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えてきている。
	5	三山の山並みなどの自然風景は、美しく魅力がある。
23 建築物	1	建物を新築するときは、建築ルールが守られている。
	2	バリアフリー化された建物が増えている。
	3	地震や火災に強い建物が増えている。
	4	身近な地域にある細い道は、地震や火災などの災害時に被害が大きくなるよう改善されている。
24 住宅	1	長く大切に使える住宅が増えている。
	2	地域の行事や自治会活動に、以前から住んでいるひとと、新しく転入してきたひとと、分け隔てなく参加している。
	3	身近な地域で空き家が減っている。
	4	低所得者や高齢者などが暮らしやすい市営住宅や民間賃貸住宅が十分に確保されている。
25 道と緑	1	災害時も安全に移動できる道路網ができています。
	2	京都は緑が豊かである。
	3	市内の道路や橋が、市民の財産として、よい状態で管理されている。
	4	道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。
26 消防・防災	1	身近なところで防火意識が高まり、出火防止の取組が進んでいる。
	2	京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。
	3	消防署は、火災や事故などが発生した場合に適切に対応し、いざというときに頼りになる。
	4	応急手当の知識や技術を備えたひとが増えている。
	5	防災意識の向上とともに、地域ぐるみの災害対応力が高まっている。
27 くらしの水	1	京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。
	2	大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。
	3	京都の河川は水がきれいであり、水辺に親しみやすい。
	4	水道水がおいしくなるなど、京都の上下水道サービスは向上している。
	5	京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。
	6	水や水辺環境が大切にされるなど、水と共に生きる意識が高まっている。

特 集

5年間で市民の生活実感が大きく変化した項目

5年間で市民の生活実感が大きく変化した項目

1. 生活実感項目の回答に顕著な変化があった設問

(1) 市全体の回答の中で顕著な変化があった設問

130の生活実感項目のうち、市全体の平均値が5年間で特に大きく変化したものを選定した。方法としては、統計的分析手法である「カイ二乗検定」と「トレンド検定」(※)を用いて該当する設問をまず選び出し、次に有意水準0.1%未満であるものを「顕著な変化があった設問」とした。これにより、マクロに市全体での5年間の推移と、中でも特に大きく変化したものに注目することができる。

抽出した設問数は6問であり、すべてについて概説する。

(2) 属性ごとの回答の中で特徴的に大きく変化した設問

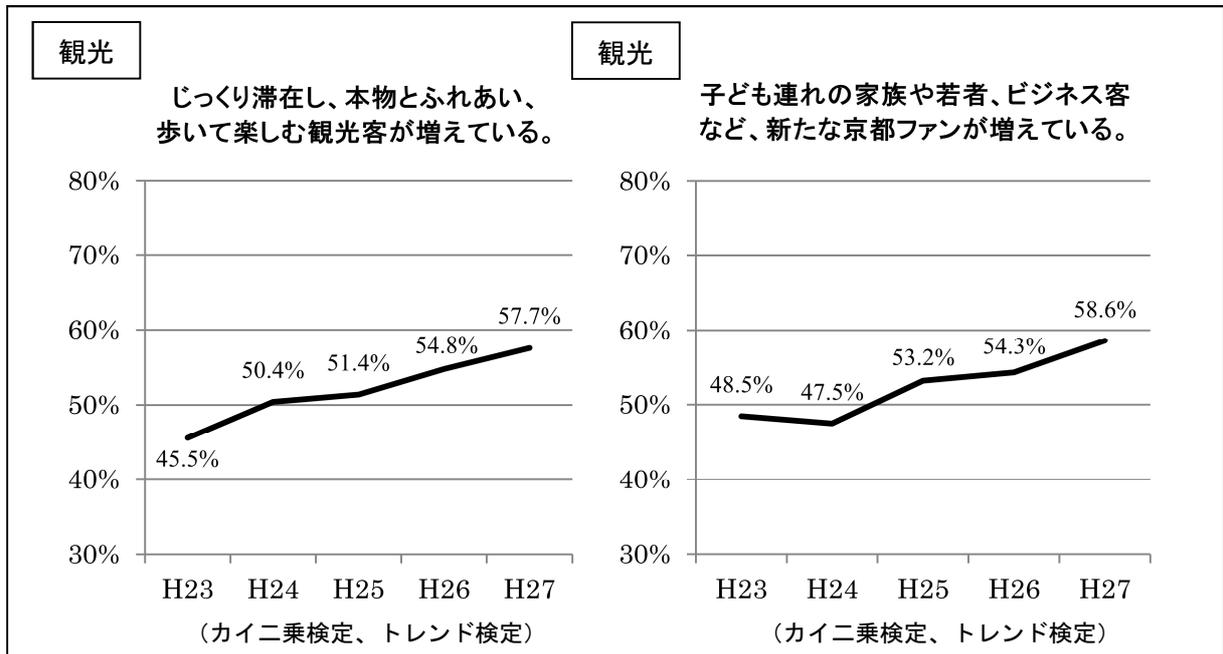
一方、もっとミクロに回答者の属性(世代別・性別、行政区別、職業別、居住年数別)に基づいて詳細に分析してみると、幅広い属性において生活実感が変化した設問や特定の属性においてのみ飛び抜けて変化した設問などが得られる。そこで「カイ二乗検定」と「トレンド検定」で大きな変化が認められた設問のうち、有意水準1%未満(先に適用した水準である0.1%未満よりも10倍ゆるい水準)に該当したものについて示した。

抽出した設問数は18問であり、特徴的なものをいくつか取り上げて概説する。

すべての図の縦軸は各設問への肯定的回答の割合(「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計)の値、横軸は年度であり、該当する検定方法も示している。

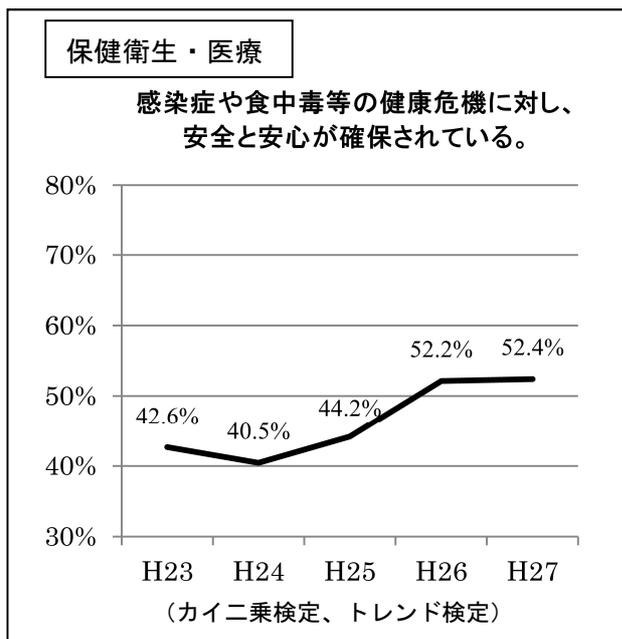
(1) 市全体の回答の中で顕著な変化があった設問

① 政策分野『観光』



政策分野『観光』のうち「じっくり滞在し、本物とふれあい、歩いて楽しむ観光客が増えている。」と「子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。」の生活実感は、5年間ほぼ一貫して上昇している。京都市民は市内での観光客の増加を実感しているため、このように回答したと考えられる。

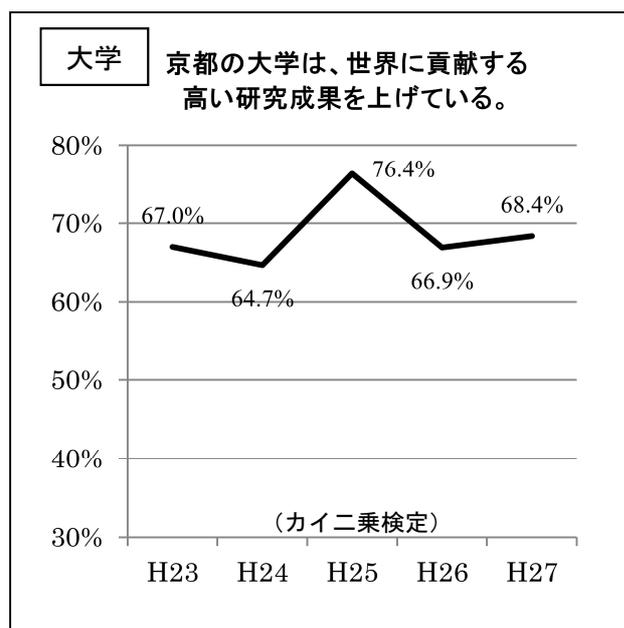
② 政策分野『保健衛生・医療』



政策分野『保健衛生・医療』のうち「感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。」の生活実感は24年度に一度低下し、その後ほぼ一貫して上昇している。

24年度の低下は、23年に発生した、飲食チェーン店における牛肉の生食による腸管出血性大腸菌O111食中毒事件などによって食の安全が揺るがされたことが原因の一つではないかと思われるが、行政の取組が奏功していることなどにより著しい低下とはならず、その後上昇に転じたのではないだろうか。

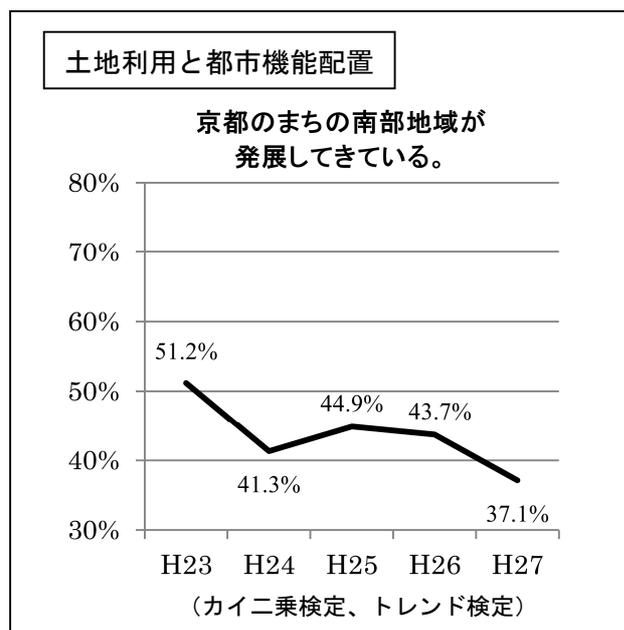
③ 政策分野『大学』



政策分野『大学』のうち「京都の大学は、世界に貢献する高い研究成果を上げている。」の生活実感については、京都大学の山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞を受賞した翌年度である25年度に大幅に上昇したと思われる。しかし26年度以降は平均的な値に戻っている（カイニ乗検定※では著しい変化といえたが、トレンド検定※では著しい変化と認められなかった）。

市民の生活実感は社会で起こった出来事の影響を大きく受けることが見て取れる。

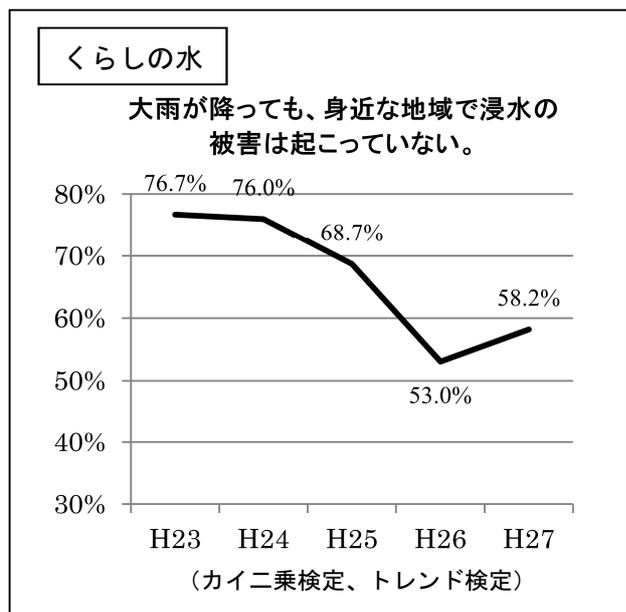
④ 政策分野『土地利用と都市機能配置』



政策分野『土地利用と都市機能配置』のうち「京都のまちの南部地域が発展してきている。」の生活実感は、24年度に著しく低下したのち、翌年度に持ち直すものの減少傾向は変わらず、27年度には最低値を記録した。

京都市による事業はこれまで多く実施されているものの、市民が実感するまでには十分に至っていないのではないだろうか。

⑤ 政策分野『くらしの水』



政策分野『くらしの水』のうち「大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。」の生活実感は、全130項目の中で最も大きな変化（下降）を見せた。

これは25年の台風18号によって嵐山が広域に浸水したり、地下鉄御陵駅が水没するなど被害がかなり深刻だったため、翌26年度に肯定的回答率が大幅に低下したものと考えられる。

※注

5年間の回答状況に対して、偶然ではなく、なんらかの要因により必然的に起こった変化と考えられる設問を把握するため、統計的分析手法である「カイニ乗検定」と「トレンド検定」を用いた。

カイニ乗検定とは、期待値と観測値との差の有無を調べるものであり、ここでは各年度における肯定的回答の割合に差があるかどうかを検定している。一律の増加／減少傾向があればもちろん、なくても、特定の年度だけ肯定的回答割合が突出しているものを検出することができる。

トレンド検定とは、増加傾向あるいは減少傾向の有無を調べるものであり、ここではマンテル＝ヘンツェルのトレンド検定を用いている。一律の増加あるいは減少の傾向があるもののみ検出することができる。

これら2種類の検定によって抽出した項目のうち、有意水準0.1%未満のものを「変化の幅が誤差の範囲を超えて著しく変化した」と定義。

(2) 属性ごとの回答の中で特徴的に大きく変化した設問

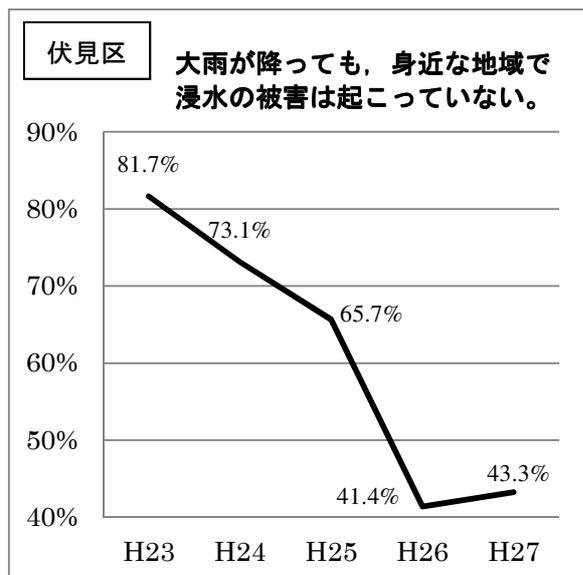
1) 幅広い属性において生活実感がプラス方向に大きく変化した設問

(すべてカイ二乗検定とトレンド検定の双方に該当)

① 政策分野『くらしの水』

「大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。」

17属性（市全体、世代別・性別の全6属性、山科区、右京区、伏見区、自営業・自由業、会社員・公務員、主婦・主夫、無職、居住年数5～11年未満、同11～31年未満、同31年以上）で該当。



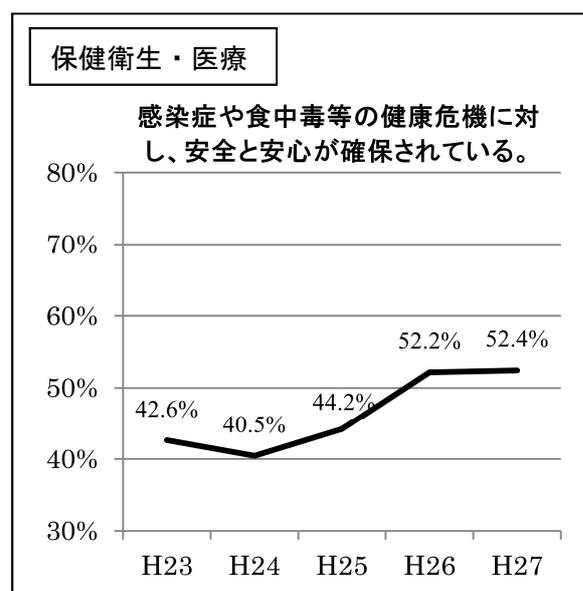
生活実感の市全体における平均値の推移は前掲したため省略するが、全130項目中最多の17属性で大きく低下しており、25年9月の台風18号による浸水被害が市民生活に大きな影響を与えたかを示している。

ここでは伏見区における生活実感のグラフを掲載する。伏見区ではこの台風により広範な地域で床上・床下浸水などの被害が発生したため、26年度に生活実感が大幅に低下したことが読み取れる。

② 政策分野『保健衛生・医療』

「感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。」

5属性（市全体、伏見区、会社員・公務員、主婦・主夫、居住年数31年以上）で該当。



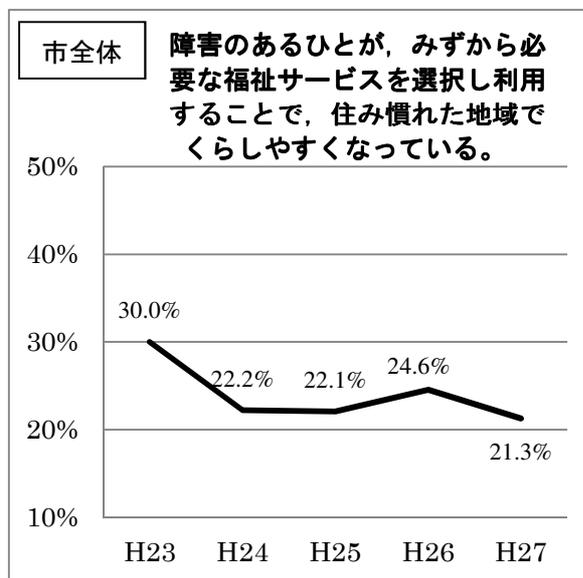
生活実感の市全体における平均値の推移を再掲するが、市全体で生活実感が大きく上昇しているということは、行政・企業・団体・個人などが協力しあって健康に対する取組を進めていることが評価されていると考えられる。

2) 生活実感がマイナス方向に大きく変化した設問

① 政策分野『障害者福祉』

「障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域でくらしやすくなっている。」

2属性（市全体、伏見区）で該当。

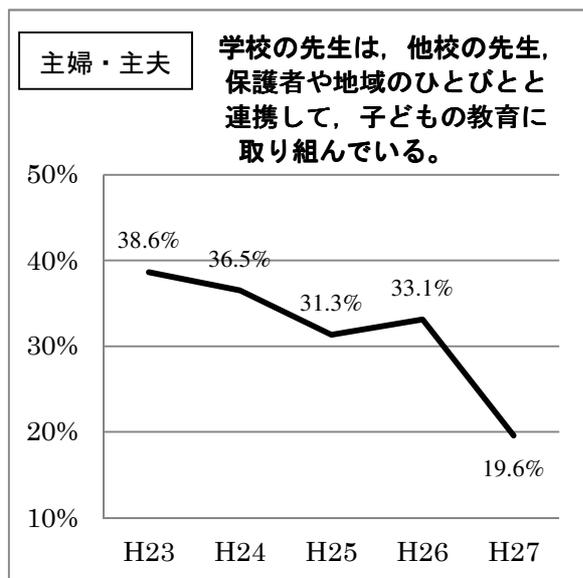


生活実感の市全体における平均値の推移を再掲するが、途中の26年度にわずかな持ち直しが見られたものの、期間全体としては低下している。この結果は偶然ではなく何らかの要因により起こった変化と考えられるため、変化の前後における法律改正や、市の政策の変化などを検証することで、改善のためのヒントが得られる可能性がある。

② 政策分野『学校教育』

「学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとびとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。」

1属性（主婦・主夫）のみ該当。



生活実感の主婦・主夫における平均値の推移を掲載する。児童や生徒の保護者が多く属すると考えられる主婦・主夫において著しい低下が見られた。

生活実感に大きな変化があった設問のうち、該当する属性数が多い順に並べた表を以下に示す。変化の状況を示す指標として、過去5年間の生活実感の肯定的回答割合の「変動幅」（期間中の**最大値と最小値の差**。肯定的回答割合がどの程度の幅で変動しているかがわかる）と「変化」（**23年度の値と27年度の値との差**。肯定的回答割合が5年間でどの程度変化したかがわかる）を掲載している。変動幅はプラスの値しか存在しないが、変化はマイナスの値もありうる。

生活実感に大きな変化があった設問と属性の一覧

政策分野	設問項目	属性	変動幅	変化
くらしの水	大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。	市全体	23.5%	-18.3%
		若年層男性	40.1%	-17.6%
		若年層女性	36.9%	-13.7%
		中年層男性	31.9%	-19.7%
		中年層女性	32.2%	-32.2%
		高年層男性	17.5%	-17.3%
		高年層女性	18.2%	-11.5%
		山科区	32.4%	-17.6%
		右京区	34.5%	-17.4%
		伏見区	40.2%	-38.4%
		自営業・自由業	32.9%	-18.0%
		会社員・公務員等	29.2%	-26.3%
		主婦・主夫	21.6%	-13.7%
		無職	18.6%	-18.1%
		5～11年未満	36.7%	-26.6%
11～31年未満	29.5%	-23.7%		
31年以上	21.5%	-17.0%		
保健衛生・医療	感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。	市全体	12.5%	+9.9%
		伏見区	23.5%	+19.2%
		会社員・公務員等	17.4%	+13.8%
		主婦・主夫	24.7%	+16.7%
		31年以上	15.4%	+12.0%
観光	子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。	市全体	11.2%	+10.4%
		自営業・自由業	30.5%	+26.1%
		主婦・主夫	22.1%	+22.1%
		31年以上	13.2%	+13.1%
文化	市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。	市全体	8.5%	+8.5%
		会社員・公務員等	15.8%	+13.2%
		11～31年未満	21.6%	+21.6%

政策分野	設問項目	属性	変動幅	変化
観光	じっくり滞在し、ほんものとふれあい、歩いて楽しむ観光客が増えている。	市全体	12.5%	+12.5%
		主婦・主夫	22.2%	+22.2%
		31年以上	13.6%	+13.6%
産業・商業	京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている。	市全体	10.7%	+7.0%
		31年以上	13.5%	+8.5%
障害者福祉	障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域でくらしやすくなっている。	市全体	8.7%	-8.7%
		伏見区	19.4%	-19.4%
都市機能	京都のまちの南部地域が発展してきている。	市全体	13.9%	-13.9%
		11～31年未満	22.2%	-22.2%
環境	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	市全体	11.5%	+9.4%
環境	京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。	市全体	11.1%	+6.3%
市民生活とコミュニティ	地域の一員として安心してくらしをまねかせるまちになっている。	市全体	11.3%	+4.6%
市民生活の安全	事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にくらしをまねかせるまちになっている。	31年以上	13.8%	+5.9%
子育て支援	必要なときに健康相談を受けたり、病院に行けたり、安心して子どもを生み育てることができる。	右京区	35.0%	+15.5%
学校教育	学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとびとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。	主婦・主夫	19.1%	-19.1%
歩くまち	地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。	5～11年未満	36.0%	+17.0%
景観	大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えてきている。	若年層女性	27.4%	+15.9%
建築物	地震や火災に強い建物が増えている。	31年以上	13.5%	+6.4%
くらしの水	京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。	北区	33.1%	+15.0%

I 政策分野別の考察について

I 政策分野別の考察について

27の政策分野ごとに5年間の生活実感と3年間の政策重要度の回答結果の推移などからその分野の時系列変化と全体の中での位置づけとして読み取れる事実や課題をまとめた。

<表の見方>

①生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	②政策 重要度	H25	H26	H27
	〇〇%	〇〇%	〇〇%	〇〇%	〇〇%		〇〇%	〇〇%	〇〇%
③【考察】									
.....									
.....									
.....									

- ① 当該分野における生活実感の設問の肯定的回答（「そう思う」と「どちらかというと思う」を足し合わせたもの）の各年の値
- ② 当該分野における政策重要度の肯定的回答（「重要である」と「どちらかという重要である」を足し合わせたもの）の各年の値
- ③ 市全体と世代別・性別の観点を中心に、行政区別を一部含めて、当該分野の時系列変化や全体の中での位置づけ、課題等を記述

考察の中で言及した設問はグラフを掲載しているので、ご確認いただきたい。

1 環境

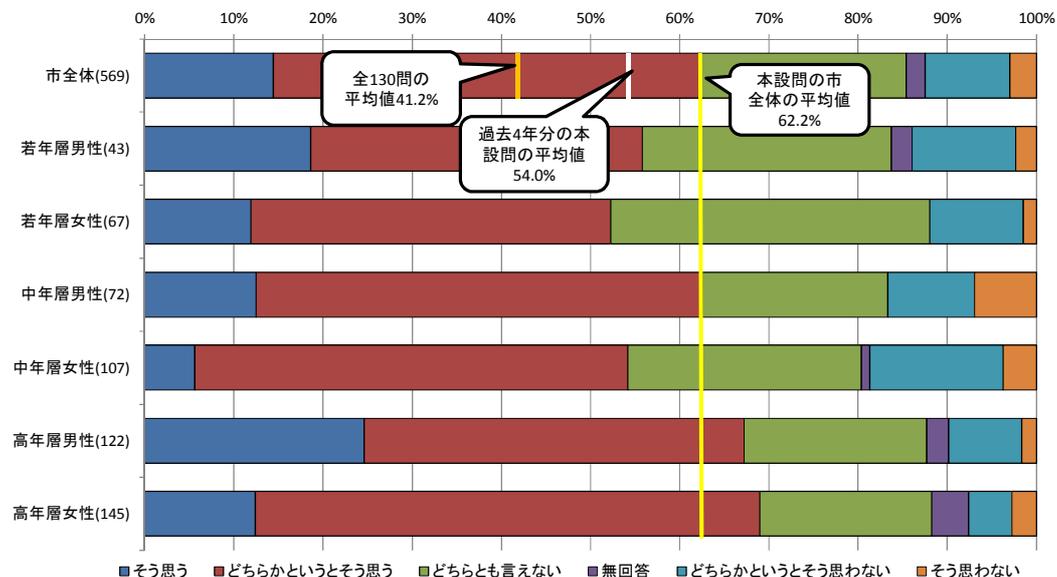
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	50.3%	46.9%	50.9%	50.1%	50.8%		88.7%	89.0%	89.1%

【考察】

- 生活実感、政策重要度も例年と同様に高い順位（8位、4位）であった。
- 設問2「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。」と設問5「京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。」の生活実感は、ともに市全体で過去4年間の平均値と比較して肯定的回答の割合が大きく上昇した（54.0%→62.2%、25.2%→32.5%）。
- 若年層は男女とも肯定的回答の割合がおおむね低かった。とりわけ設問3「省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。」の生活実感は若年層だけが大幅に低く、若年層をターゲットにした施策によって底上げを図ることができる可能性がある。
- 政策重要度も、全体的に高い中で、若年層男性が最も低かった（81.0%）。

1 環境 生活実感（世代別・性別）

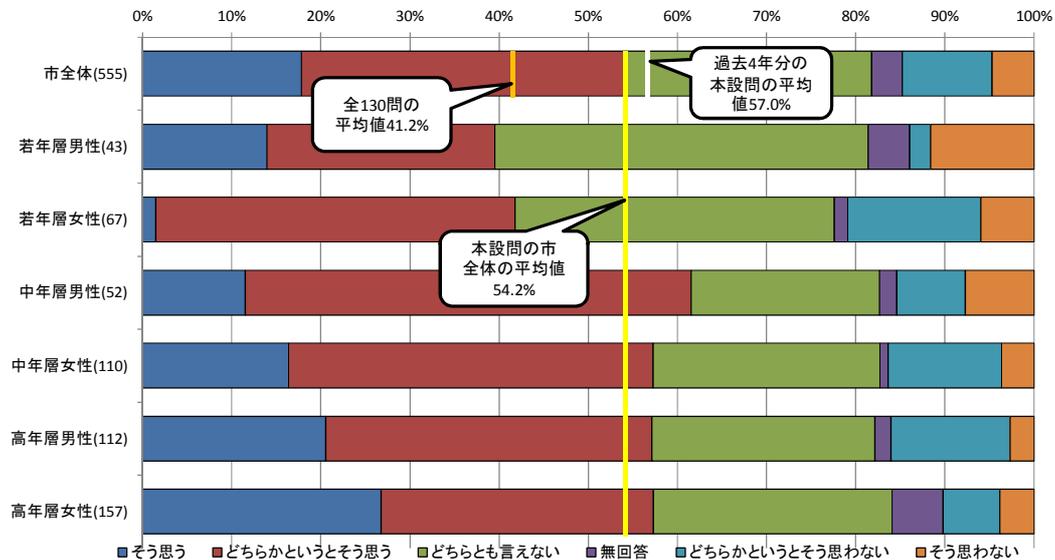
設問2：「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。



- 設問2の生活実感は、市全体で過去4年間の平均値と比較して肯定的回答の割合が大きく上昇した（54.0%→62.2%）。

1 環境 生活実感（世代別・性別）

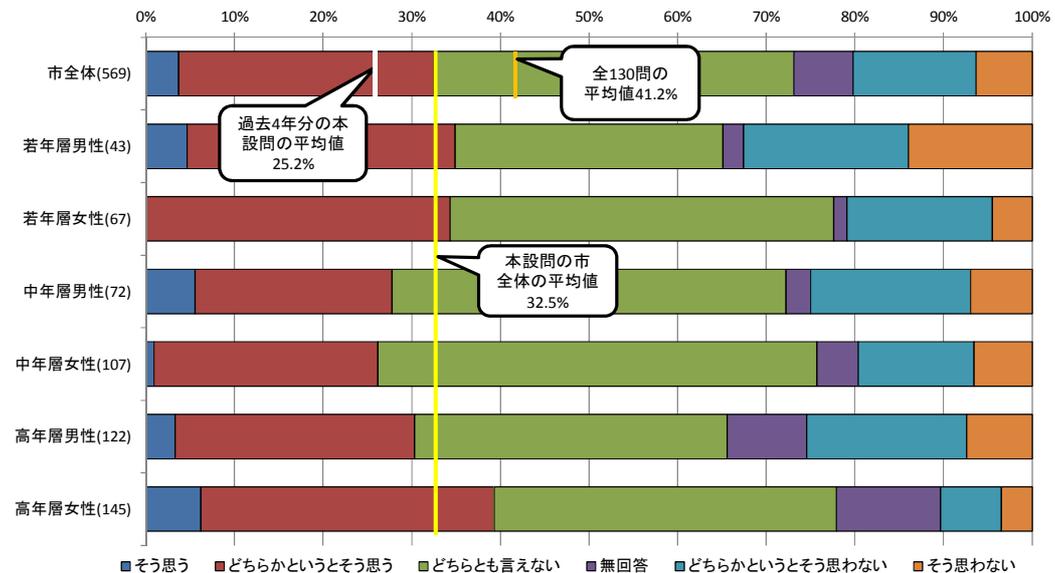
設問3：省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。



・設問3の生活実感は、若年層だけ肯定的回答の割合が大幅に低く、若年層をターゲットにした施策によって底上げを図ることができる可能性がある。

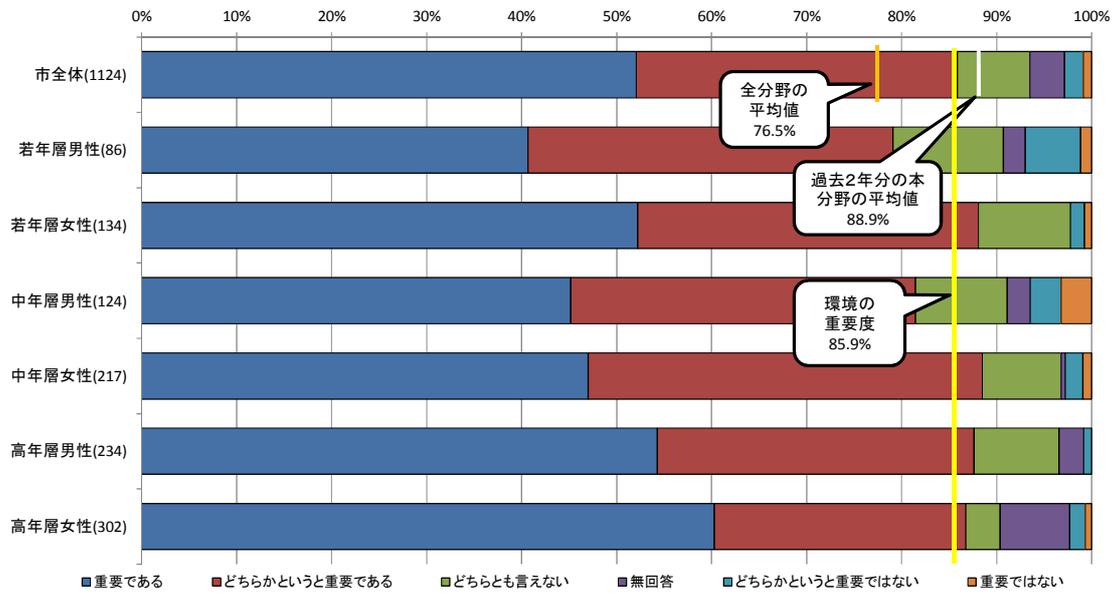
1 環境 生活実感（世代別・性別）

設問5：京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。



・設問5の生活実感は、市全体で過去4年間の平均値と比較して肯定的回答の割合が大きく上昇した（25.2%→32.5%）。

1 環境 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度も、全体的に高い中で、若年層男性が最も低かった（81.0%）。

2 人権・男女共同参画

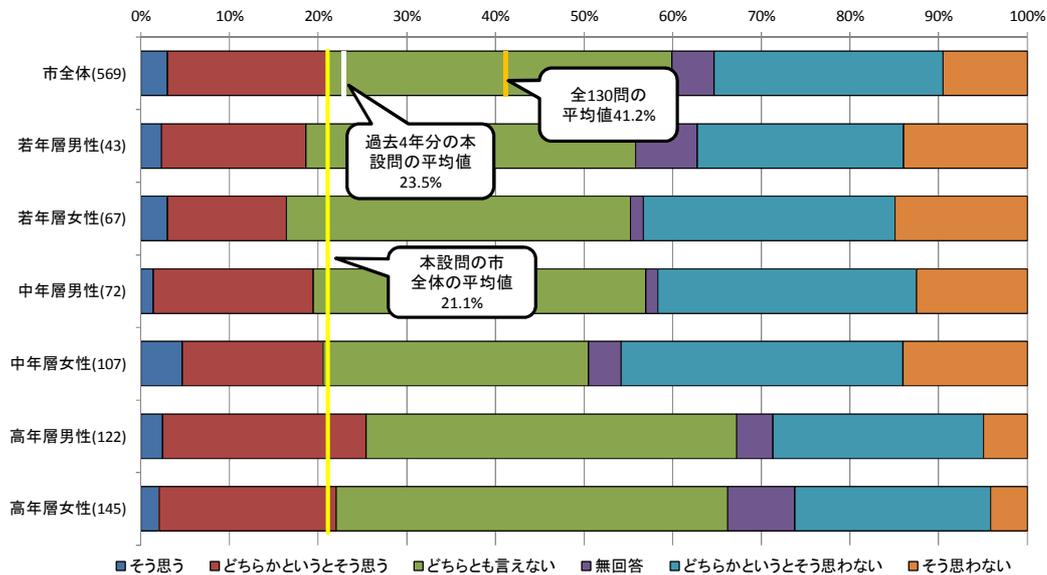
生活実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策重要度	H25	H26	H27
	23.5%	20.5%	23.1%	23.8%	23.7%		81.6%	82.8%	81.4%

【考察】

- ・生活実感の順位は低かった（24位）が、政策重要度は中位（14位）であった。
- ・市全体の生活実感の肯定的回答割合はすべての設問であまり変化がなかったが、設問3「女性も男性も、仕事と生活（家庭や地域活動など）をバランスよく充実できる社会になってきている。」が微減となっていることには注意を要する。
- ・設問4「女性に対する暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。」は、これまでと同様に中年層女性の肯定的回答割合が20%にも満たないなど女性の生活実感が低い反面、中年層男性・高年層男性は肯定的回答割合が高く（30.8%、28.6%）、意識の差が見られる。

2 人権・男女共同参画 生活実感（世代別・性別）

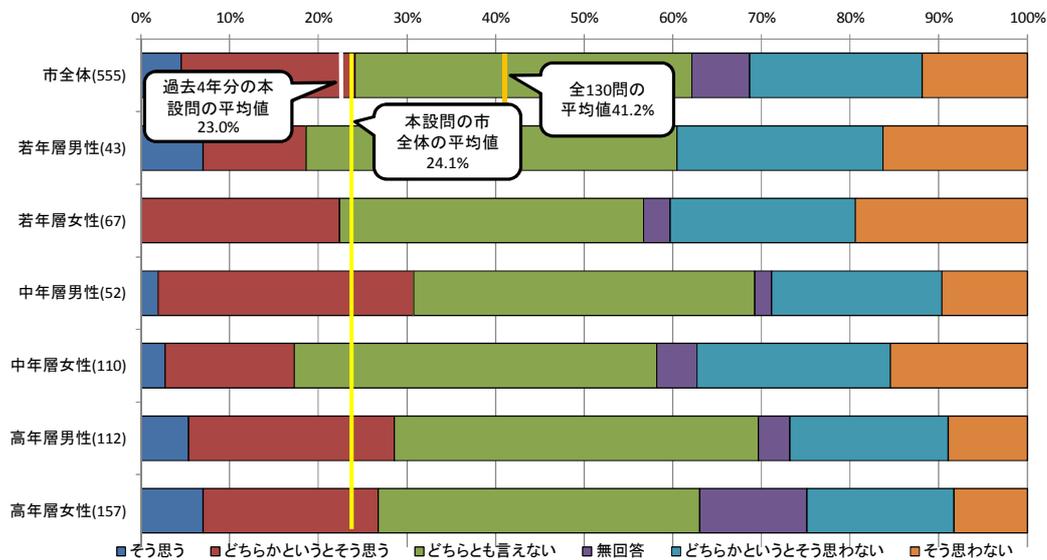
設問3：女性も男性も、仕事と生活（家庭や地域活動など）をバランスよく充実できる社会になってきている。



・ 設問3の生活実感が微減となっていることには注意を要する。

2 人権・男女共同参画 生活実感（世代別・性別）

設問4：女性に対する暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。



・ 設問4は、これまでと同様に中年層女性の肯定的回答な割合が20%にも満たないなど女性の生活実感が低い反面、中年層男性・高年層男性は肯定的回答割合が高く（30.8%、28.6%）、意識の差が見られる。

3 青少年の成長と参加

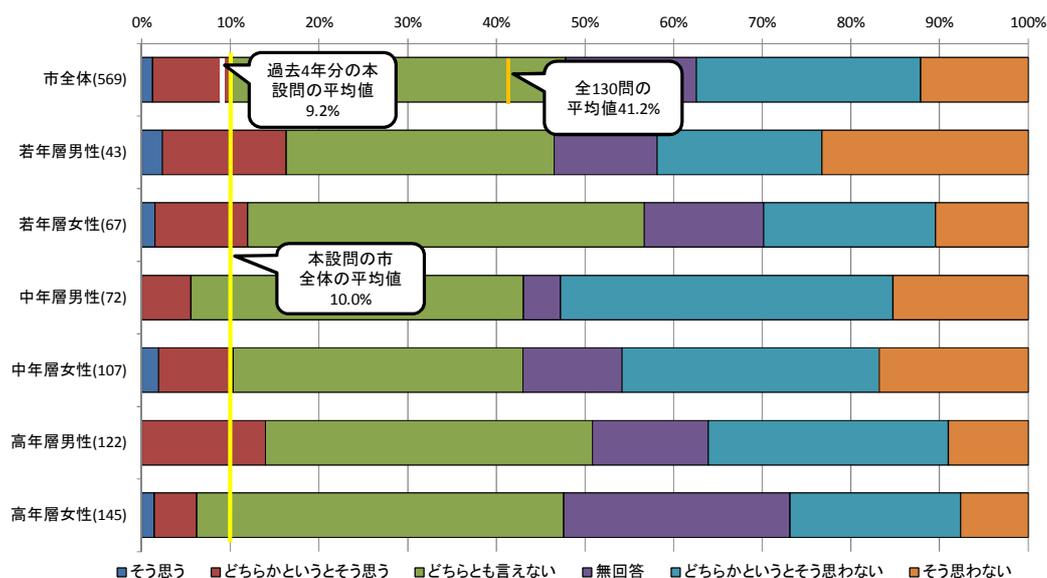
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	12.5%	11.2%	13.2%	13.9%	13.0%		72.6%	81.4%	85.2%

【考察】

- ・この政策分野の生活実感は過去4年間の平均値と比較して、市全体でわずかに増加した（12.7%→13.0%）ものの、全分野での順位は最下位のままである。
- ・設問2「青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。」の生活実感で中年層男性が50%以上の否定的回答割合（「そう思わない」と「どちらかというと思わない」の合計）だったのを筆頭に、設問3「青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が生かされている。」で若年層男性も50%近い否定的回答割合を示したように、この分野は全体的に否定的回答割合が高かった。
- ・すべての設問の生活実感で「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた割合が50%に近く、非常に高かったことも、この分野の特徴である。

3 青少年の成長と参加 生活実感（世代別・性別）

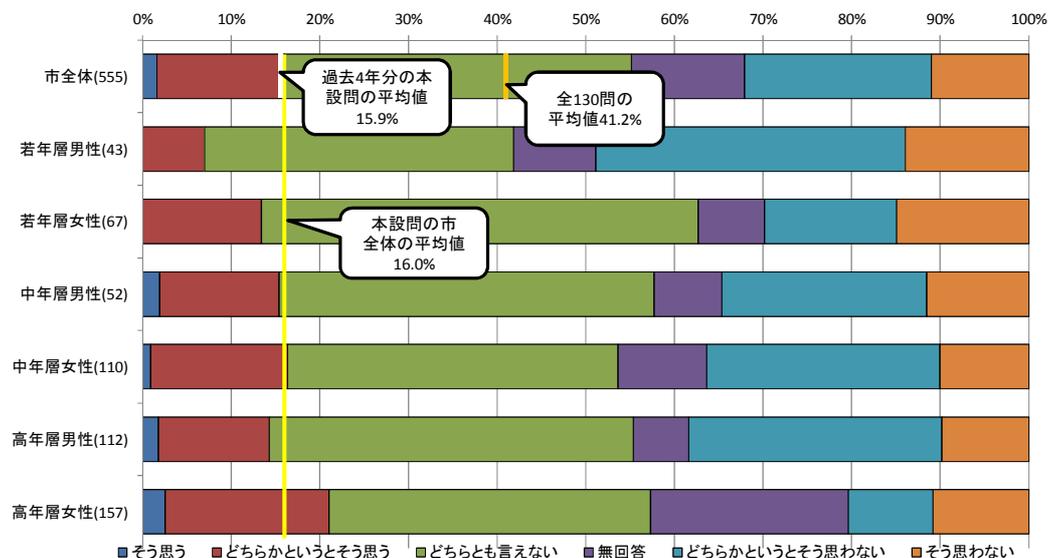
設問2：青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。



- ・設問2の生活実感は、中年層男性が50%以上の否定的回答割合（「そう思わない」と「どちらかというと思わない」の合計）だった。

3 青少年の成長と参加 生活実感（世代別・性別）

設問3：青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が活かされている。



・設問3の生活実感では、若年層男性が50%近い否定的回答割合を示した。

4 市民生活とコミュニティ

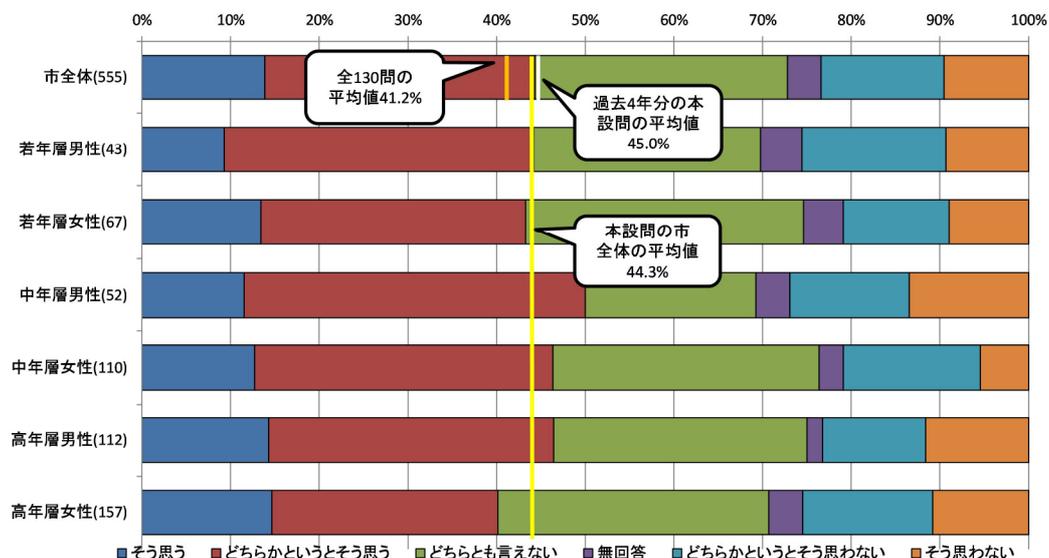
生活実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策重要度	H25	H26	H27
	36.9%	35.2%	38.2%	38.4%	38.6%		81.3%	79.1%	82.6%

【考察】

- 生活実感の市全体の平均値を見ると、設問2「町内会、自治会など地域の組織の活動が盛んである。」以外の項目は、過去4年と比較して肯定的回答割合が上昇している。
- 設問3「地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。」の生活実感、各区のまちづくりカフェ事業といった市の積極的な取組もあって肯定的回答割合は伸びてきているものの、全130問の平均値（41.2%）よりも低い（31.9%）状況である。
- 設問4「多様なNPOやボランティア組織と町内会・自治会などの地域の組織が協力して活動している。」の生活実感、上の世代ほど肯定的回答割合が高く、またいずれの世代でも男性より女性のほうが肯定的回答の割合が高かった。政策分野3「青少年の成長と参加」や政策分野15「地域福祉」などの状況と重ねてみると、地域活動の担い手が高齢化している姿が垣間見える。

4 市民生活とコミュニティ 生活実感（世代別・性別）

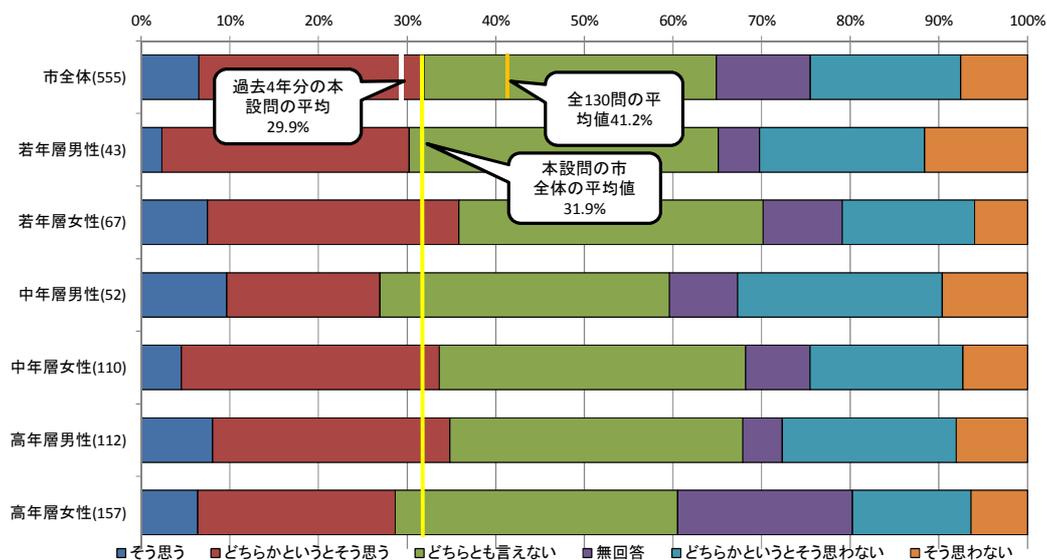
設問2：町内会、自治会など地域の組織の活動が盛んである。



・設問2の生活実感は、この分野で唯一、過去4年間の平均値と比較して肯定的回答割合が低下した。

4 市民生活とコミュニティ 生活実感（世代別・性別）

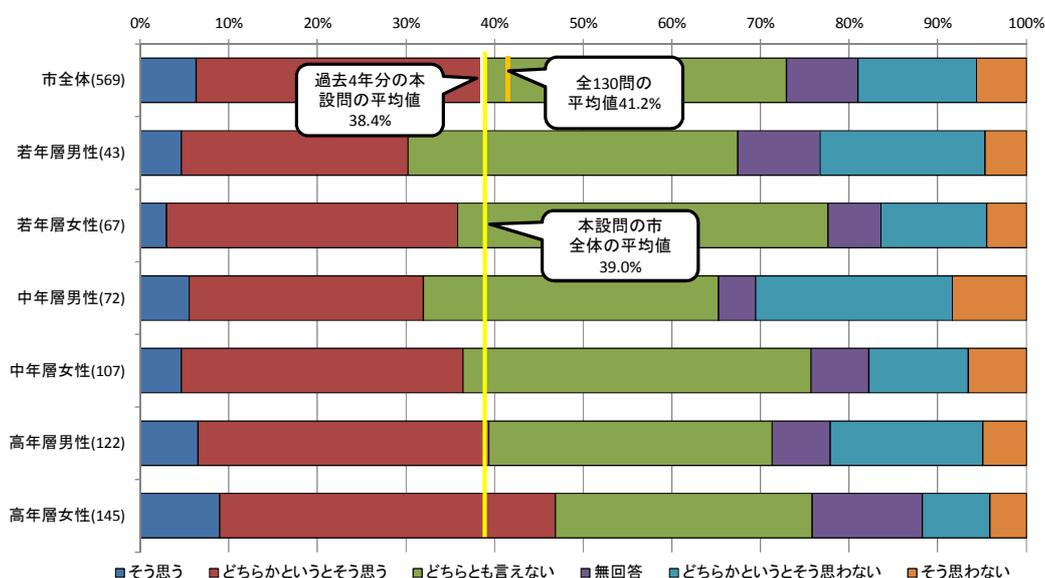
設問3：地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。



・設問3の生活実感は、各区のまちづくりカフェ事業といった市の積極的な取組もあって肯定的回答割合は伸びてきているものの、全130問の平均値（41.2%）よりも低い（31.9%）状況である。

4 市民生活とコミュニティ 生活実感（世代別・性別）

設問4：多様なNPOやボランティア組織と町内会・自治会などの地域の組織が協力して活動している。



・設問4の生活実感は、上の世代ほど肯定的回答割合が高く、またいずれの世代でも男性より女性のほうが肯定的回答の割合が高かった。

5 市民生活の安全

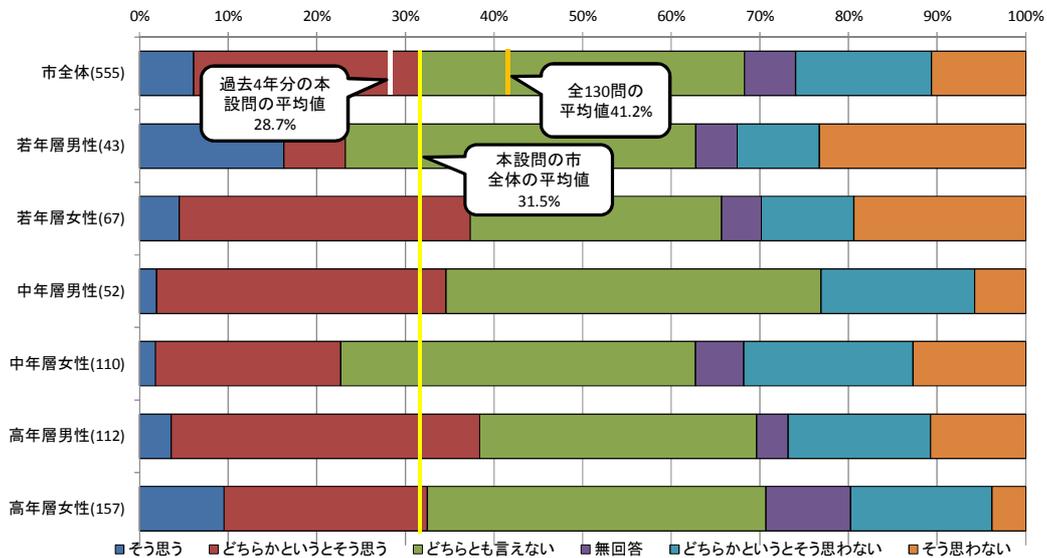
生活実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策重要度	H25	H26	H27
	30.8%	27.0%	31.5%	30.3%	31.4%		88.7%	88.6%	90.1%

【考察】

- ・政策重要度の順位は高かった（3位）が、生活実感は低かった（20位）。
- ・設問1「犯罪や事故など万が一のことがあっても、お互いに助け合えるまちである。」と設問2「事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にくらせるまちになっている」の生活実感は、若年層男性と中年層女性の肯定的回答割合が他の世代別・性別の回答割合と比べてやや低かった。
- ・設問3「悪質商法などによる消費者被害を防止し、被害を救済するしくみが整っている。」の生活実感は、市全体で肯定的回答割合が低かったが（20.4%）、その中でも特に中年層男性が低かった（12.5%）。
- ・設問4「消費生活に関する情報や知識を備えた自立した消費者が増えている。」の生活実感の肯定的回答割合は高年層が男女とも最も高く、上の世代ほど高いという結果が見られた。

5 市民生活の安全 生活実感（世代別・性別）

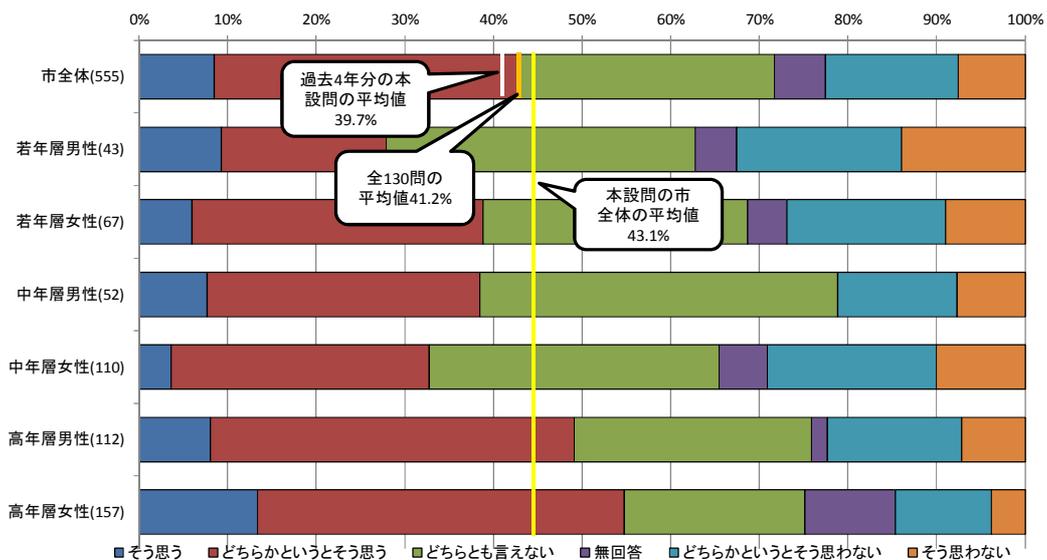
設問1：犯罪や事故など万が一のことがあっても、お互いに助け合えるまちである。



・設問1の生活実感は、若年層男性と中年層女性の肯定的回答割合が他の世代別・性別の回答割合と比べてやや低かった。

5 市民生活の安全 生活実感（世代別・性別）

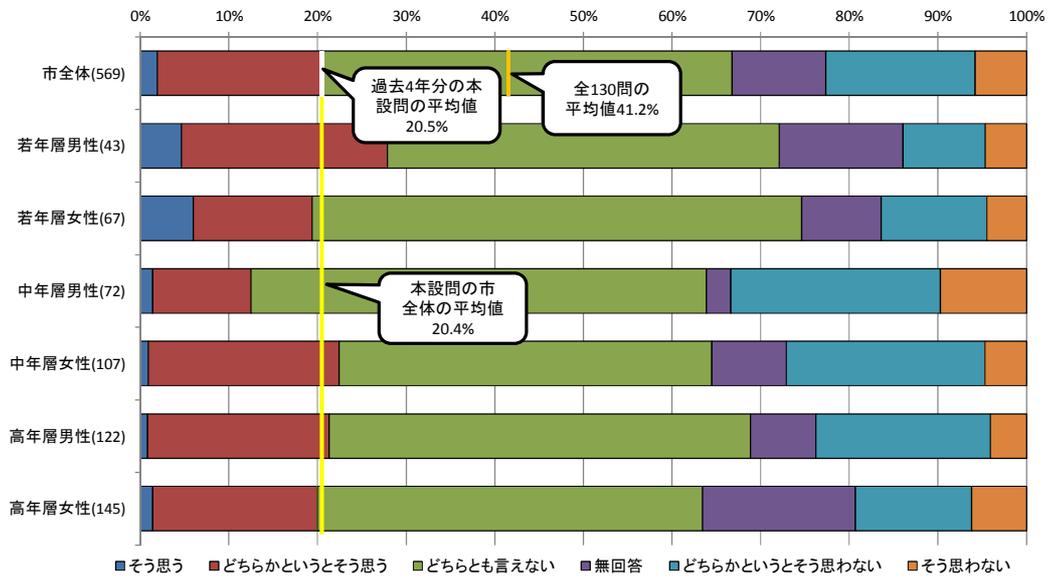
設問2：事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にさせるまちになっている。



・設問2の生活実感は、若年層男性と中年層女性の生活実感の肯定的回答割合が他の世代別・性別の回答割合と比べてやや低かった。

5 市民生活の安全 生活実感（世代別・性別）

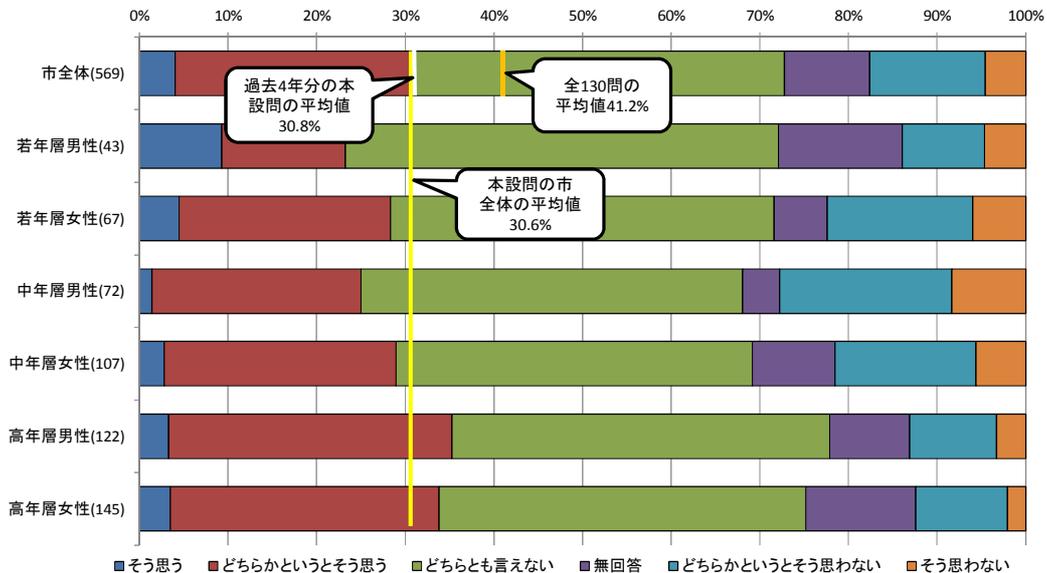
設問3：悪質商法などによる消費者被害を防止し、被害を救済するしくみが整っている。



・設問3の生活実感は市全体で肯定的回答割合が低かったが（20.4%）、その中でも特に中年層男性が低かった（12.5%）。

5 市民生活の安全 生活実感（世代別・性別）

設問4：消費生活に関する情報や知識を備えた自立した消費者が増えている。



・設問4の生活実感の肯定的回答割合は、高年層が男女とも最も高く、上の世代ほど高いという結果が見られた。

6 文化

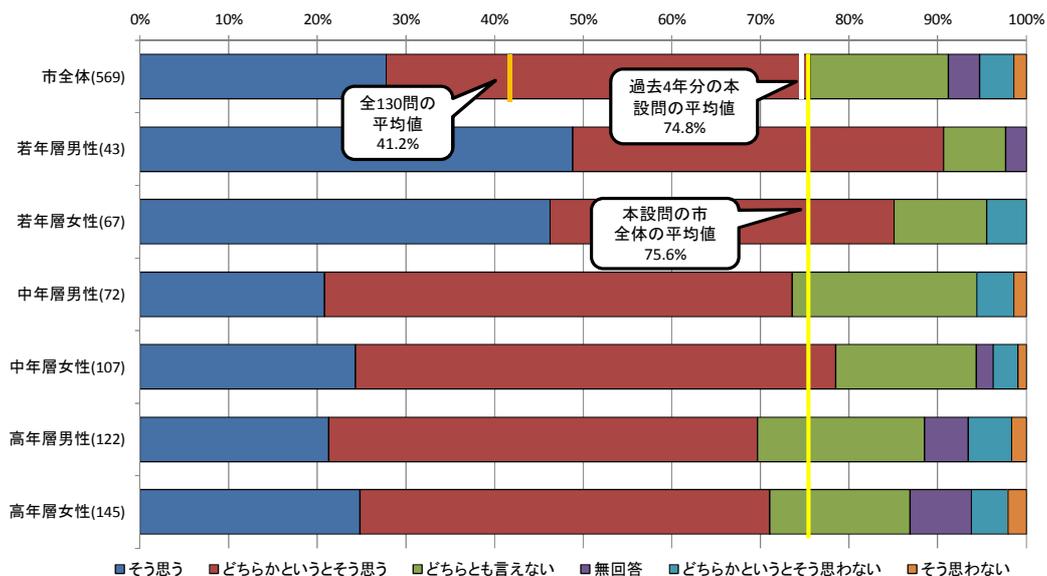
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	52.7%	53.5%	57.5%	57.1%	57.9%		77.1%	77.6%	78.7%

【考察】

- ・設問1「京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。」の生活実感の肯定的回答割合は、属性にかかわらず概ね高く（約75%）、中でも若年層の男女が高かった（90.7%、85.1%）。
- ・設問2「市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。」の生活実感、いずれの世代も男性より女性のほうが肯定的回答割合が高かった。
- ・設問3「文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。」の生活実感の肯定的回答割合は、若年層の高さが突出している一方、上の世代ほど低くなっている。
- ・政策重要度は、若年層の男女で回答の差が大きい（80.2%、68.7%）ことが特徴である。

6 文化 生活実感（世代別・性別）

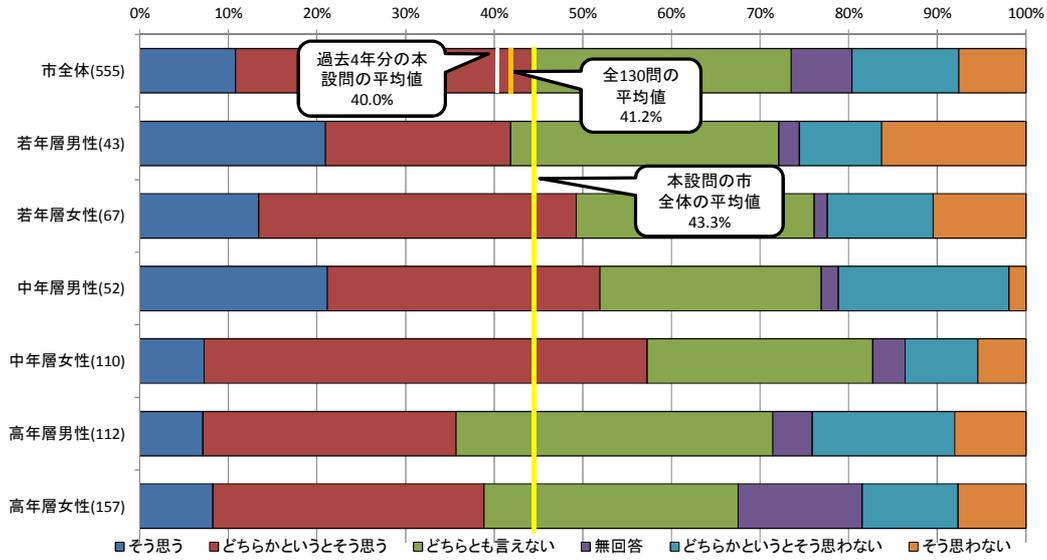
設問1：京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。



- ・設問1の生活実感の肯定的回答割合は、属性にかかわらず概ね高く（約75%）、中でも若年層の男女が高かった（90.7%、85.1%）。

6 文化 生活実感（世代別・性別）

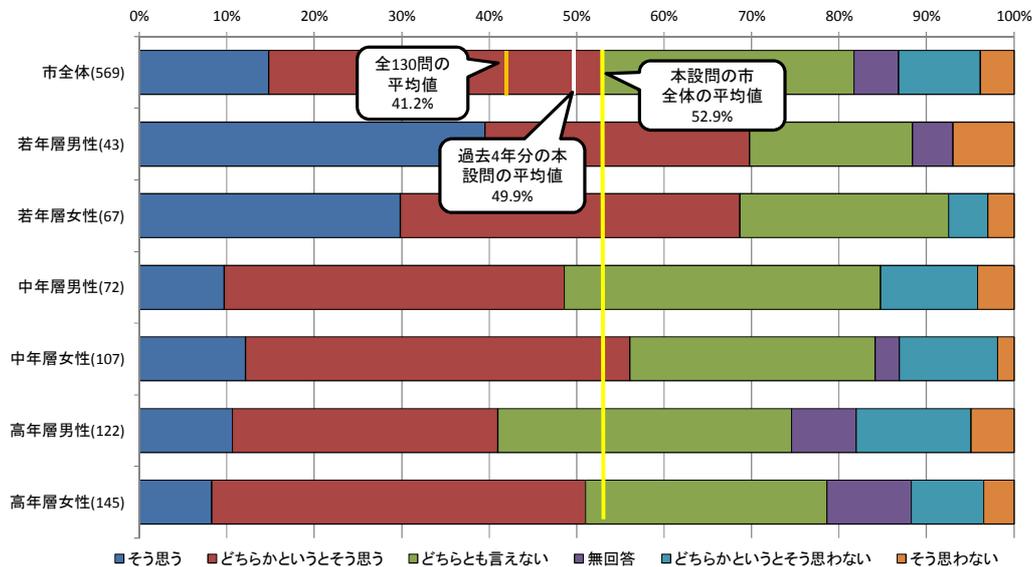
設問2：市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。



・設問2の生活実感は、いずれの世代も男性より女性のほうが肯定的回答割合が高かった。

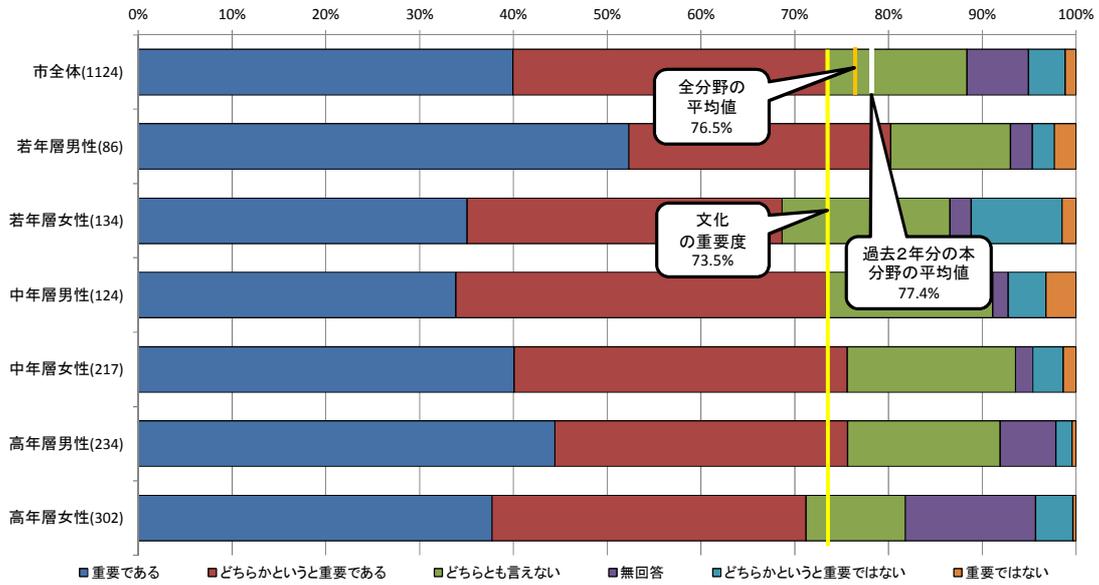
6 文化 生活実感（世代別・性別）

設問3：文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。



・設問3の生活実感の肯定的回答割合は、若年層の高さが突出している一方、上の世代ほど低くなっている。

6 文化 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度は、若年層の男女で回答の差が大きい（80.2%、68.7%）ことが特徴である。

7 スポーツ

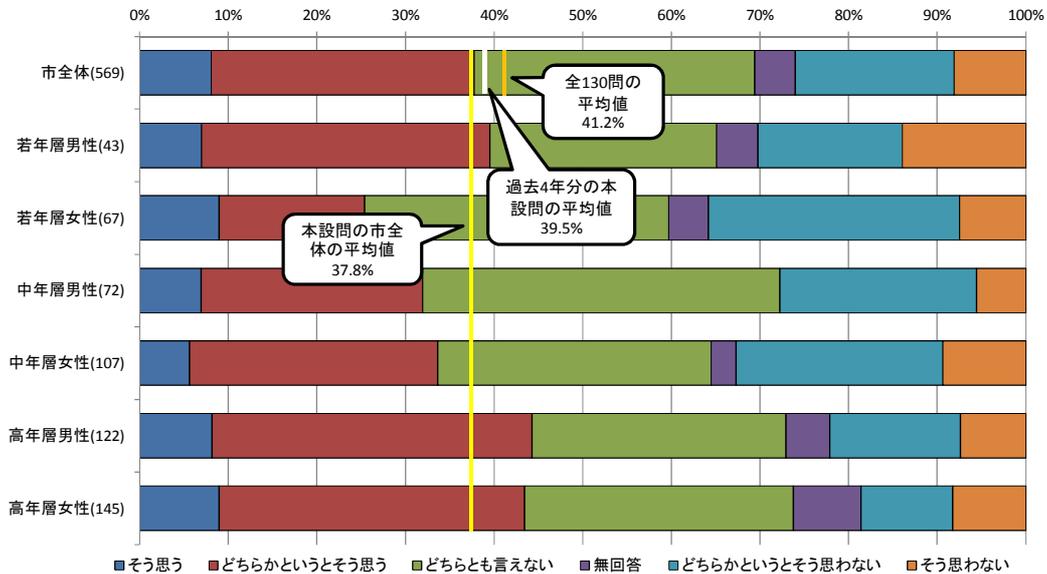
生活実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策重要度	H25	H26	H27
	28.9%	28.2%	31.2%	30.5%	28.8%		63.9%	64.3%	65.2%

【考察】

- ・生活実感、政策重要度ともに順位が低く（22位、26位）、市として注力していくべき政策分野であるかどうかは一考を要するのではないかと。
- ・設問1「気軽に体を動かしたり、スポーツやレクリエーションを楽しんだりする機会がある。」の生活実感は若年層女性の肯定的回答割合が低かった（25.4%。市全体は37.8%）。
- ・設問2「プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。」の生活実感は、肯定的回答割合が総じて低い（毎年16%程度）。
- ・設問3「スポーツイベントや運動会、レクリエーションなどの活動を、スタッフやボランティアとして支えるひとが増えている。」の生活実感は、「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた割合が高かった（48.0%）。

7 スポーツ 生活実感（世代別・性別）

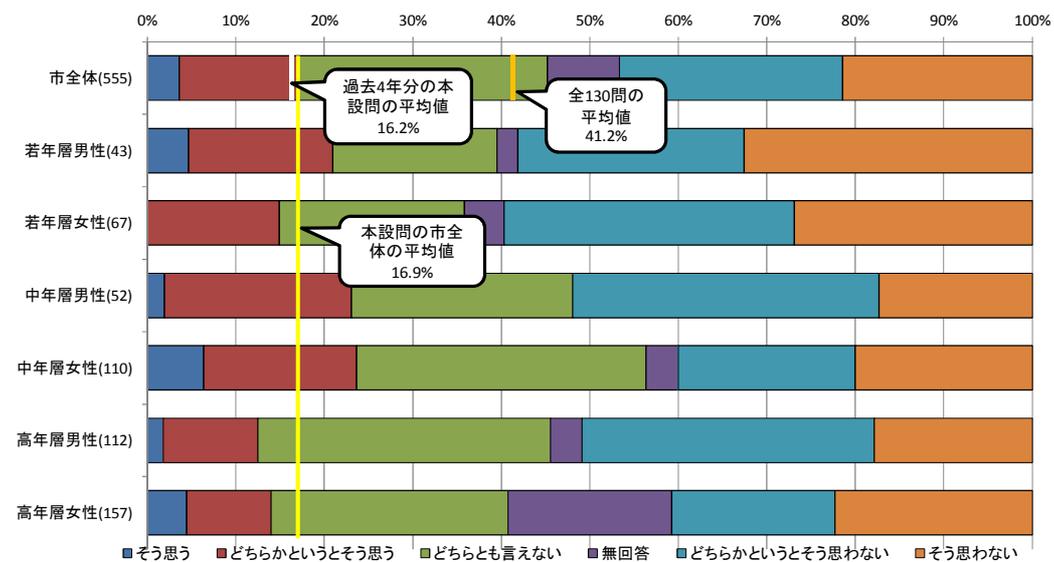
設問1：気軽に体を動かしたり、スポーツやレクリエーションを楽しんだりする機会がある。



・設問1の生活実感は、若年層女性の肯定的回答割合が低かった（25.4%。市全体は37.8%）。

7 スポーツ 生活実感（世代別・性別）

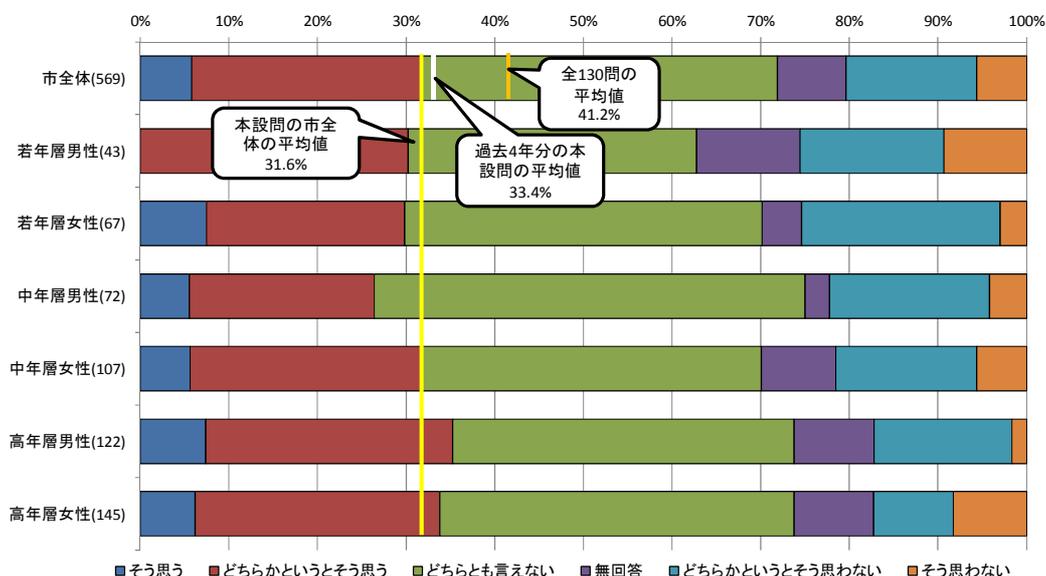
設問2：プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。



・設問2の生活実感は、肯定的回答割合が総じて低い（毎年16%程度）。

7 スポーツ 生活実感（世代別・性別）

設問3：スポーツイベントや運動会、レクリエーションなどの活動を、スタッフやボランティアとして支えるひが増えている。



・設問3の生活実感は、「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた割合が高かった（48.0%）。

8 産業・商業

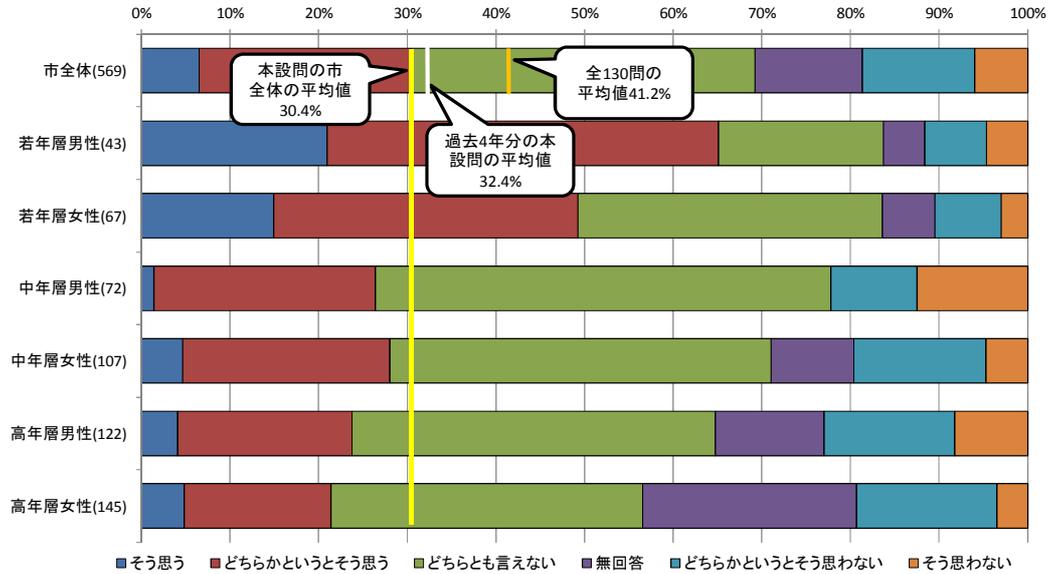
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	37.7%	34.7%	37.8%	38.4%	38.5%		70.6%	67.7%	73.1%

【考察】

- ・生活実感の順位は比較的高かった（11位）が、生活重要度は低かった（23位）。
- ・設問4「京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。」の生活実感、若年層男女の肯定的回答割合が高かった（65.1%、49.3%。市全体は30.4%）ものの、上の世代ほど低くなっている。行政区別でみると山科区の低さが突出している（8.1%）。
- ・設問5「働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。」の生活実感、市全体の肯定的回答の割合が低かった（11.8%）。その中では若年層男性の肯定的回答割合が高かった（27.9%）一方、中年層男性は著しく低く（2.8%）、否定的な回答割合も高い。勤労世帯の働き手の中心と思われる中年層男性の生活実感の低さから、労働環境や就職環境の厳しさが垣間見える。
- ・設問6「京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている」の生活実感の肯定的回答割合は、上記とは逆に中年層男性が高かった（55.8%）が、若年層男性が低かった（34.9%）。

8 産業・商業 生活実感（世代別・性別）

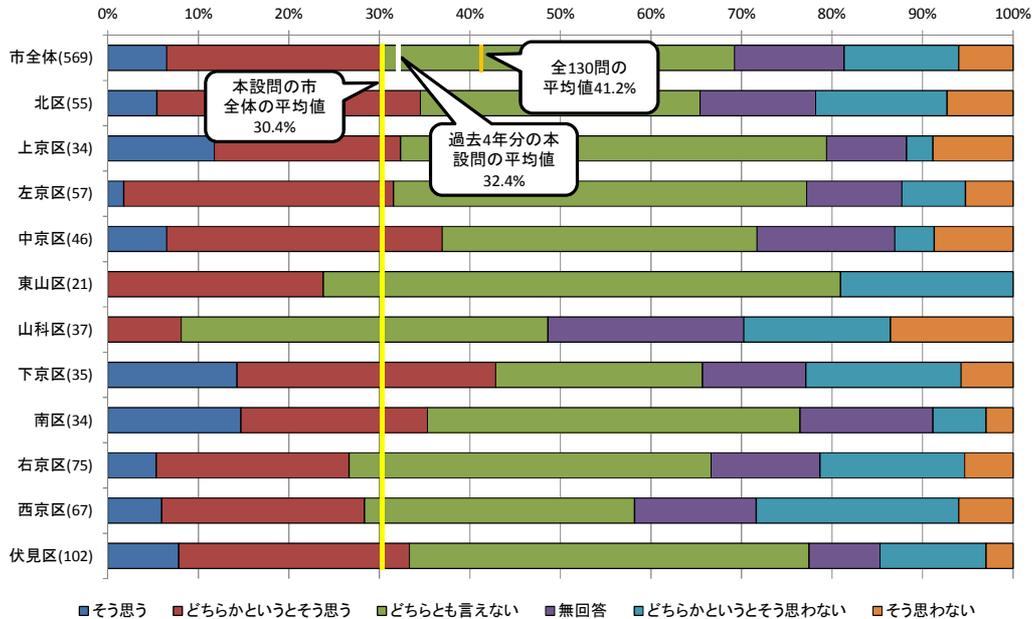
設問4：京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。



・設問4の生活実感は、若年層男女の肯定的回答割合が高かった（65.1%、49.3%。市全体は30.4%）ものの、上の世代ほど低くなっている。

8 産業・商業 生活実感（居住区別）

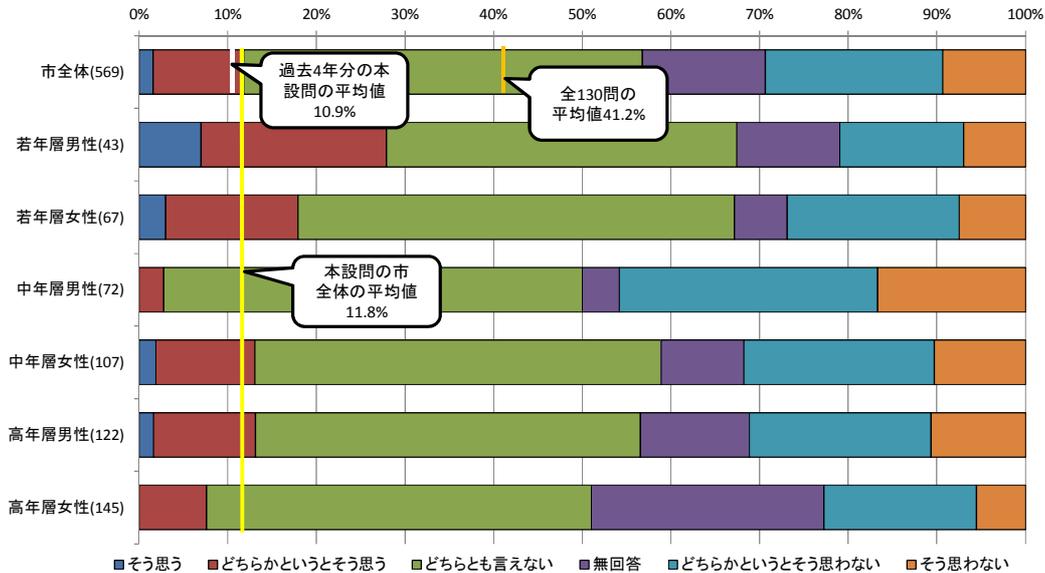
設問4：京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。



・設問4の生活実感は、行政区別でみると山科区の低さが突出している（8.1%）。

8 産業・商業 生活実感（世代別・性別）

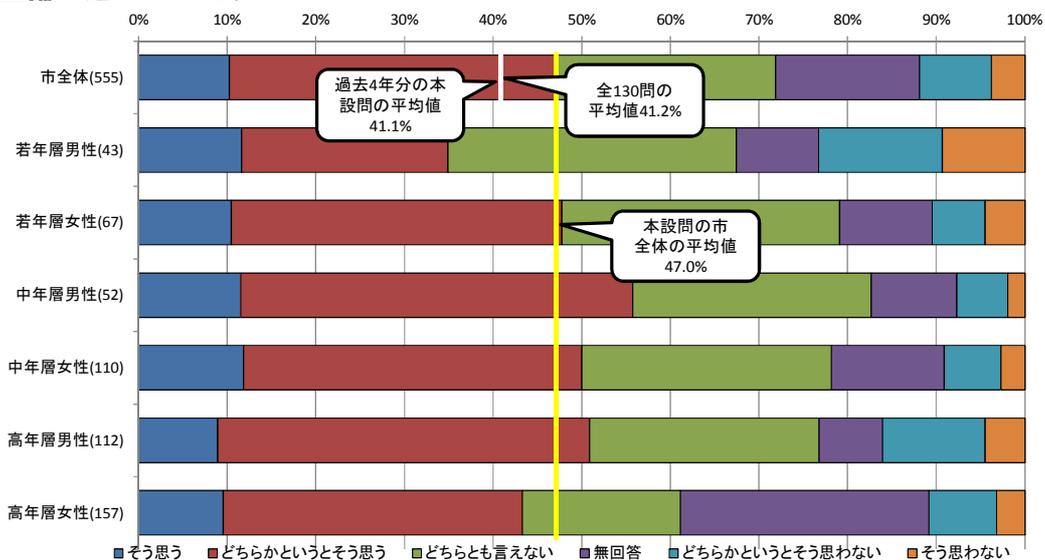
設問5：働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。



・設問5の生活実感は市全体の肯定的回答割合が低かった（11.8%）。その中で若年層男性の肯定的回答割合が高かった（27.9%）一方、中年層男性は著しく低く（2.8%）、否定的な回答割合も高い。勤労世帯の働き手の中心と思われる中年層男性の生活実感の低さから、労働環境や就職環境の厳しさが垣間見える。

8 産業・商業 生活実感（世代別・性別）

設問6：京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている。



・設問6の生活実感は、中年層男性が高かった（55.8%）ことと対照的に、若年層男性が低かった（34.9%）。

9 観光

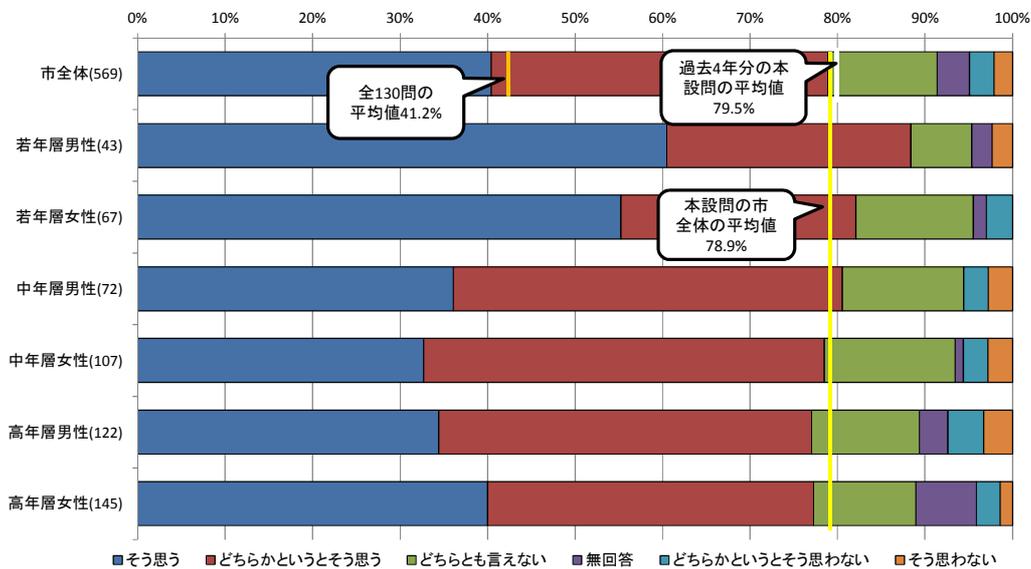
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	58.2%	56.0%	59.8%	61.2%	60.2%		77.7%	78.4%	79.0%

【考察】

- ・生活実感の順位は高かった（2位）が、政策重要度は比較的lowだった（17位）。
- ・設問2「京都は、観光客にとって質の高い観光都市である」の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が高かった（88.4%）が、設問3「京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる」は若年層男性の肯定的回答割合が低かった（44.2%）。
- ・設問4「京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。」の生活実感は、全130問の平均値と比べると肯定的回答割合が高い（50.8%）ものの、過去4年間の平均（56.1%）と比べると大きく低下しており、また多くの観光資源が存する東山区の肯定的回答割合は特に低かった（38.1%）。
- ・設問6「子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。」の生活実感は、どの世代でも女性より男性の肯定的回答割合が低かったが、特に高年層男性の肯定的回答割合が低かった（49.1%）。
- ・設問7「京都は、国際会議などが盛んに開かれるMICE都市になってきている。」の生活実感は、「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた割合が高かった（約50%）。

9 観光 生活実感（世代別・性別）

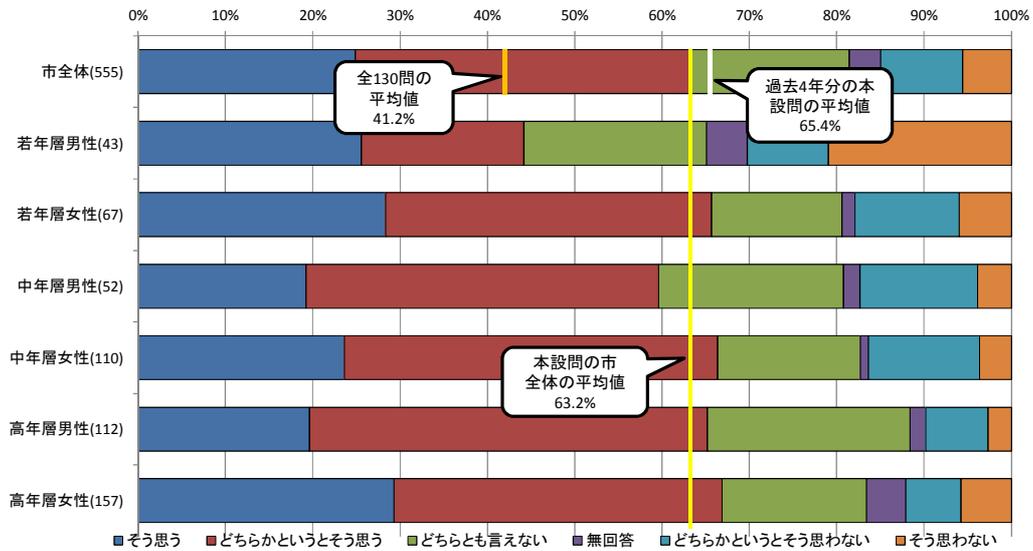
設問2：京都は、観光客にとって質の高い観光都市である。



- ・設問2の生活実感、若年層男性の肯定的回答割合が高かった（88.4%）。

9 観光 生活実感（世代別・性別）

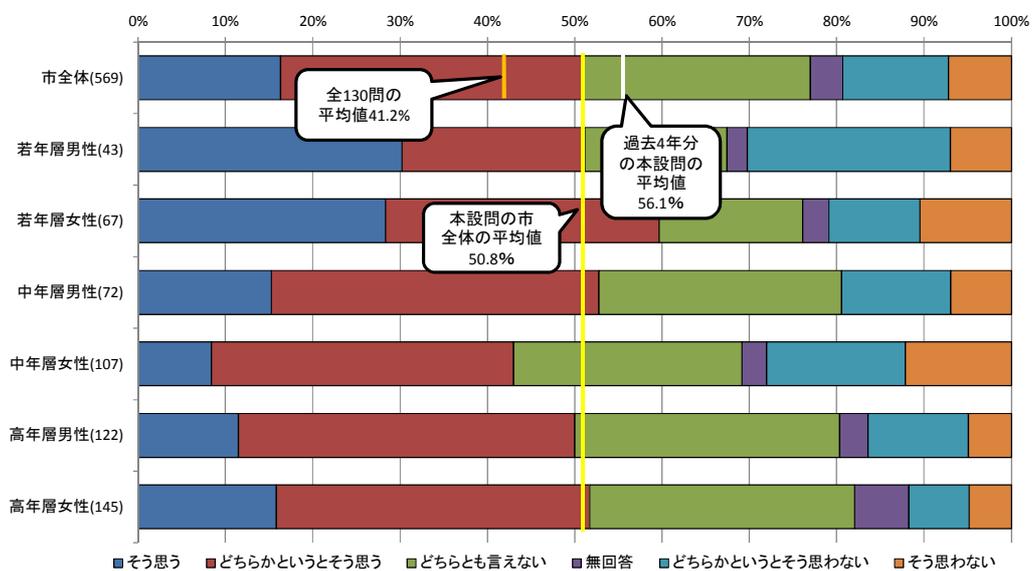
設問3：京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる。



・設問3の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が低かった（44.2%）。

9 観光 生活実感（世代別・性別）

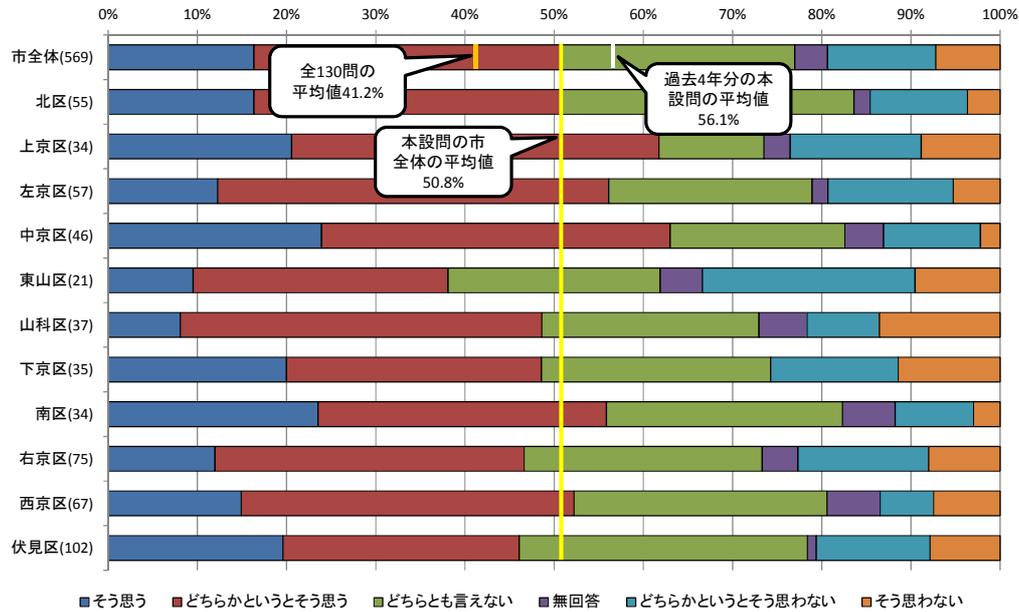
設問4：京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。



・設問4の生活実感は、全130問の平均値と比べると肯定的回答割合が高い（50.8%）ものの、過去4年間の平均（56.1%）と比べると大きく低下している。

9 観光 生活実感（居住区別）

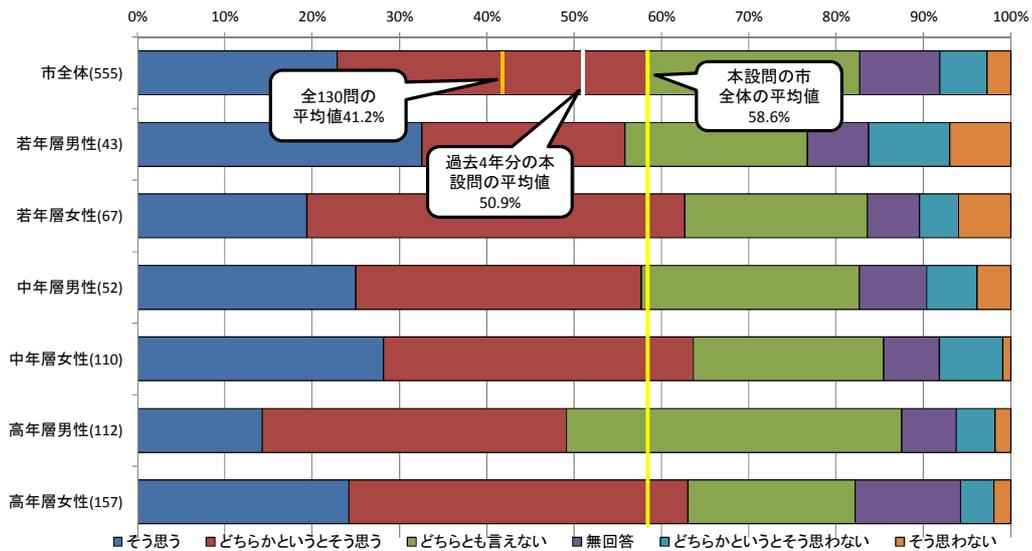
設問4：京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。



・設問4の生活実感は、多くの観光資源が存する東山区の肯定的回答割合が特に低かった（38.1%）。

9 観光 生活実感（世代別・性別）

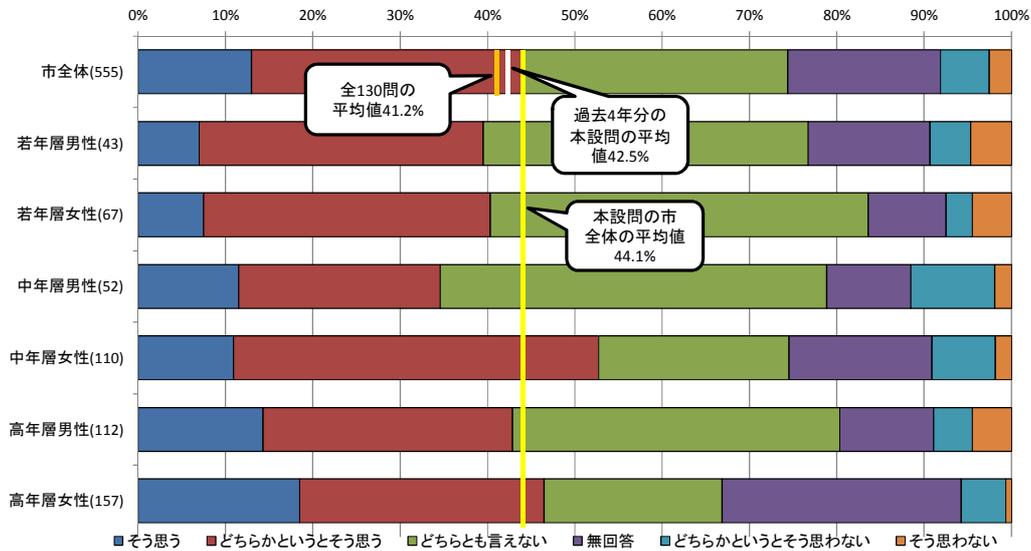
設問6：子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。



・設問6の生活実感は、どの世代でも女性より男性の肯定的回答割合が低かったが、特に高年層男性の肯定的回答割合が低かった（49.1%）。

9 観光 生活実感（世代別・性別）

設問7：京都は、国際会議などが盛んに開かれるMICE都市になってきている。



・設問7の生活実感は、「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた割合が高かった（約50%）。

10 農林業

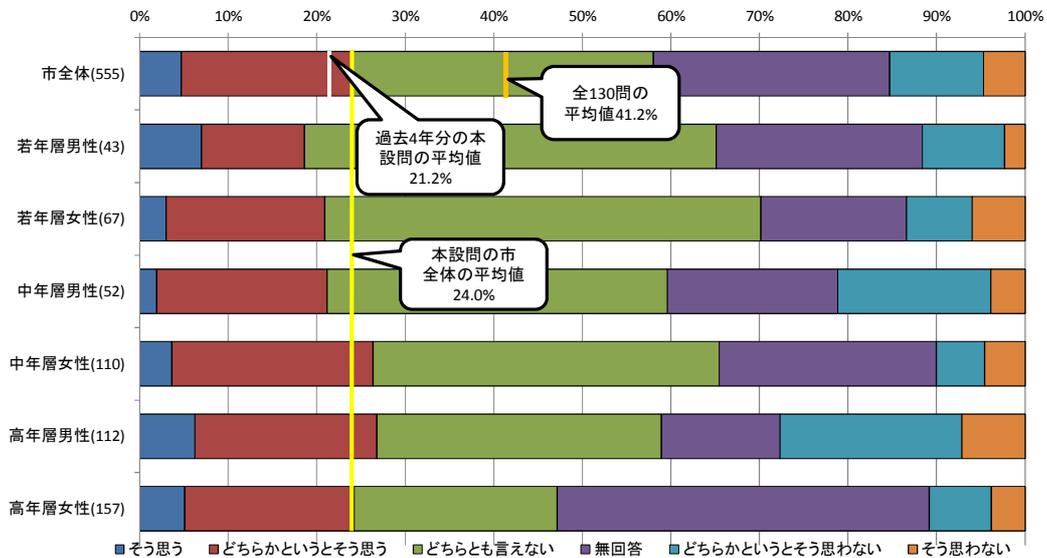
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	17.0%	12.0%	14.0%	14.4%	14.7%		70.5%	69.7%	71.9%

【考察】

- ・生活実感、政策重要度ともに順位がきわめて低かった（26位、25位）。
- ・生活実感は全体的に否定的回答割合が高いものの、設問2「京都の農林業は、環境に負荷をかけない栽培の取組や森林の整備を通して、地域社会に役立っている。」は肯定的回答割合が比較的高かった（24.0%）ことが特徴である。
- ・設問3「市民農園や森林を守る運動、学校の体験学習などにより、京都の農林業が身近になってきている。」の生活実感は、市全体で肯定的回答割合が低かった（13.0%）が、若年層の男女は比較的高かった（16.3%、20.9%）。
- ・政策重要度は若年層男性の肯定的回答割合が特に低かった（55.8%）。

10 農林業 生活実感（世代別・性別）

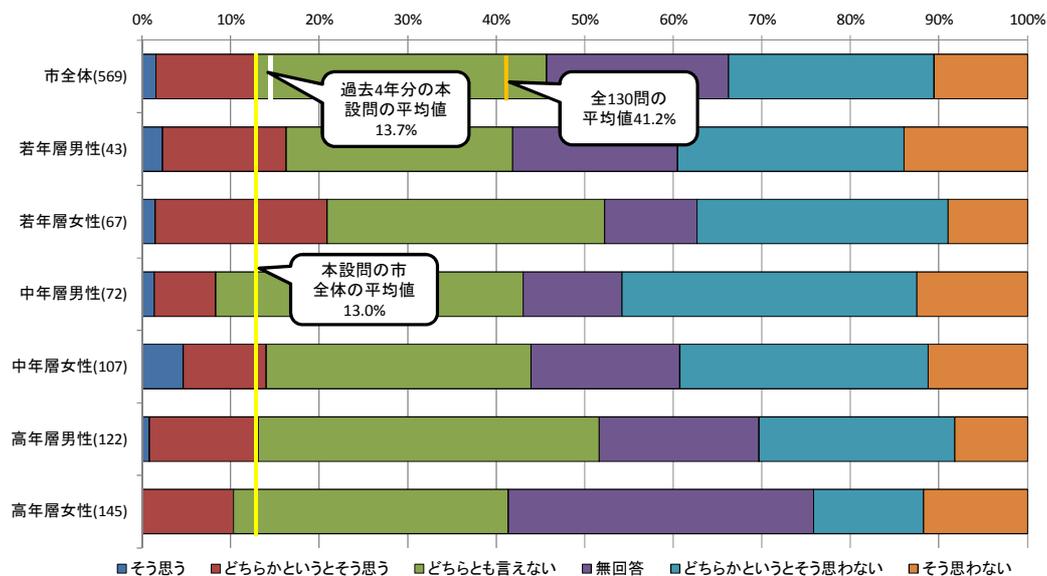
設問2：京都の農林業は、環境に負荷をかけない栽培の取組や森林の整備を通して、地域社会に役立っている。



・設問2の生活実感は、肯定的回答割合が比較的高かった（24.0%）ことが特徴である。

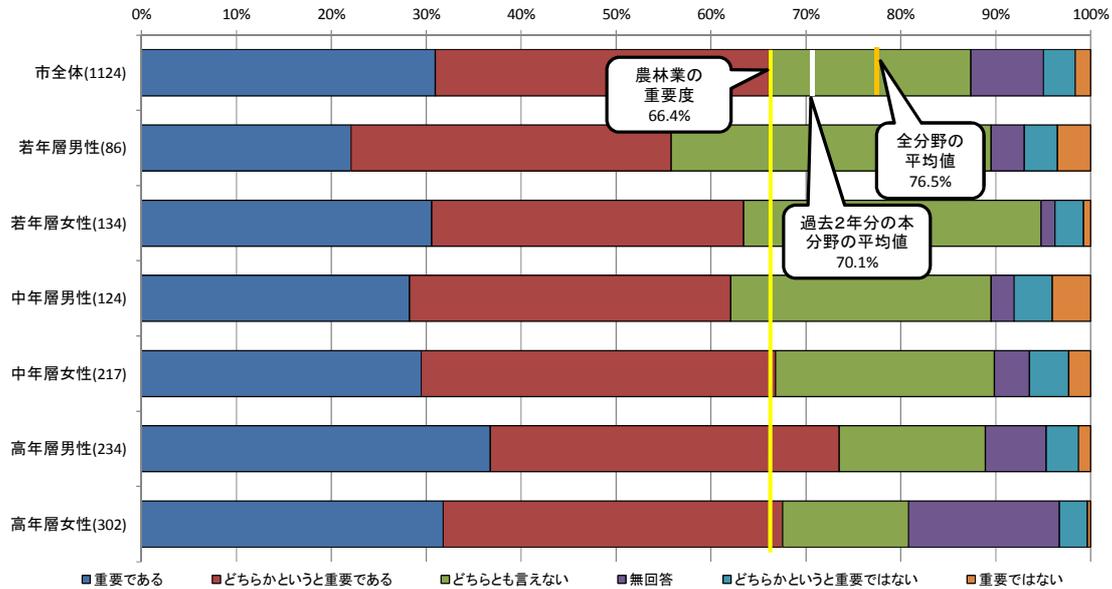
10 農林業 生活実感（世代別・性別）

設問3：市民農園や森林を守る運動、学校の体験学習などにより、京都の農林業が身近になってきている。



・設問3の生活実感は、市全体で肯定的回答割合が低かった（13.0%）が、若年層の男女は比較的高かった（16.3%、20.9%）。

10 農林業 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度は、若年層男性の肯定的回答割合が特に低かった（55.8%）。

11 大学

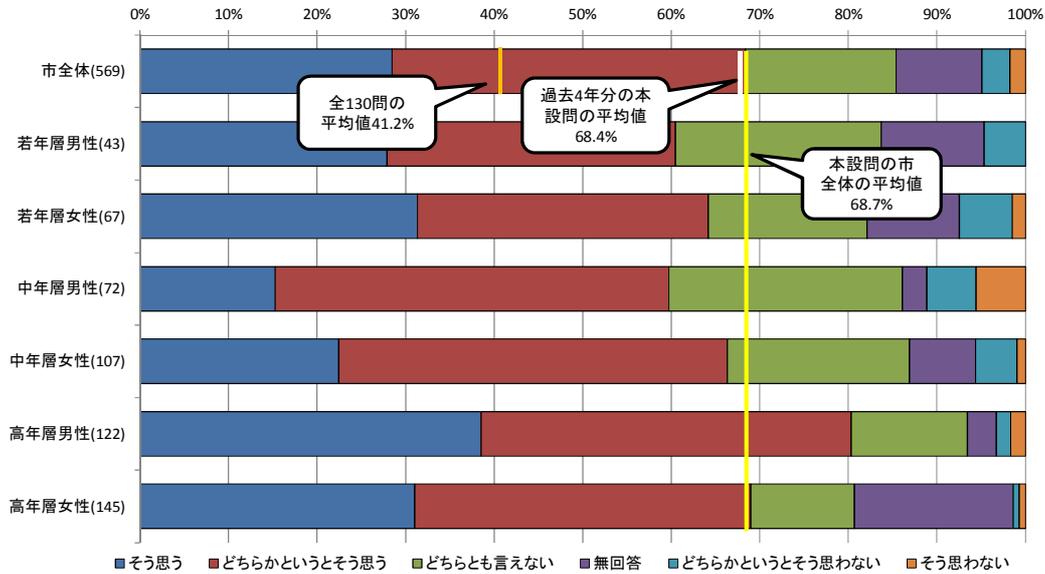
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	52.5%	50.9%	57.2%	55.8%	54.0%		63.1%	70.0%	72.4%

【考察】

- ・生活実感の順位は高かった（3位）が、政策重要度は低かった（24位）。
- ・設問3「京都の大学は、世界に貢献する高い研究成果を上げている。」の生活実感は、高年層男性の肯定的回答割合が飛びぬけて高かった（80.3%）。
- ・設問4「学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。」の生活実感は、若年層女性の肯定的回答割合が高かった（44.8%）。
- ・設問5「大学の人材や研究成果は、産業の活性化と雇用の創出に役立ち、地域の発展にもつながっている。」の生活実感は、若年層男性と高年層男性の肯定的回答割合が高かった（ともに約54%）が、勤労世代の中核を占めると考えられる中年層男性は逆に低かった（29.2%）。
- ・政策重要度は、いずれの世代においても女性より男性のほうが肯定的回答割合が高かった。

1 1 大学 生活実感（世代別・性別）

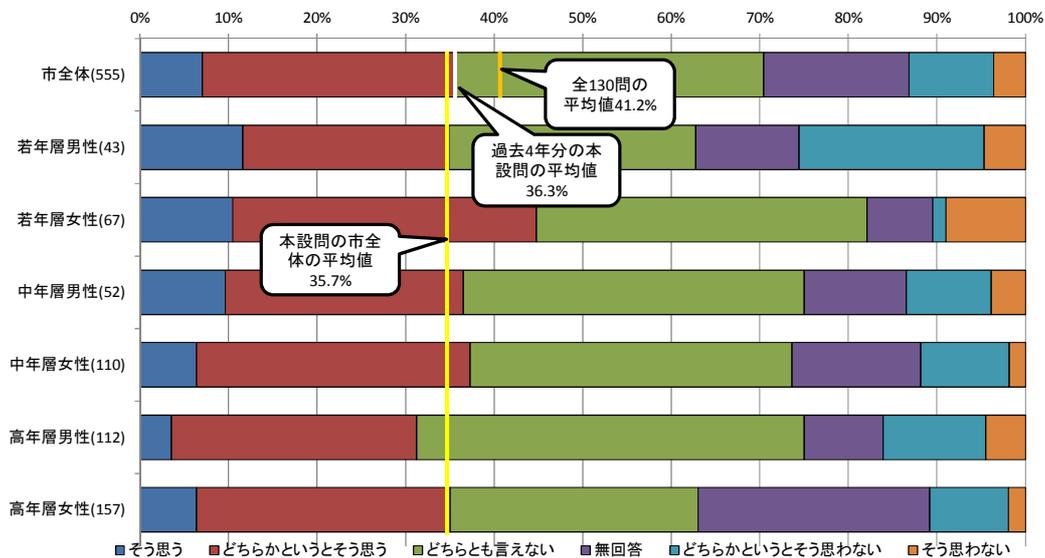
設問3：京都の大学は、世界に貢献する高い研究成果を上げている。



・設問3の生活実感は、高年層男性の肯定的回答割合が飛びぬけて高かった（80.3%）。

1 1 大学 生活実感（世代別・性別）

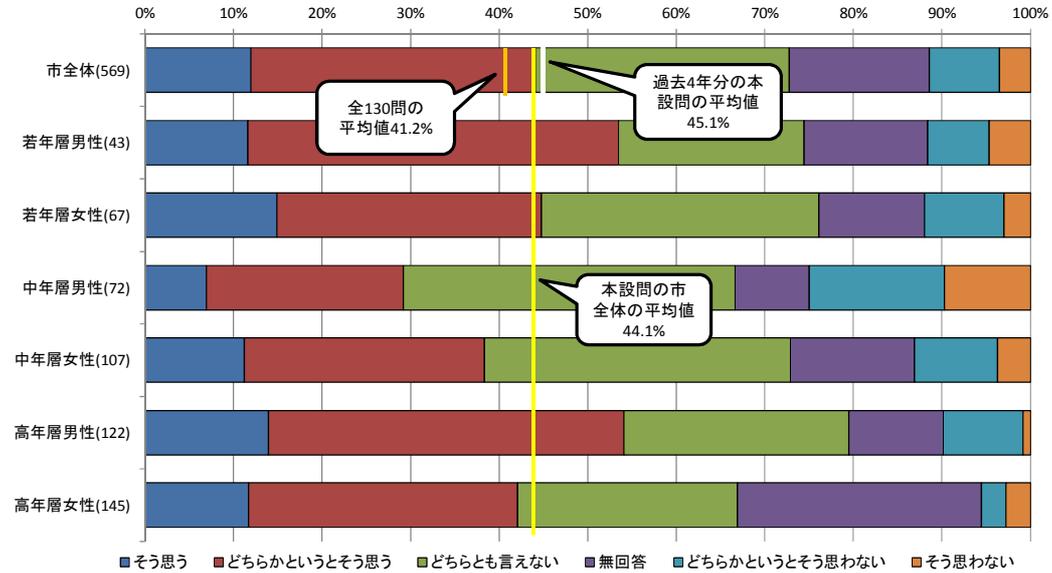
設問4：学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。



・設問4の生活実感は、若年層女性の肯定的回答割合が高かった（44.8%）。

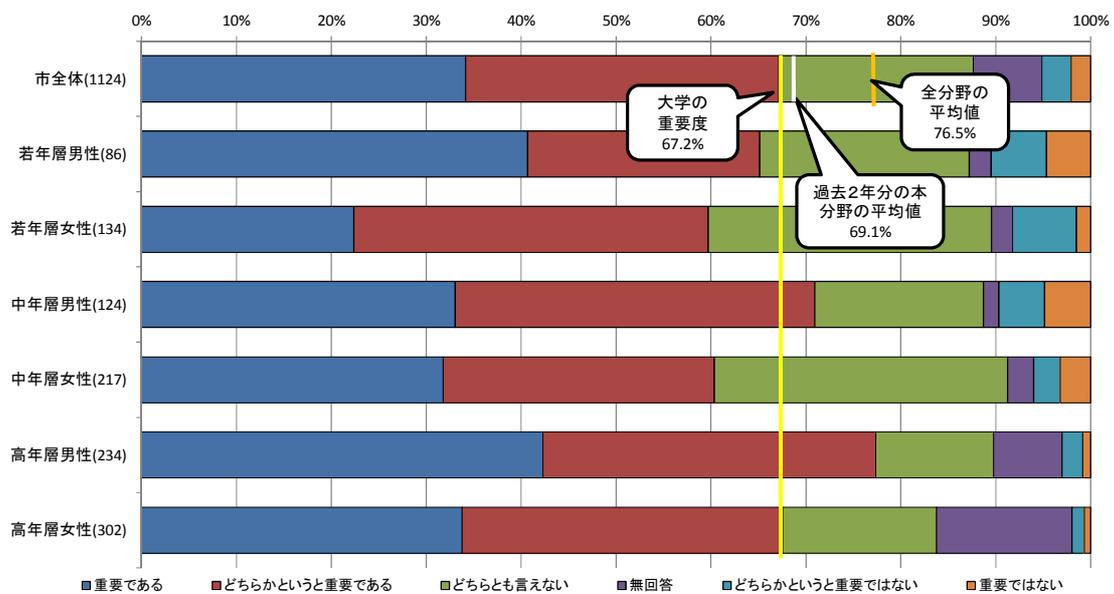
1.1 大学 生活実感（世代別・性別）

設問5：大学の人材や研究成果は、産業の活性化と雇用の創出に役立ち、地域の発展にもつながっている。



・設問5の生活実感は、若年層男性と高年層男性の肯定的回答割合が高かった（ともに約54%）が、勤労世代の中核を占めると考えられる中年層男性は逆に低かった（29.2%）。

1.1 大学 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度は、いずれの世代においても女性より男性のほうが肯定的回答割合が高かった。

1 2 国際化

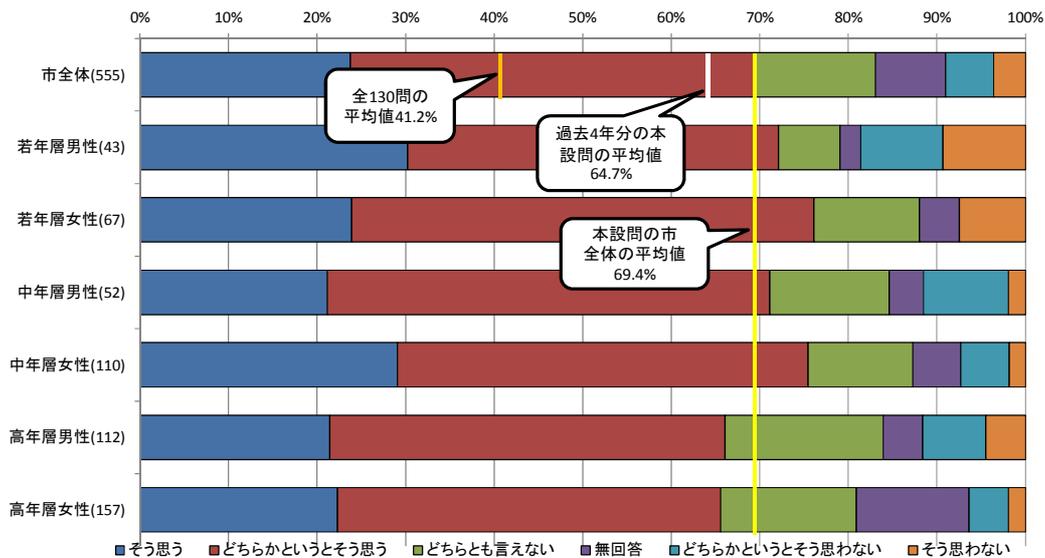
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	53.7%	49.9%	53.1%	54.3%	54.6%		75.7%	77.2%	77.3%

【考察】

- ・生活実感は順位が高かった（5位）が、政策重要度は低かった（19位）。
- ・設問1「京都には世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と受入環境がある。」と設問4「京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。」の生活実感は、ともに市全体で過去4年間の平均値と比べて肯定的回答割合が上昇している（64.7%→69.4%、46.2%→48.9%）。
- ・設問3「国籍、民族、文化等が違って互いに理解し合い、ともにいきいきとくらせるまちになっている。」の生活実感は、若年層男性は30%以上の否定的回答割合であった。
- ・政策重要度は、すべての世代において女性よりも男性のほうが高かった。

1 2 国際化 生活実感（世代別・性別）

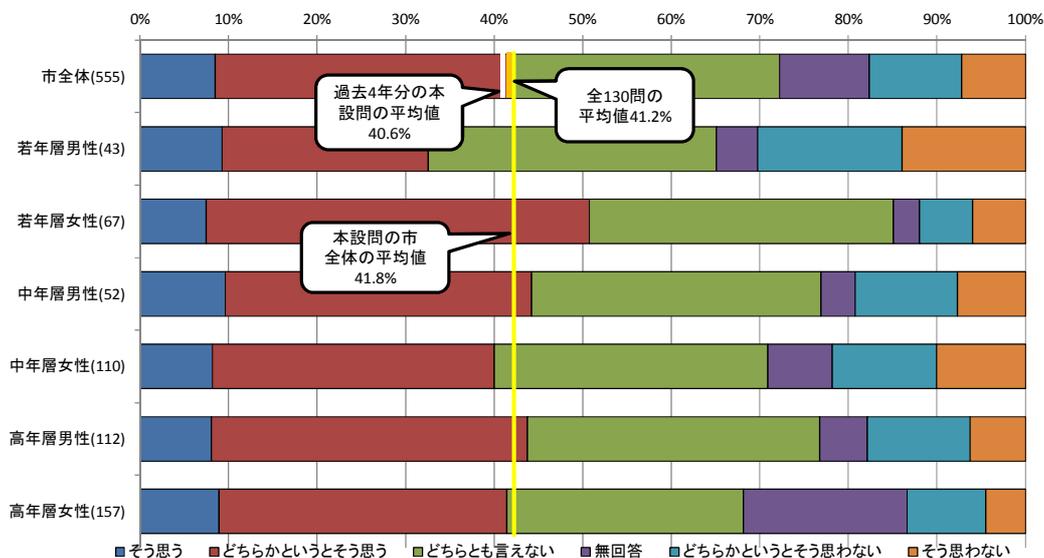
設問1：京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。



- ・設問1の生活実感は、市全体で過去4年間の平均値と比べて肯定的回答割合が上昇している（64.7%→69.4%）。

1 2 国際化 生活実感（世代別・性別）

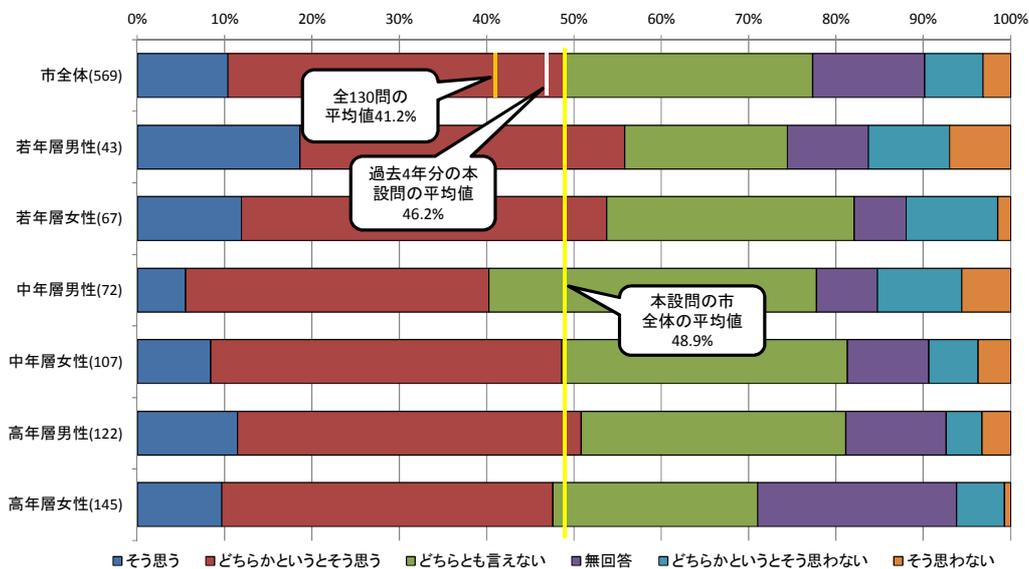
設問3：国籍、民族、文化等が違って互いに理解し合い、ともにいきいきとくらするまちになっている。



・設問3の生活実感は、若年層男性は30%以上の否定的回答割合であった。

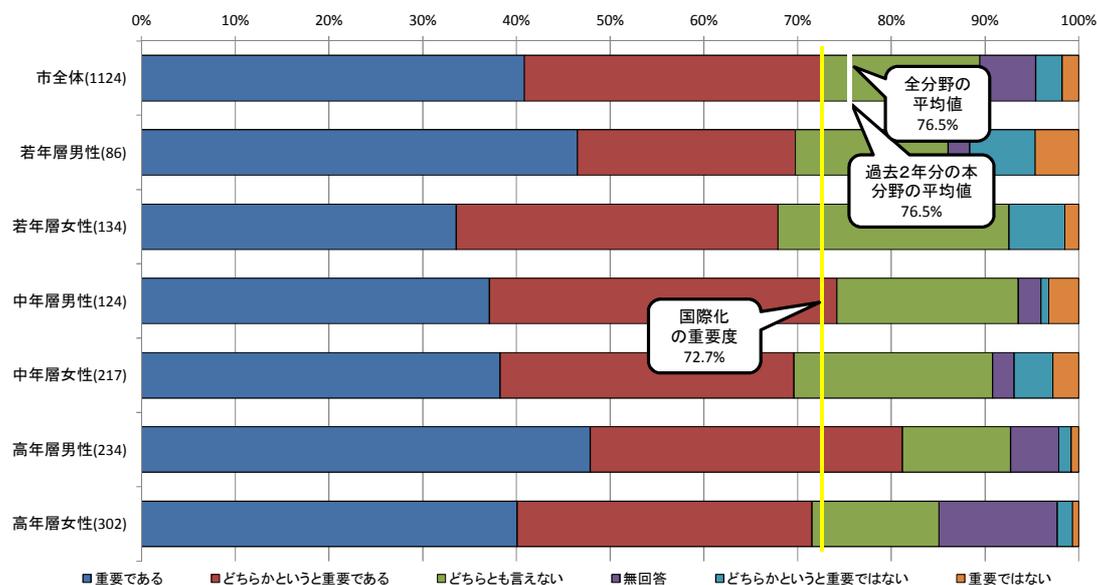
1 2 国際化 生活実感（世代別・性別）

設問4：京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。



・設問4の生活実感は、市全体で過去4年間の平均値と比べて肯定的回答割合が上昇している（46.2%→48.9%）。

1 2 国際化 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度は、すべての世代において女性よりも男性のほうが高かった。

1 3 子育て支援

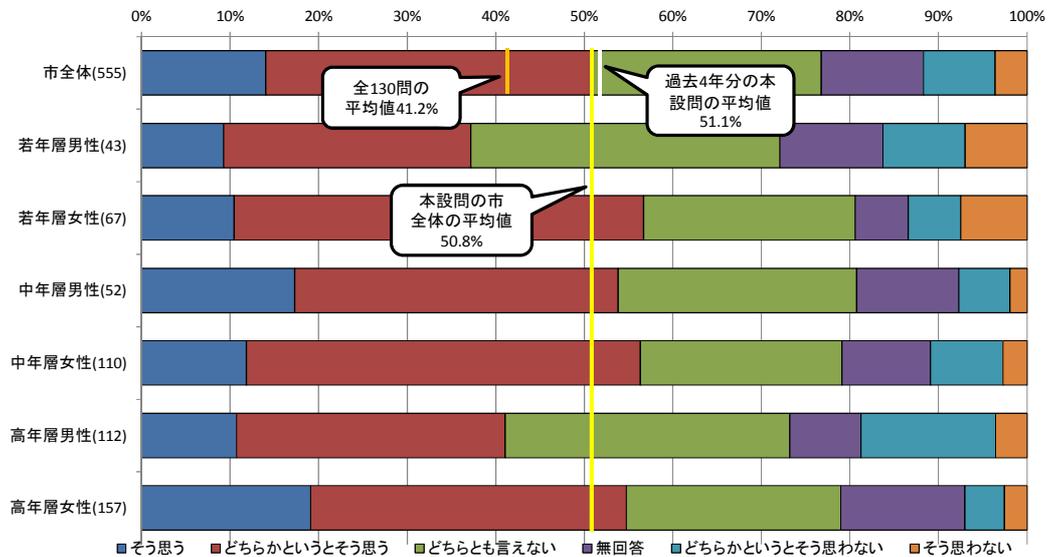
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	39.2%	33.8%	36.4%	37.3%	36.7%		85.4%	84.3%	87.4%

【考察】

- ・政策重要度は順位が高かった（5位）が、生活実感は中位（14位）だった。
- ・設問1「子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる。」の生活実感は、子育て中の世帯が多いと思われる中年層男女の肯定的回答割合が50%以上であった。この回答結果は、政策分野19「生涯学習」の設問4「子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。」における中年層男女の肯定的回答割合の低さと対照的である。
- ・設問4「働き方の見直しや男性の育児参加など、仕事と子育ての両立に取り組むひとや企業が増えている」の生活実感は、若年層女性の否定的回答割合が40%以上だった。またこの設問は「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた回答率が全体的に高かった。市全体でも肯定的回答割合が過去4年間の平均値を2.5%下回り、仕事と子育ての両立の当事者と考えられる中年層男性の肯定的回答割合が著しく低く（9.7%）、また中年層女性も低かった（15.9%）。

13 子育て支援 生活実感（世代別・性別）

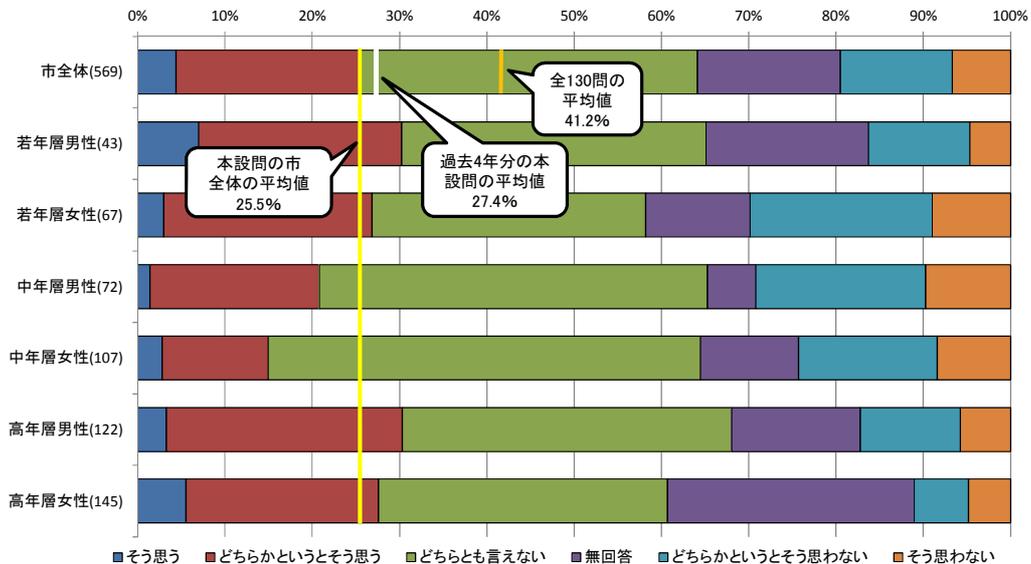
設問1：子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる。



・設問1の生活実感は、子育て中の世帯が多いと思われる中年層男女の肯定的回答割合が50%以上であった。

19 生涯学習 生活実感（世代別・性別）

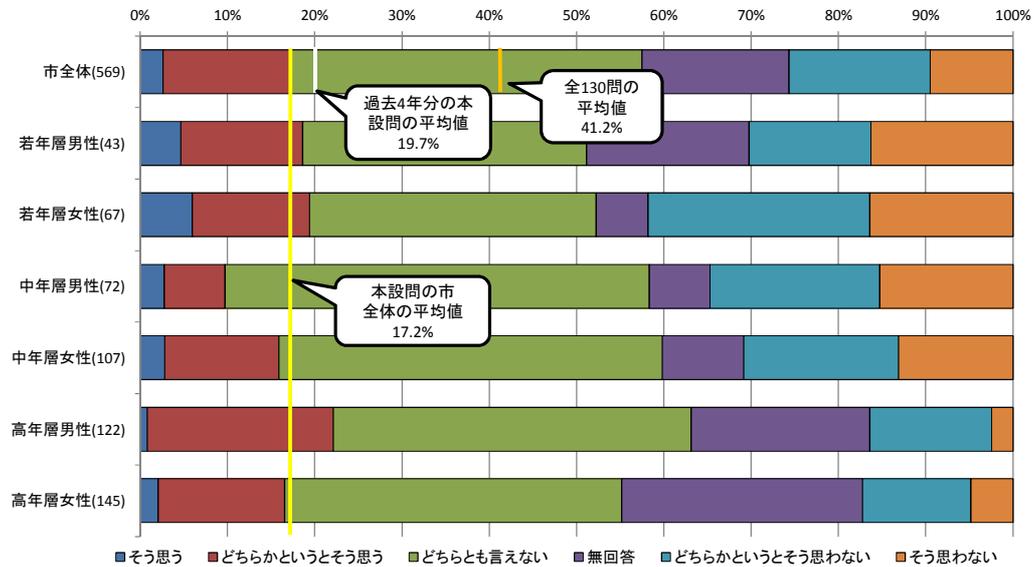
設問4：子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。



・設問1の生活実感とは対照的に、政策分野19「生涯学習」の設問4における生活実感は、中年層男女の肯定的回答割合が低い。

1 3 子育て支援 生活実感（世代別・性別）

設問4：働き方の見直しや男性の育児参加など、仕事と子育ての両立に取り組むひとや企業が増えている。



・設問4の生活実感は、若年層女性の否定的回答割合が40%以上だった。またこの設問は「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた回答率が全体的に高かった。市全体でも肯定的回答割合が過去4年間の平均値を2.5%下回り、仕事と子育ての両立の当事者と考えられる中年層男性の肯定的回答割合が著しく低く（9.7%）、また中年層女性も低かった（15.9%）。

1 4 障害者福祉

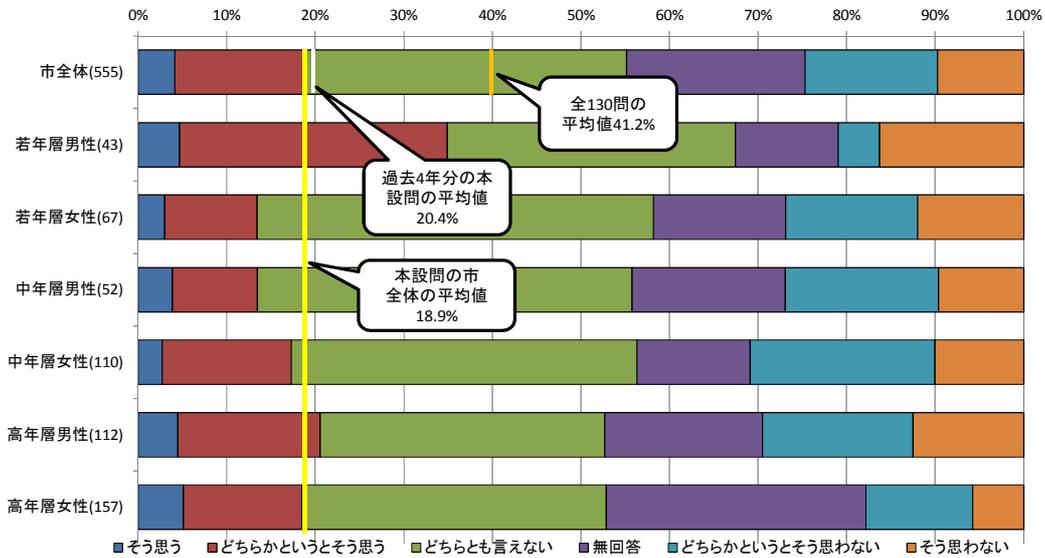
生活実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策重要度	H25	H26	H27
	28.0%	23.7%	25.7%	26.6%	24.9%		85.1%	84.9%	84.8%

【考察】

- ・政策重要度の順位は比較的高かった（8位）が、生活実感は低かった（23位）。
- ・すべての設問の生活実感の肯定的回答割合は、過去4年間の平均値と比べると低下している。
- ・すべての設問で「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせると50%近い割合であることが本分野の特徴である。
- ・設問3「働く場で、障害のあるひとがいきいきと働く姿を多く見かけるようになっている。」と設問4「バリアフリーなどの生活しやすい社会環境の整備が進み、暮らしやすいまちになっている。」の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合がいずれも飛び抜けて高い（34.9%。市全体は18.9%、51.2%。市全体は32.2%）。
- ・政策重要度の肯定的回答割合は、過去2年分の平均値と比べて低下している。

14 障害者福祉 生活実感（世代別・性別）

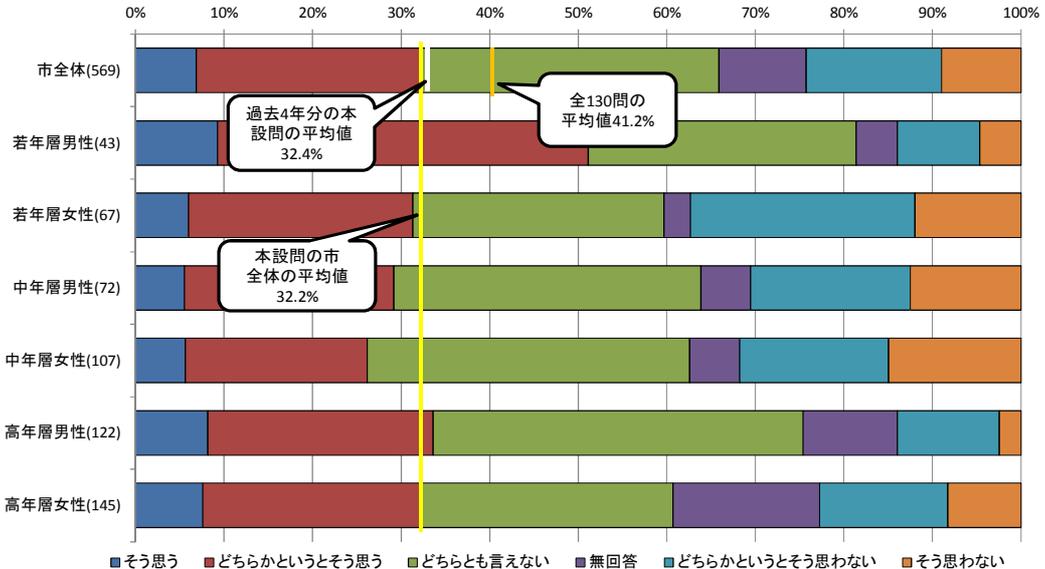
設問3：働く場で、障害のあるひとがいきいきと働く姿を多く見かけるようになっている。



・設問3の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が飛び抜けて高い（34.9%。市全体は18.9%）。

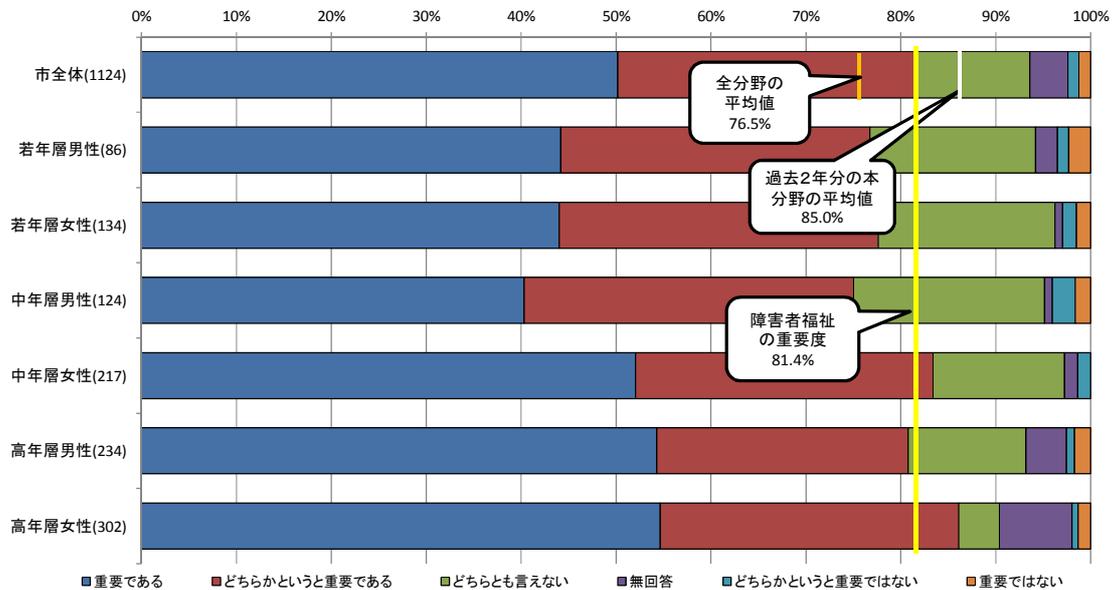
14 障害者福祉 生活実感（世代別・性別）

設問4：バリアフリーなどの生活しやすい社会環境の整備が進み、暮らしやすいまちになっている。



・設問4の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が飛び抜けて高い（51.2%。市全体は32.2%）。

14 障害者福祉 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度の肯定的回答割合は、過去2年分の平均値と比べて低下している。

15 地域福祉

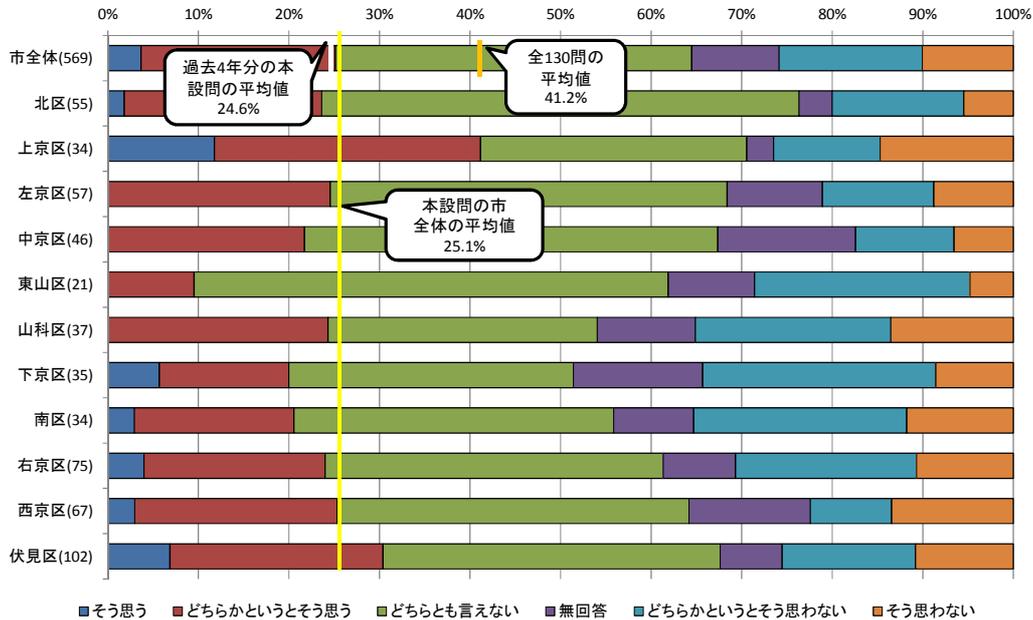
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	29.6%	26.5%	30.4%	30.2%	29.0%		72.6%	72.9%	77.5%

【考察】

- ・生活実感、生活重要度とも例年と同様に低い順位であった（どちらも21位）。
- ・設問2「地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる」の生活実感は、市全体とすべての属性で肯定的回答割合が低く、とりわけ若年層男性は11.6%であり、しかも「そう思う」がゼロだった。そして「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた割合は、若年層の男女とも50%以上であり、関心の低さがうかがえる。
- ・東山区では設問1「社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。」の生活実感の肯定的回答割合が飛び抜けて低い（9.5%）が、設問4「地域のつながりが、福祉活動や防犯・防災の取組に役立っている。」では飛び抜けて高い（62.6%）という、矛盾するような結果が見られた。
- ・政策重要度の肯定的回答割合は、過去2年分の平均値と比べて低下している。

1.5 地域福祉 生活実感（居住区別）

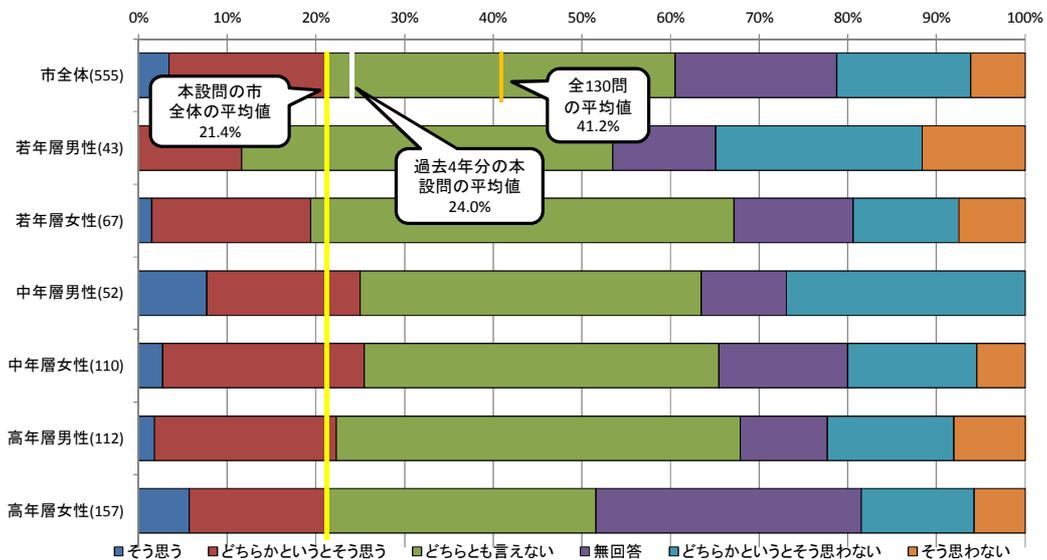
設問1：社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。



・東山区では設問1の生活実感の肯定的回答割合が飛び抜けて低く（9.5%）、設問4の結果と対照的である。

1.5 地域福祉 生活実感（世代別・性別）

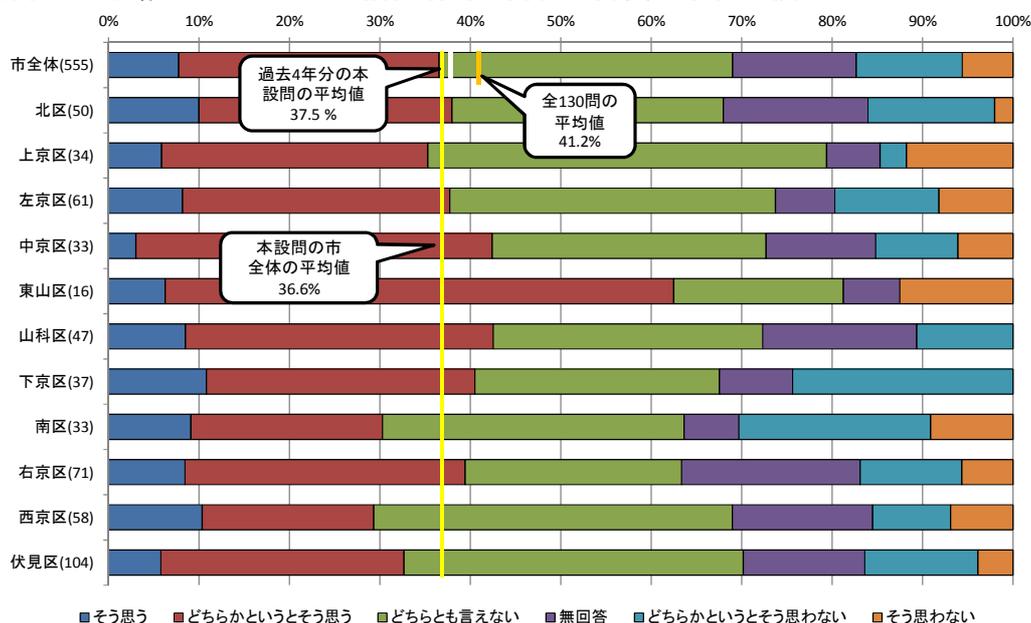
設問2：地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。



・設問2の生活実感は、市全体とすべての属性で肯定的回答割合が低く、とりわけ若年層男性は11.6%であり、しかも「そう思う」がゼロだった。そして「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた割合は、若年層の男女とも50%以上であり、関心の低さがうかがえる。

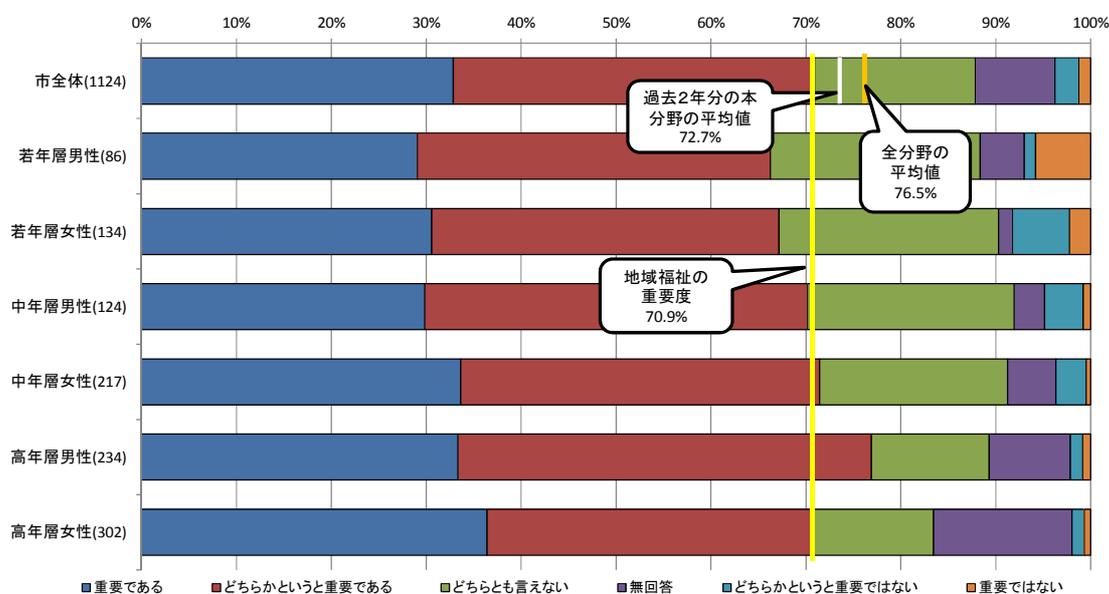
1.5 地域福祉 生活実感（居住区別）

設問4：地域のつながりが、福祉活動や防犯・防災の取組に役立っている。



・東山区では設問4の生活実感の肯定的回答割合が飛び抜けて高く（62.6%）、設問1の結果と対照的である。

1.5 地域福祉 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度の肯定的回答割合は、過去2年間の平均値と比べて低下している。

16 高齢者福祉

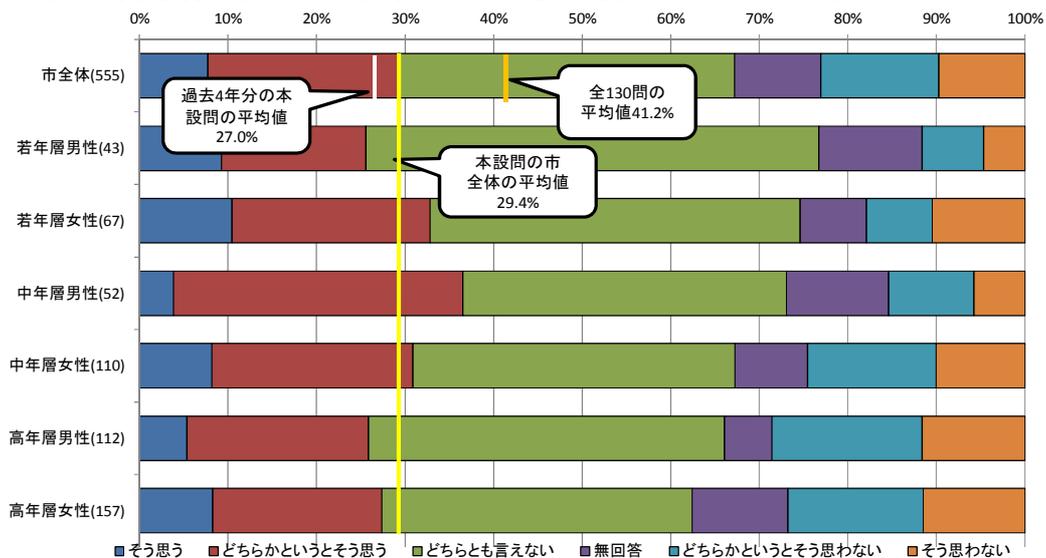
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	35.1%	34.9%	37.4%	36.3%	36.0%		78.6%	80.0%	77.5%

【考察】

- ・設問5「高齢者社会が進展するなか、介護職が重要な仕事となっている。」の生活実感を除いて、どの設問も肯定的回答割合が全130問の平均値より低かった。
- ・設問1「高齢者が敬われ、心身ともに健康で充実した暮らしを送れている。」の生活実感、若年層男性と高年層男性の肯定的回答割合が低かった（どちらも約26%）。中年層が高く、高年層は男女とも低かったことが特徴的で、意識のずれがみられる。
- ・設問2「高齢者の知恵や経験、技能が社会に活かされている。」の生活実感、若年層の男女とも高かった（27.9%、26.9%）一方で、高齢者である高年層、そしてこれから高齢者になる中年層の男女はすべて低い（17.2~19.3%）という差が見られた。高齢者の知恵や経験、技能が社会により活かされることによって、この設問の生活実感が全世代において向上する可能性がある。
- ・設問3「高齢者が地域で見守られ支えられ、安心してらせるまちになっている。」と設問4「介護サービスや住環境整備などが充実し、高齢者が住み慣れた地域でそのひとらしい暮らしを送れている。」の生活実感、高年層男性よりも高年層女性の肯定的回答割合が高かった。設問3は高年層男女とも市全体の平均値（25.0%）を上回っているが、設問4は男性（27.7%）が平均値（31.7%）を大きく下回り、男女差が8.6%にもなっている（女性は36.3%）点が気になる。

16 高齢者福祉 生活実感（世代別・性別）

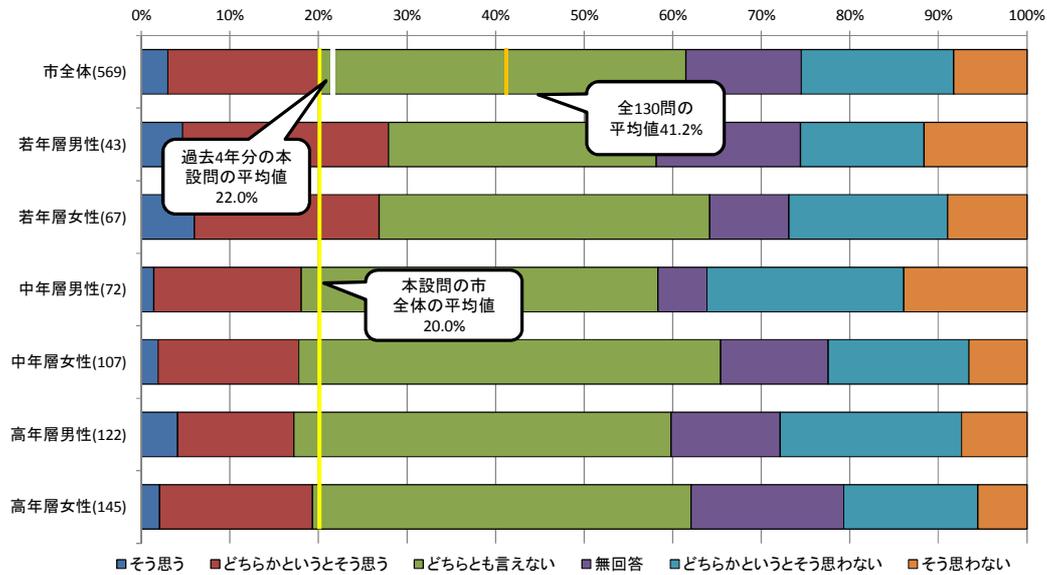
設問1：高齢者が敬われ、心身ともに健康で充実した暮らしを送れている。



- ・設問1の生活実感、若年層男性と高年層男性の肯定的回答割合が低かった（どちらも約26%）。中年層が高く、高年層は男女とも低かったことが特徴的で、意識のずれがみられる。

16 高齢者福祉 生活実感（世代別・性別）

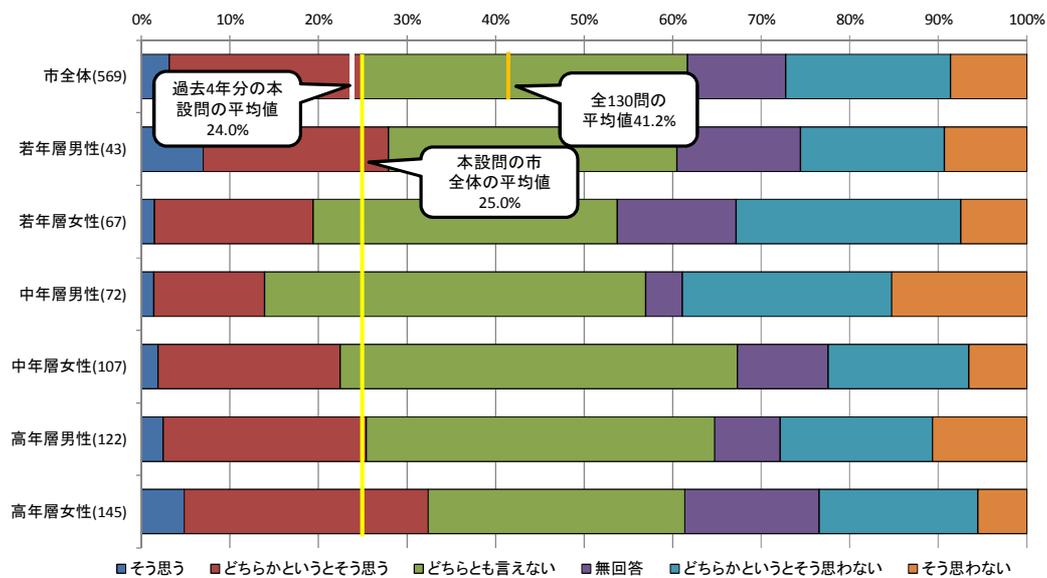
設問2：高齢者の知恵や経験、技能が社会に活かされている。



・設問2の生活実感は、若年層の男女とも高かった（27.9%、26.9%）一方で、高齢者である高年層、そしてこれから高齢者になる中年層の男女はすべて低い（17.2～19.3%）という差が見られた。高齢者の知恵や経験、技能が社会により活かされることによって、この設問の生活実感が全世代において向上する可能性がある。

16 高齢者福祉 生活実感（世代別・性別）

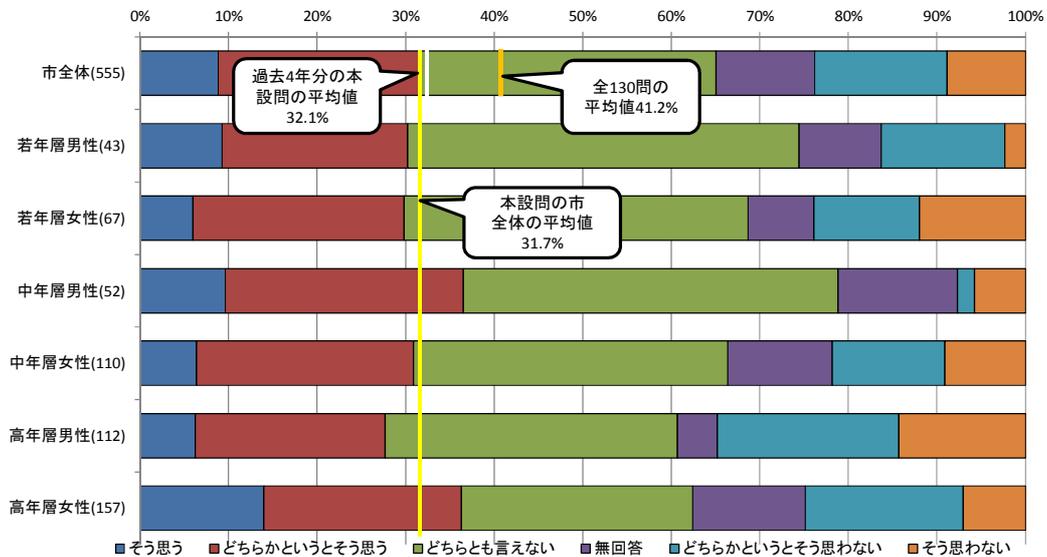
設問3：高齢者が地域で見守られ支えられて、安心してらせるまちになっている。



・設問3の生活実感は、高年層男性よりも高年層女性の肯定的回答割合が高かった。高年層男女とも市全体の平均値（25.0%）を上回っている。

16 高齢者福祉 生活実感（世代別・性別）

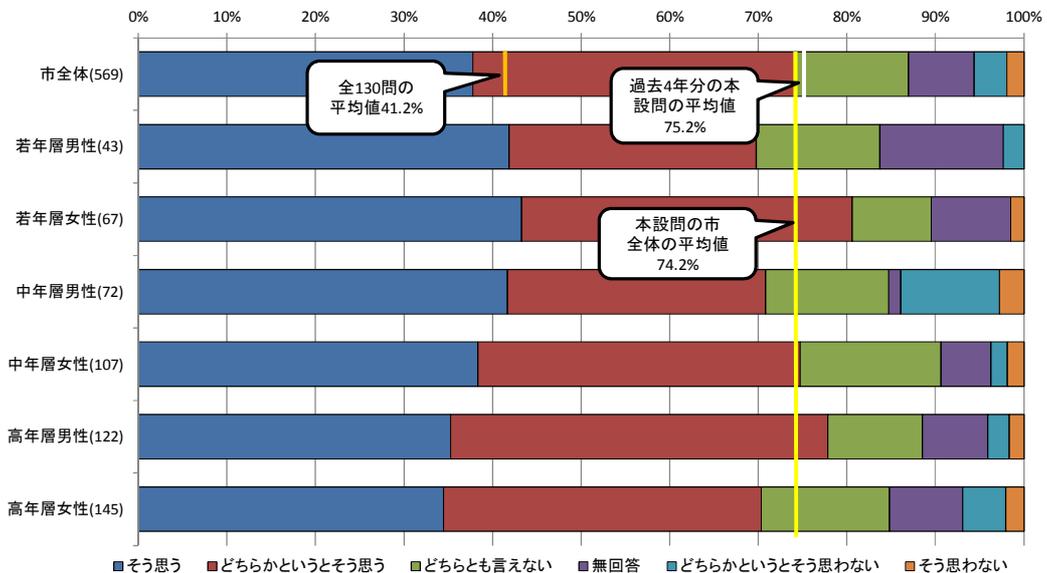
設問4：介護サービスや住環境整備などが充実し、高齢者が住み慣れた地域でそのひとらしい暮らしを送れている。



・設問4の生活実感は、高年層男性よりも高年層女性の肯定的回答割合が高かった。設問3とは異なり、男性（27.7%）が平均値（31.7%）を大きく下回り、男女差が8.6%にもなっている（女性は36.3%）点が気になる。

16 高齢者福祉 生活実感（世代別・性別）

設問5：高齢社会が進展するなか、介護職が重要な仕事となっている。



・この分野では設問5の生活実感のみが全130問の平均値より高かった。

17 保健衛生・医療

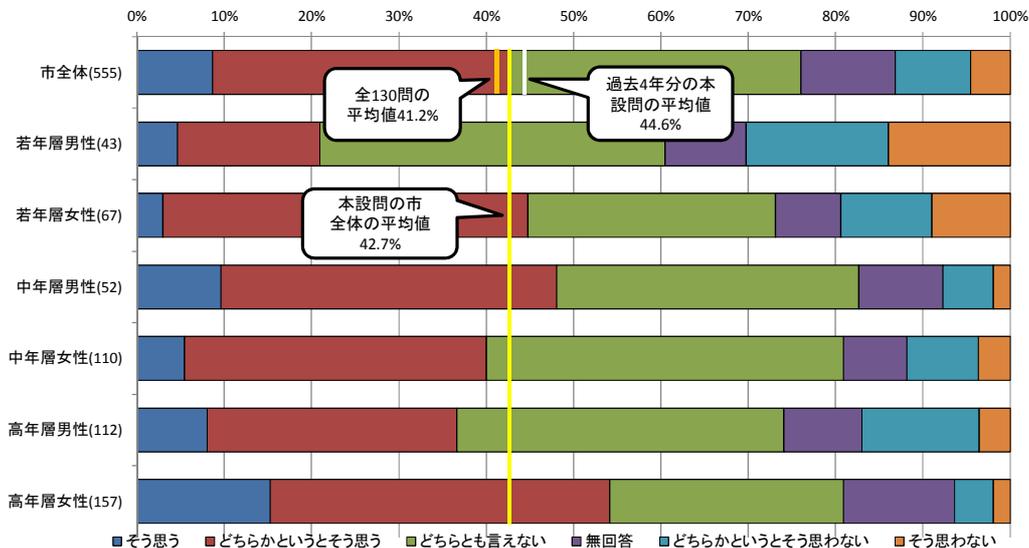
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	57.9%	55.0%	57.7%	62.2%	59.5%		84.8%	85.4%	87.0%

【考察】

- ・生活実感、政策重要度ともに肯定的回答割合が比較的高い（約60%、86%）分野である。
- ・設問1「正しい情報を基に、健康づくりに取り組むひとが増えている。」の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が著しく低かった（20.9%。市全体は44.6%）。若年層男性の健康への関心の低さが感じられるが、市全体の平均値よりも高かった若年層女性も、否定的回答の割合は19.4%と、若年層男性に次いだことには注意を要する。
- ・設問2「利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。」の生活実感は、高年層男性の肯定的回答割合が最も高かった（69.7%。市全体は62.9%）。行政区別でみると、南区の肯定的回答割合が飛びぬけて低い（41.2%）という結果が見られた。
- ・設問3「安心して食べられる食品が手に入るなど、衛生的な生活環境が整っている。」と設問5「感染症や食中毒などの健康危機に対し、安全と安心が確保されている。」の生活実感は、若年層の男女とも肯定的回答割合が低いという結果が見られた。

17 保健衛生・医療 生活実感（世代別・性別）

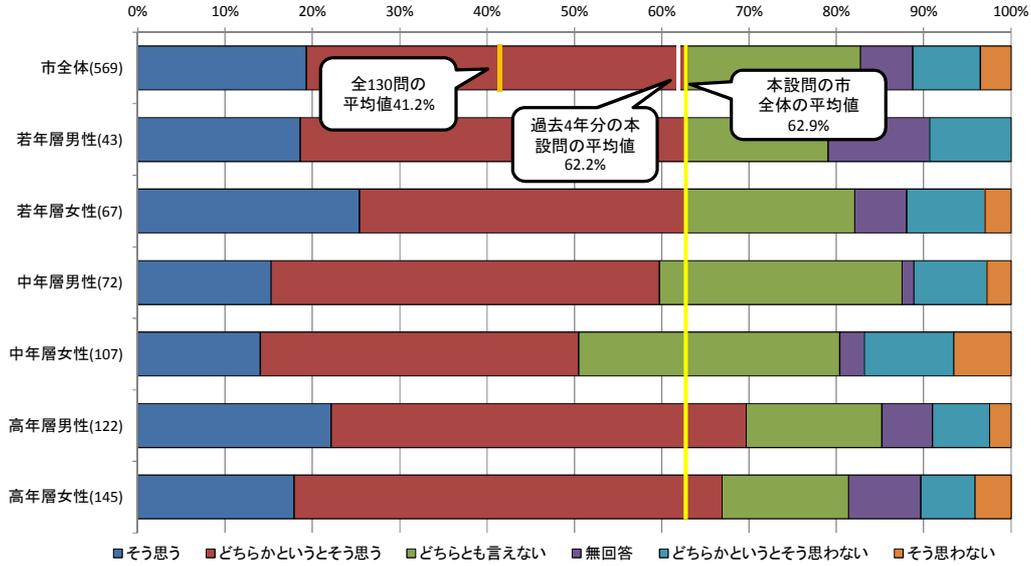
設問1：正しい情報を基に、健康づくりに取り組むひとが増えている。



- ・設問1の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が著しく低かった（20.9%。市全体は44.6%）。若年層男性の健康への関心の低さが感じられるが、市全体の平均値よりも高かった若年層女性も、否定的回答の割合は19.4%と、若年層男性に次いだことには注意を要する。

17 保健衛生・医療 生活実感（世代別・性別）

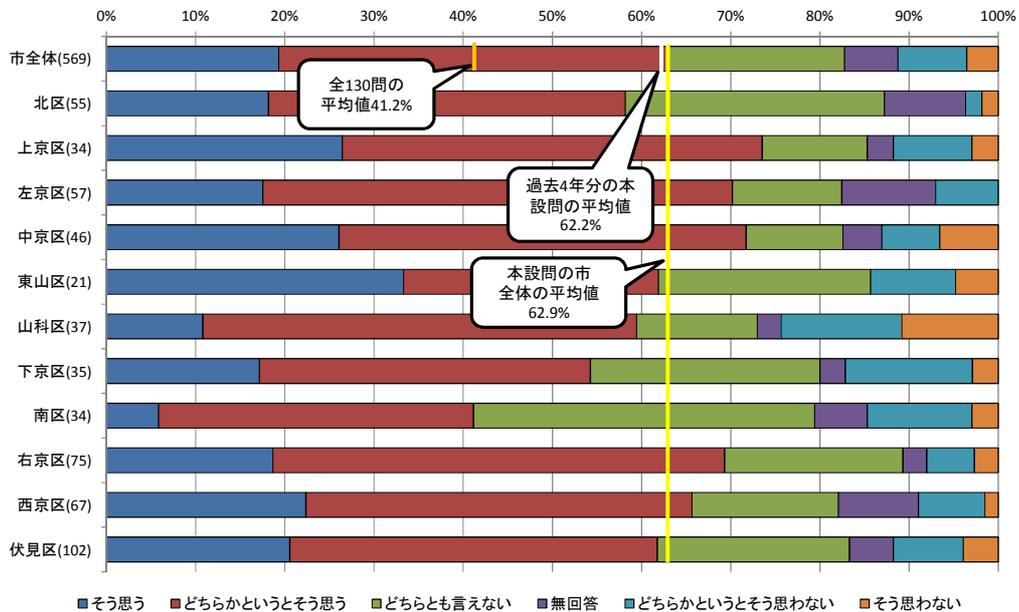
設問2：利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。



・設問2の生活実感は、高年層男性の肯定的回答割合が最も高かった（69.7%。市全体は62.9%）。

17 保健衛生・医療 生活実感（居住区別）

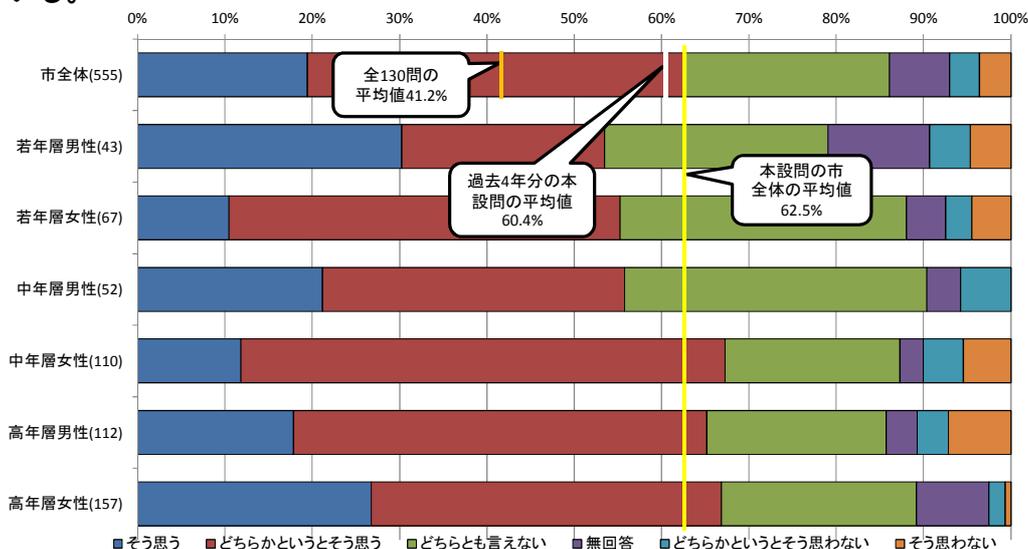
設問2：利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。



・設問2の生活実感は、行政区別で見ると、南区の肯定的回答割合が飛びぬけて低い（41.2%）という結果が見られた。

17 保健衛生・医療 生活実感（世代別・性別）

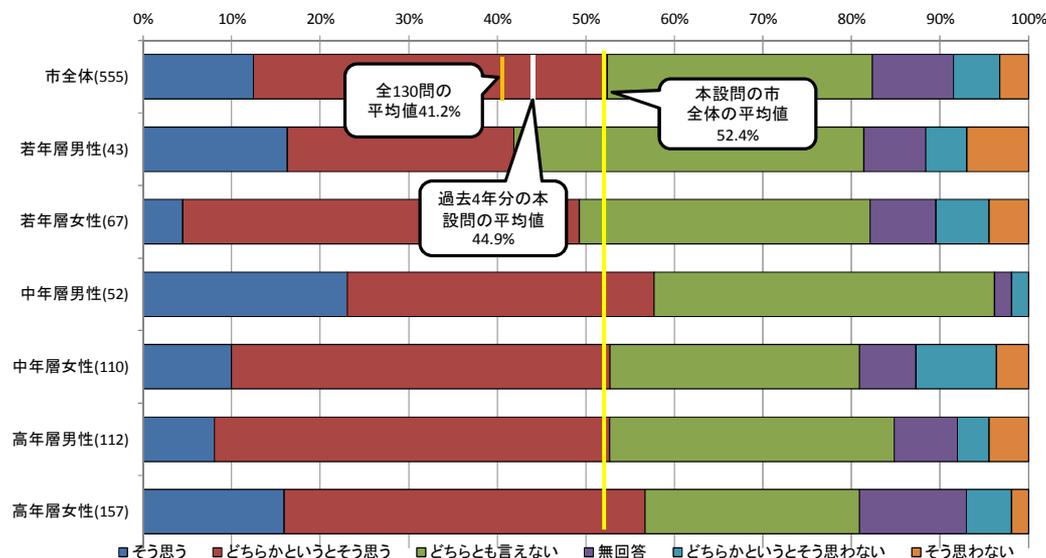
設問3：安心して食べられる食品が手に入るなど、衛生的な生活環境が整っている。



・設問3の生活実感は、若年層の男女とも肯定的回答割合が低いという結果が見られた。

17 保健衛生・医療 生活実感（世代別・性別）

設問5：感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。



・設問5の生活実感は、若年層の男女とも肯定的回答割合が低いという結果が見られた。

18 学校教育

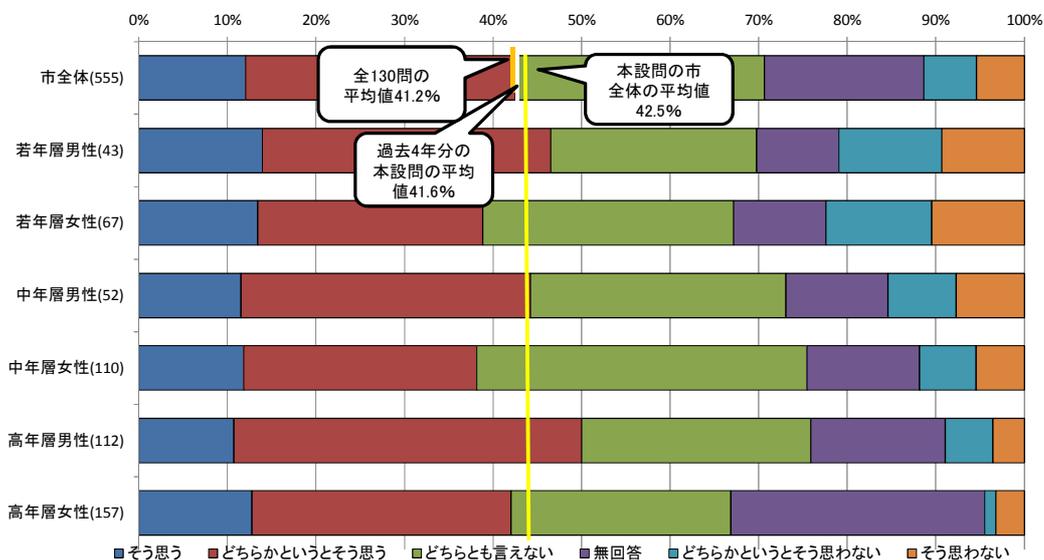
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	38.3%	34.6%	36.0%	38.4%	34.9%		84.7%	82.6%	87.5%

【考察】

- ・政策重要度は順位が比較的高かった（7位）が、生活実感は低かった（19位）。
- ・設問2「安全快適な学校施設や最新の整備など、充実した教育環境が整っている。」の生活実感は、各世代とも女性より男性の肯定的回答割合が高かった。
- ・設問3「学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとびとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。」の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が飛びぬけて高かった（46.5%。市全体は31.0%）。しかし逆に、学校の先生と関わる保護者の中心を占めるとされる中年層女性が最も低い（19.6%）ことには注意を要する。
- ・設問4「子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある」は若年層男性の肯定的回答割合が特に低かった（27.9%。市全体は42.7%）。
- ・設問5「京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。」の生活実感の肯定的回答割合は、市全体でも低い（28.6%）が、保護者の中心を占める中年層男女で低かった。

18 学校教育 生活実感（世代別・性別）

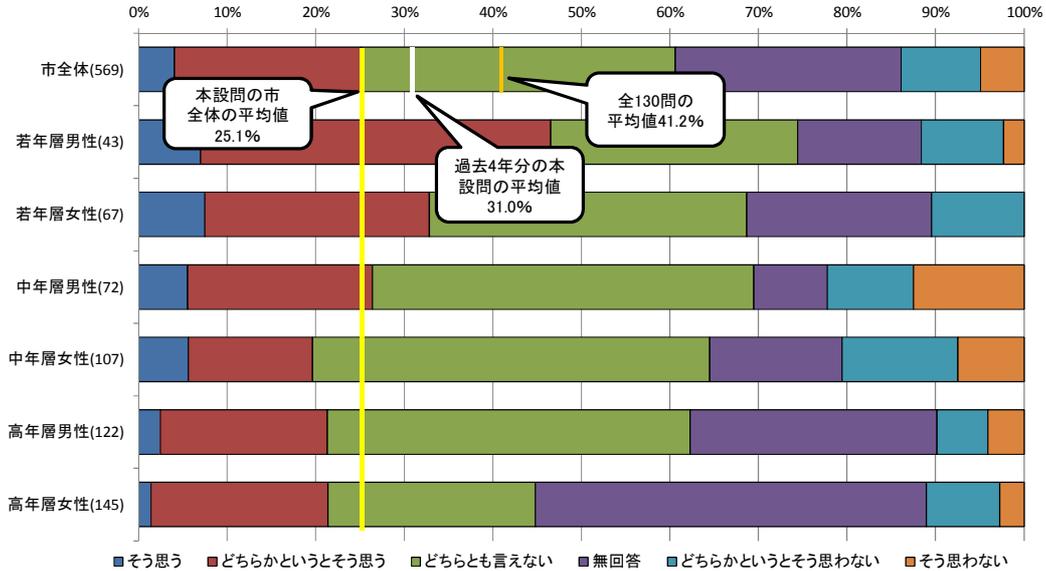
設問2：安全快適な学校施設や最新の設備など、充実した教育環境が整っている。



- ・設問2の生活実感は、各世代とも女性より男性の肯定的回答割合が高かった。

18 学校教育 生活実感（世代別・性別）

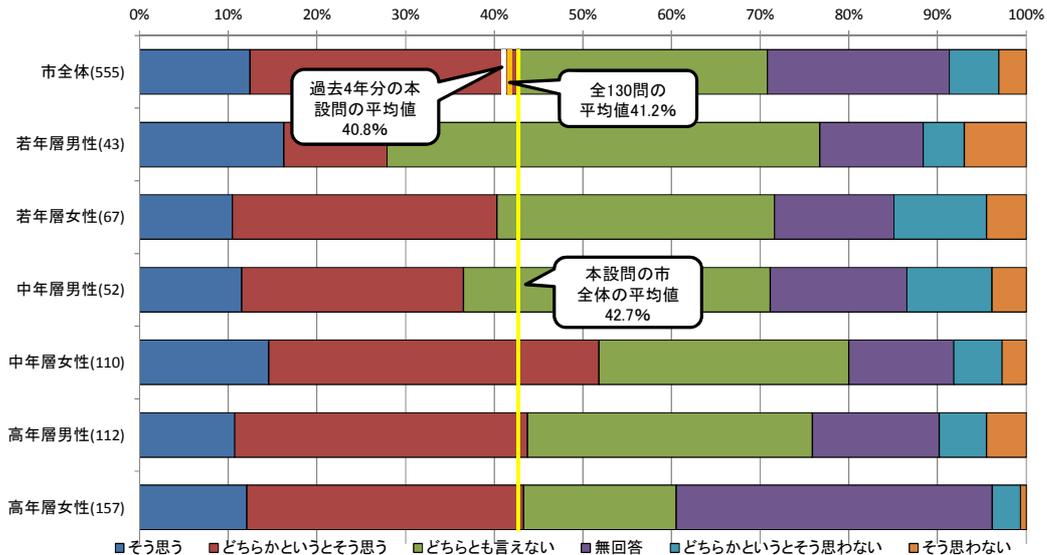
設問3：学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとびとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。



・設問3の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が飛びぬけて高かった（46.5%。市全体は31.0%）。しかし逆に、学校の先生と関わる保護者の中心を占めるとされる中年層女性が最も低い（19.6%）ことには注意を要する。

18 学校教育 生活実感（世代別・性別）

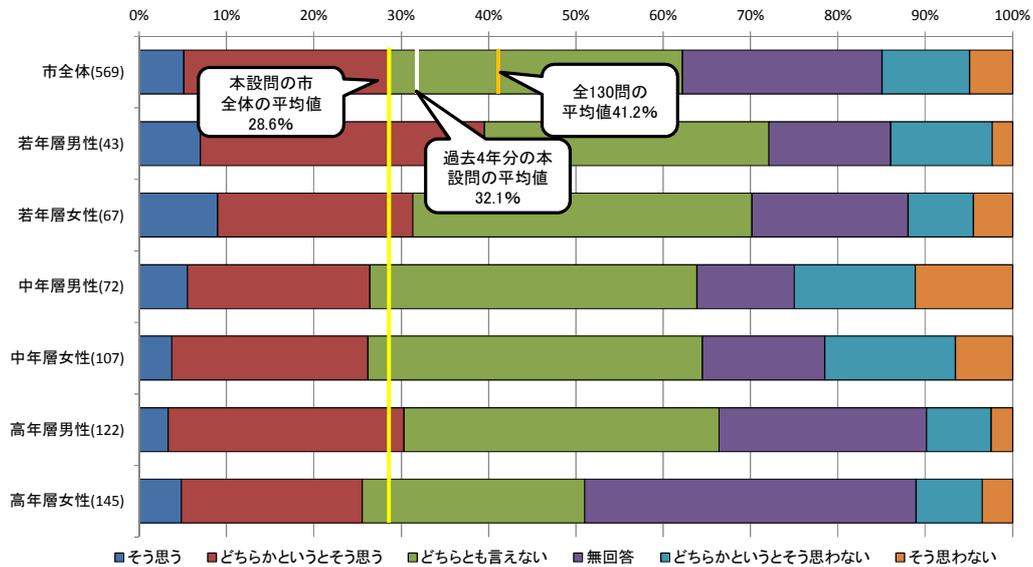
設問4：子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある。



・設問4の生活実感は若年層男性の肯定的回答割合が特に低かった（27.9%。市全体は42.7%）。

18 学校教育 生活実感（世代別・性別）

設問5：京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。



・設問5の生活実感の肯定的回答割合は、市全体でも低い（28.6%）が、保護者の中心を占める中年層男女で低かった。

19 生涯学習

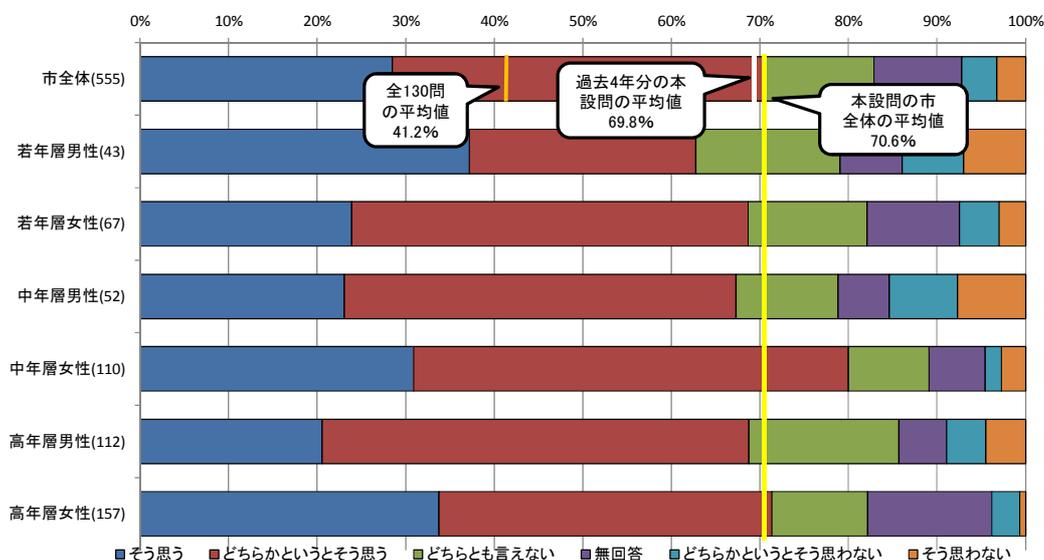
生活実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策重要度	H25	H26	H27
	40.1%	36.2%	39.2%	41.0%	38.9%		77.0%	76.7%	82.1%

【考察】

- ・生活実感、政策重要度ともに順位は低かった（どちらも21位）。
- ・設問1「京都には、大学や博物館、神社仏閣、企業、NPOなどが提供する学習機会が豊富にある。」の生活実感の肯定的回答割合は、全世代別・性別で高かった（約70%）。
- ・設問2「生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。」の生活実感は、中年層女性の肯定的回答割合が特に低かった（20.5%。市全体は26.5%）。
- ・設問3「地域での取組において、幅広い世代がともに学べる機会が充実している。」の生活実感は、中年層男女の肯定的回答割合が市全体の平均値（32.8%）を大きく上回った。
- ・設問4「子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。」の生活実感は、子育て中の世帯が多い中年層の男女において低いが、特に中年層女性の肯定的回答割合が低く（15.0%。市全体は25.5%）、過去4年間の平均値（27.4%）と比べても低下していることは注意を要する。

19 生涯学習 生活実感（世代別・性別）

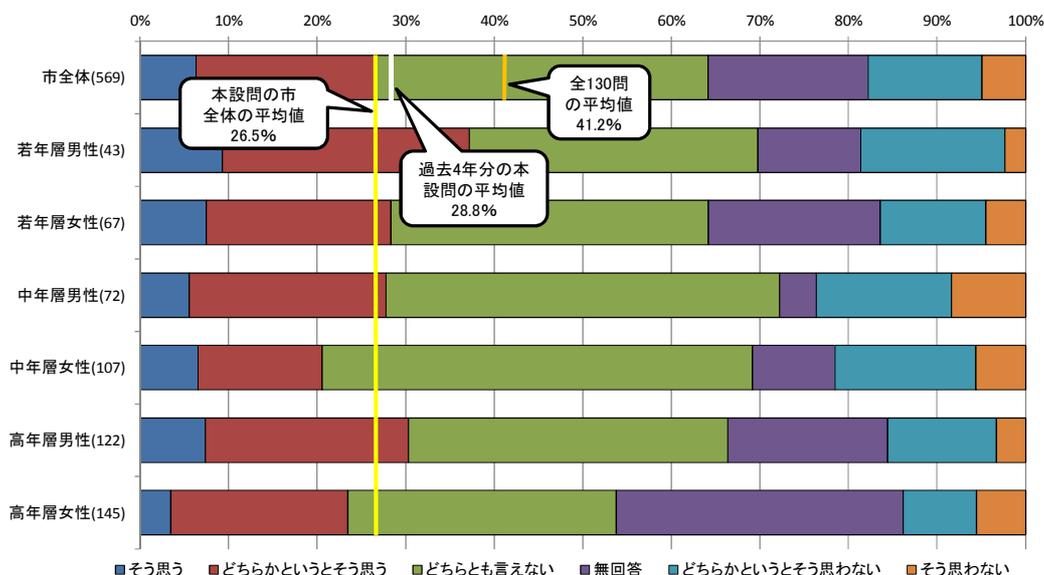
設問1：京都には、大学や博物館、神社仏閣、企業、NPOなどが提供する学習機会が豊富にある。



・設問1の生活実感の肯定的回答割合は、全世代別・性別で高かった（約70%）。

19 生涯学習 生活実感（世代別・性別）

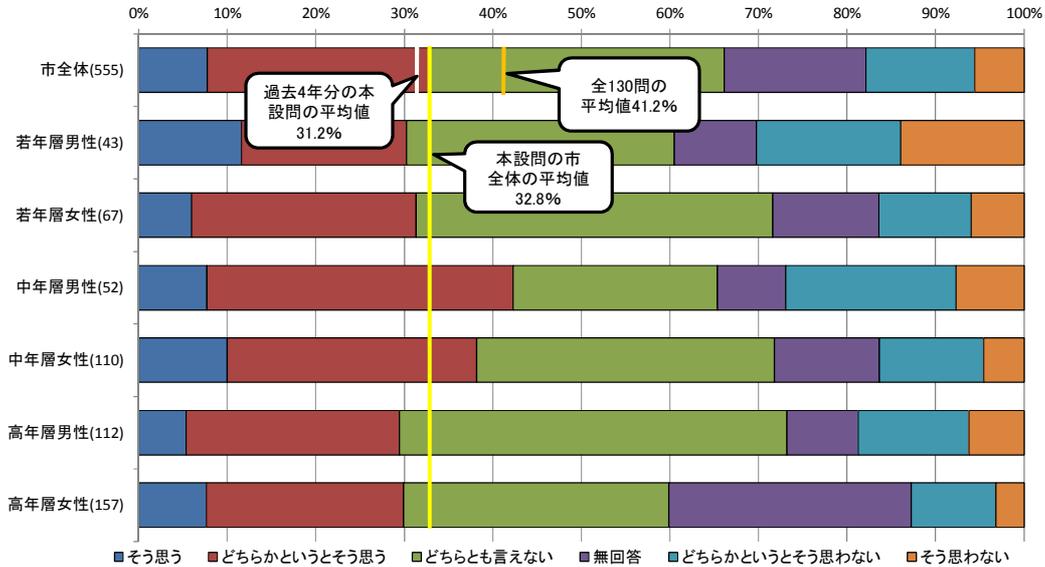
設問2：生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。



・設問2の生活実感は、中年層女性の肯定的回答割合が特に低かった（20.5%。市全体は26.5%）。

19 生涯学習 生活実感（世代別・性別）

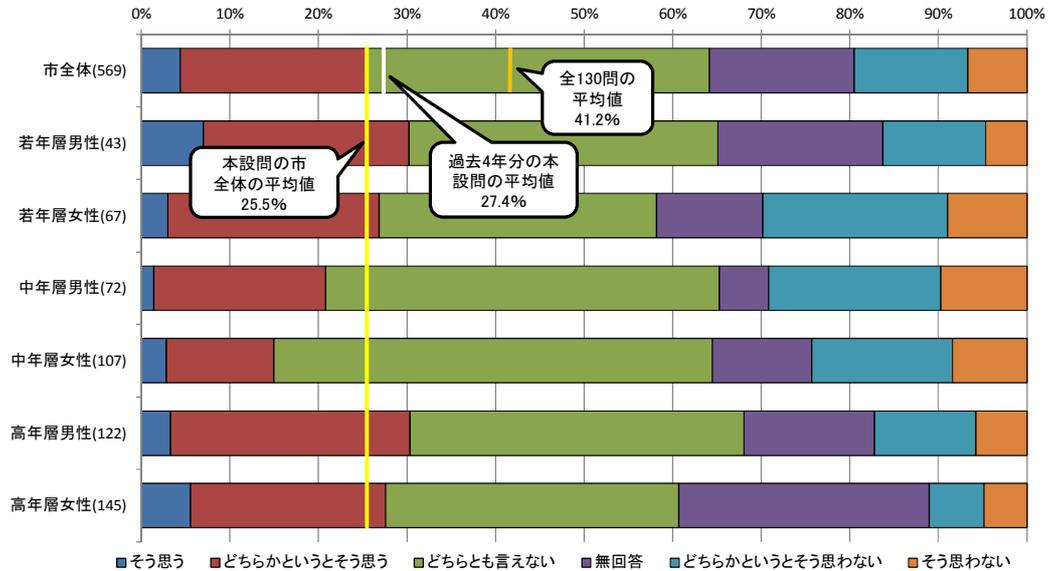
設問3：地域での取組において、幅広い世代がともに学べる機会が充実している。



・設問3の生活実感は、中年層男女の肯定的回答割合が市全体の平均値（32.8%）を大きく上回った。

19 生涯学習 生活実感（世代別・性別）

設問4：子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。



・設問4の生活実感は、子育て中の世帯が多い中年層の男女において低いが、特に中年層女性の肯定的回答割合が低く（15.0%。市全体は25.5%）、過去4年間の平均値（27.4%）と比べても低下していることには注意を要する。

20 歩くまち

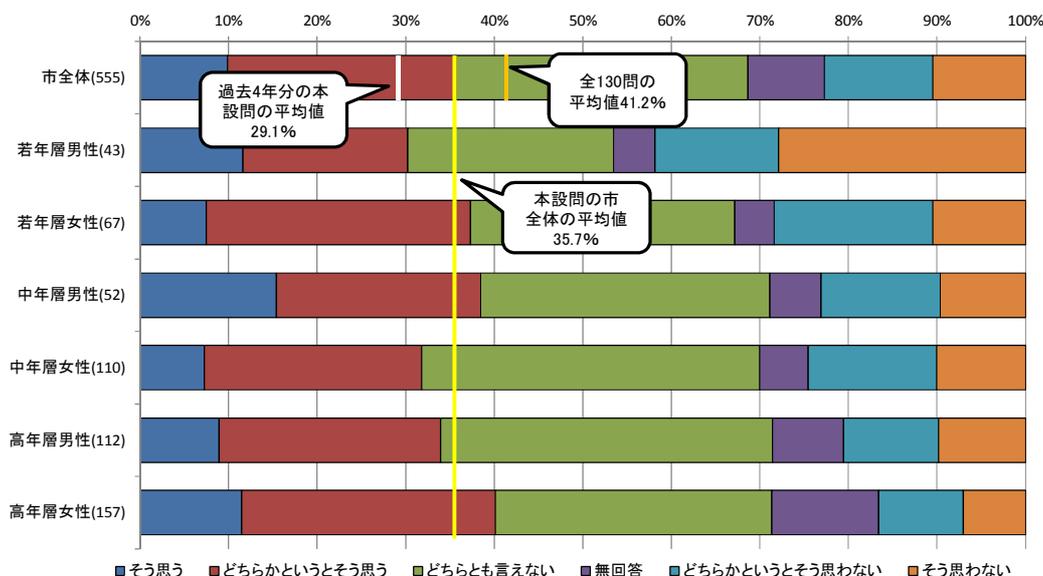
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	42.9%	42.3%	45.3%	46.7%	43.2%		73.3%	75.7%	74.0%

【考察】

- ・生活実感の肯定的回答割合は、市全体で平成26年度にピークとなり、今年度は低下に転じている。政策重要度はもともと低位であるが今年度はさらに順位を一つ落として21位となった。
- ・設問1「京都では、過度な自動車利用を控え、歩くことを中心としたライフスタイル（くらし方、生き方）が大切にされている。」を除き、すべての設問で生活実感の肯定的回答割合が過去4年間の平均値よりも低下した。
- ・その中でも設問4「まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。」の生活実感では、肯定的回答割合が市全体で過去4年間の平均値から4.0%減少し、特に平成26年度よりも5.9%減少（17.6%→11.7%）している。これには四条通歩道拡幅整備事業などの影響が考えられる。
- ・設問2「京都での移動には公共交通が便利である。」の生活実感では、若年層男性の肯定的回答割合の低さ（27.9%。市全体は55.5%）が際立っている。
- ・設問3「歩いてこそ魅力を満喫できるまちとなっている。」の生活実感では、若年層女性が特に高かった（77.6%。市全体は58.5%）。

20 歩くまち 生活実感（世代別・性別）

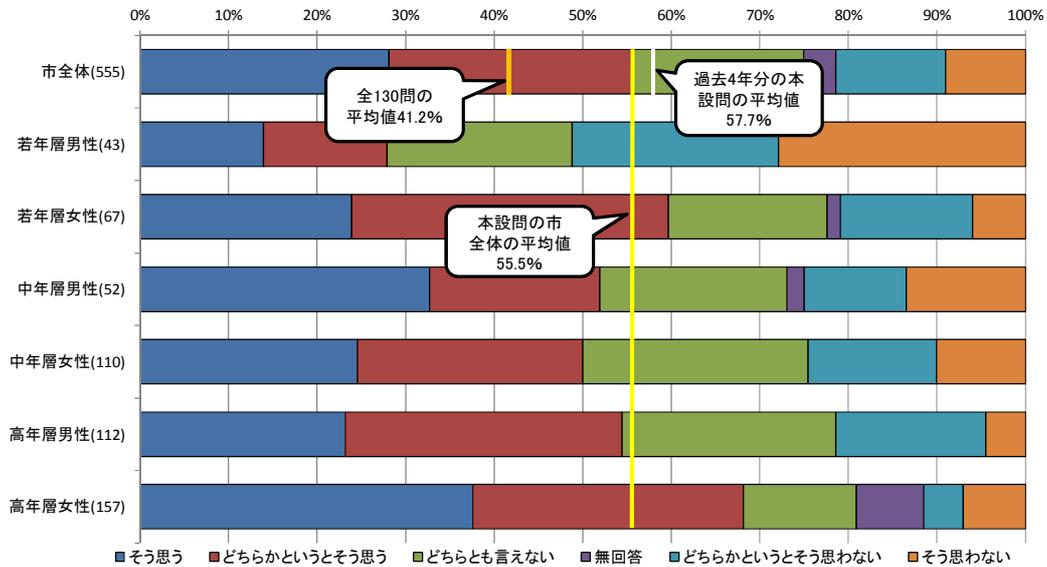
設問1：京都では、過度な自動車利用を控え、歩くことを中心としたライフスタイル（くらし方、生き方）が大切にされている。



- ・設問1は、この分野で唯一、生活実感の肯定的回答割合が過去4年間の平均値より上昇した。

20 歩くまち 生活実感（世代別・性別）

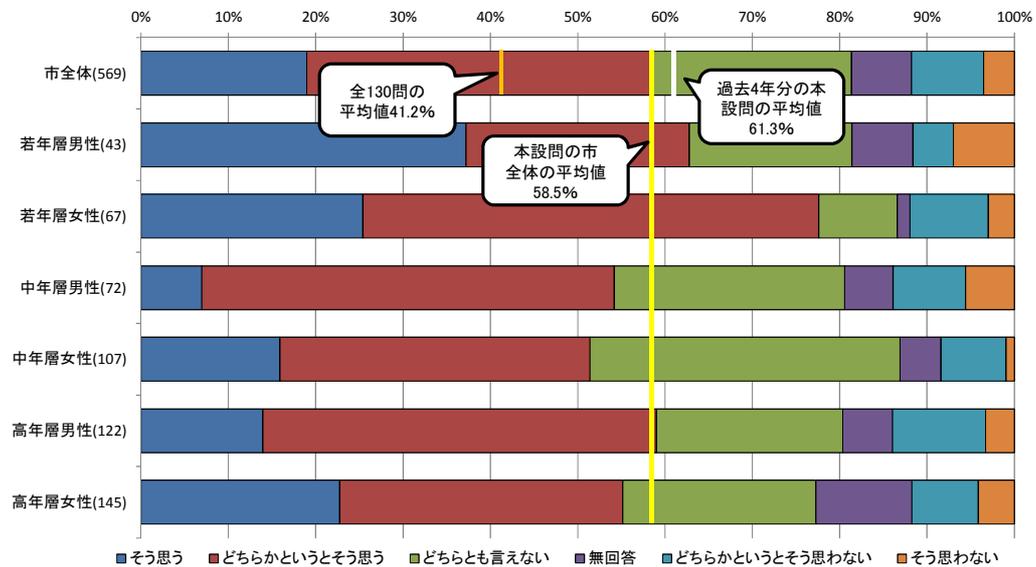
設問2：京都での移動には公共交通が便利である。



・設問2の生活実感では、若年層男性の肯定的回答割合の低さ（27.9%。市全体は55.5%）が際立っている。

20 歩くまち 生活実感（世代別・性別）

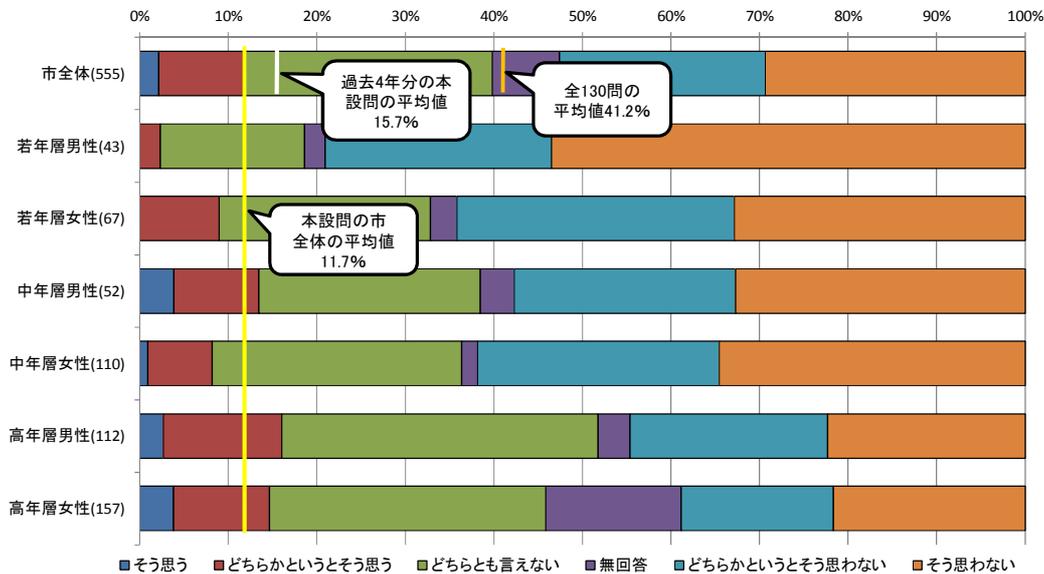
設問3：歩いてこそ魅力を満喫できるまちとなっている。



・設問3の生活実感は、若年層女性が特に高かった（77.6%。市全体は58.5%）。

20 歩くまち 生活実感（世代別・性別）

設問4：まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。



・設問4の生活実感は、肯定的回答割合が市全体で過去4年間の平均値から4.0%減少し、特に平成26年度よりも5.9%減少（17.6%→11.7%）している。これには四条通歩道拡幅整備事業などの影響が考えられる。

2.1 土地利用と都市機能配置

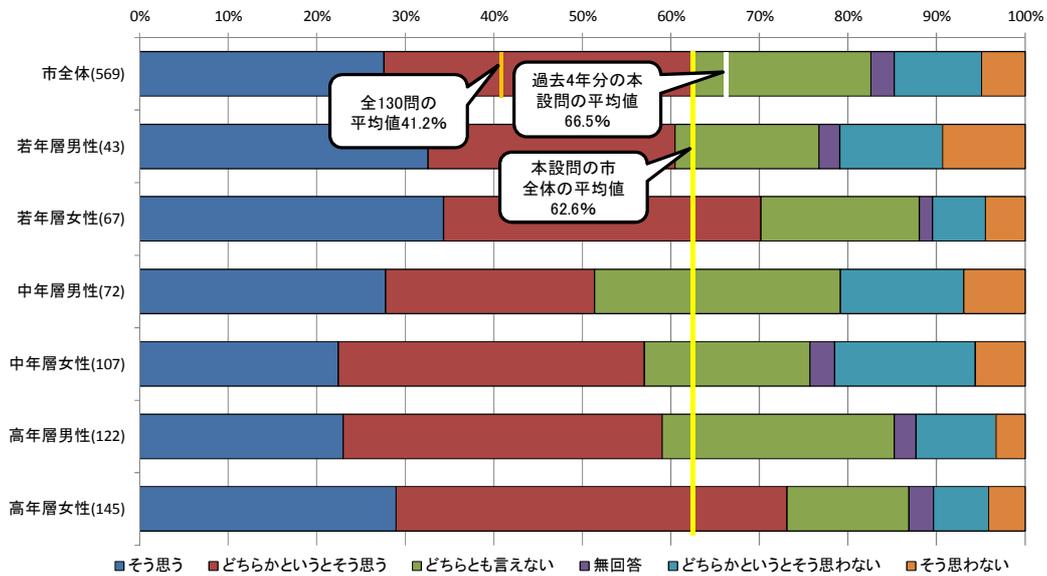
生活実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策重要度	H25	H26	H27
	47.6%	45.6%	46.6%	47.5%	43.6%		62.5%	63.3%	67.6%

【考察】

- ・設問1「買物などの日常生活には、徒歩や自転車、公共交通が便利である。」の生活実感は、男性よりも女性のほうが高い肯定的回答割合だった。
- ・設問2「田の字地域や京都駅の周辺は、にぎわいのある魅力的な地域である。」の生活実感は、若年層の男女とも高い肯定的回答割合だった（72.1%、73.1%。市全体は60.4%）。
- ・設問3「京都のまちの南部地域が発展してきている。」の生活実感は、肯定的回答割合が過去4年間の平均値と比較して大きく低下している（45.3%→37.1%）。若年層、とりわけ男性の低さが目立つ（18.6%。市全体は37.1%）。また該当地域である伏見区においても市全体の平均値を下回っている（34.7%）点は注意を要する。
- ・設問5「身近な地域で、自主的なまちづくり活動が進んでいる。」の生活実感は、勤労世帯の中核をなす中年層の男女の低さ（19.4%、15.9%）が特徴的である。
- ・市民にとって政策分野名から具体的な内容をイメージしづらいことも原因になっていると考えられるが、政策重要度は調査開始から一貫して最下位に位置している。

2.1 土地利用と都市機能配置 生活実感（世代別・性別）

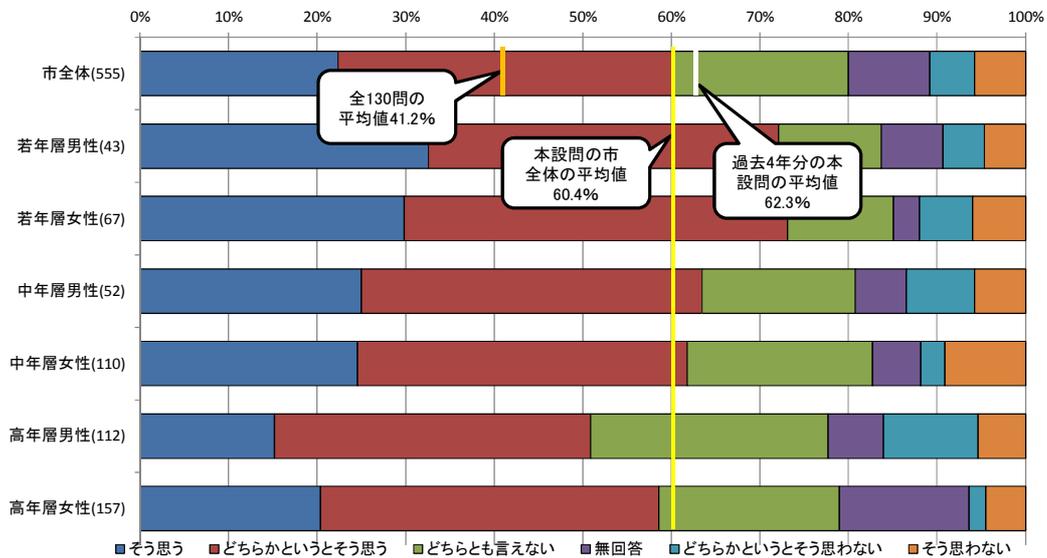
設問1：買物などの日常生活には、徒歩や自転車、公共交通が便利である。



・設問1の生活実感は、男性よりも女性のほうが高い肯定的回答割合だった。

2.1 土地利用と都市機能配置 生活実感（世代別・性別）

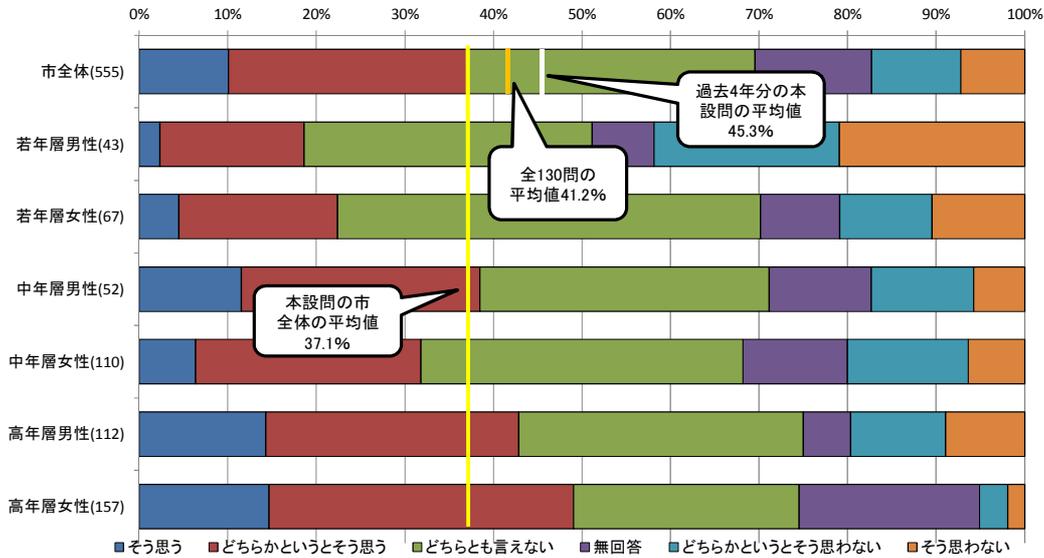
設問2：田の字地域や京都駅の周辺は、にぎわいのある魅力的な地域である。



・設問2の生活実感は、若年層の男女とも高い肯定的回答割合だった（72.1%、73.1%。市全体は60.4%）。

2.1 土地利用と都市機能配置 生活実感（世代別・性別）

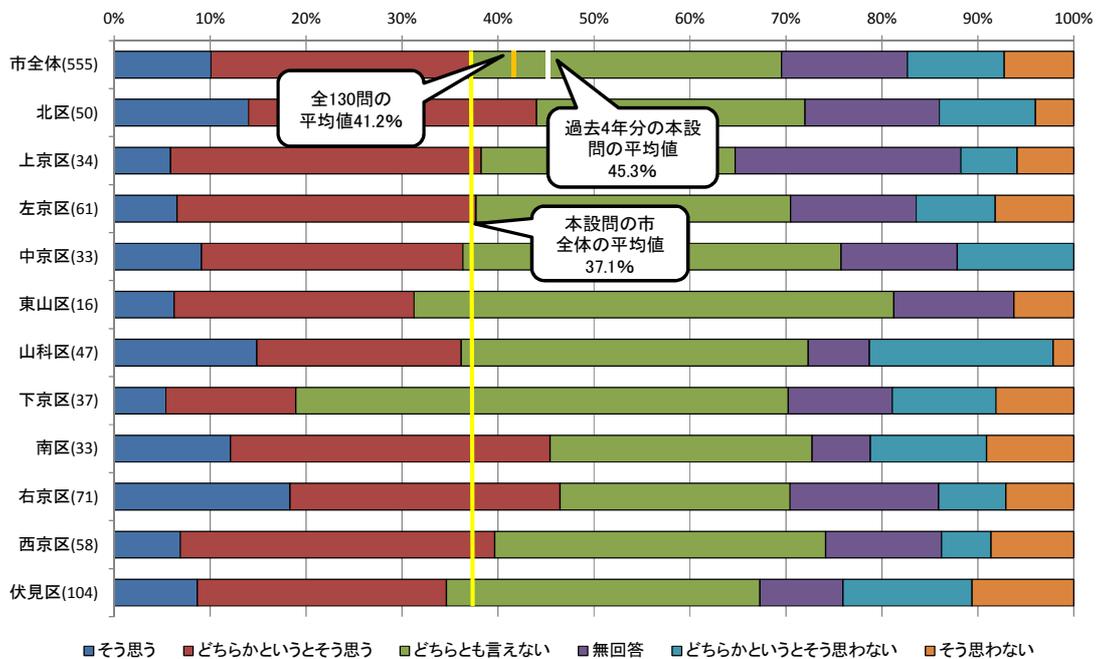
設問3：京都のまちの南部地域が発展してきている。



・設問3の生活実感は、肯定的回答割合が過去4年間の平均値と比較して大きく低下している（45.3%→37.1%）。若年層、とりわけ男性の低さが目立つ（18.6%。市全体は37.1%）。

(1) 生活実感（居住区別）

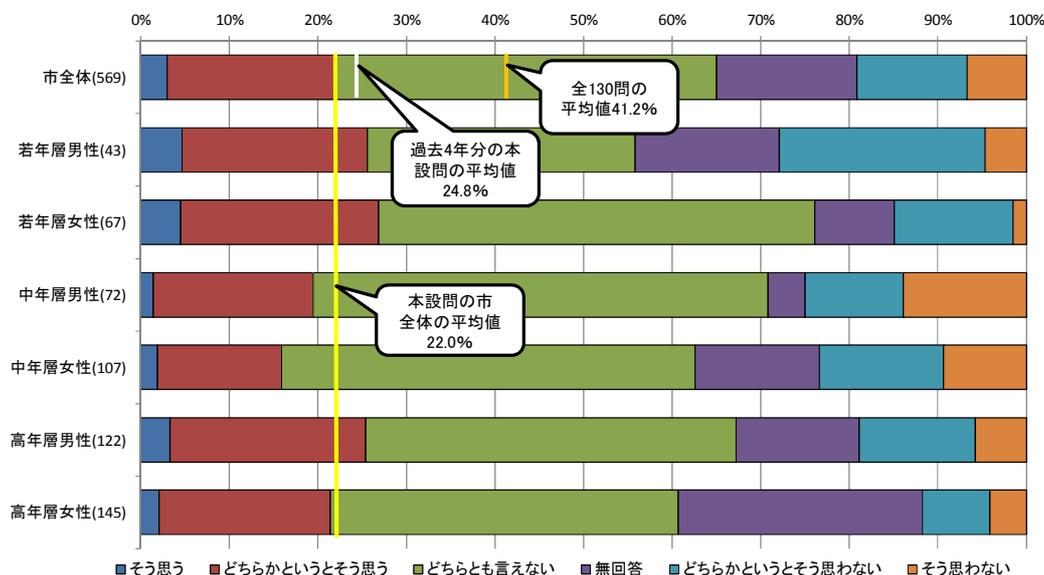
設問3：京都のまちの南部地域が発展してきている。



・設問3の生活実感は、該当地域である伏見区においても市全体の平均値を下回っている（34.7%）点は注意を要する。

2.1 土地利用と都市機能配置 生活実感（世代別・性別）

設問5：身近な地域で、自主的なまちづくり活動が進んでいる。



・設問5の生活実感は、勤労世帯の中核をなす中年層の男女の低さ（19.4%、15.9%）が特徴的である。

2.2 景観

生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	60.7%	59.3%	60.1%	60.4%	61.1%		80.6%	81.1%	83.7%

【考察】

・設問1「京都の個性的な町並み景観が守られている。」、設問2「身近に誇りや愛着を持てる町並みや風景がある。」、設問3「京都のくらしや文化を伝えている京町家が継承されている。」の生活実感は、若年層の男女の肯定的回答割合がいずれも高かった（65%～79%）ことが特徴的である。

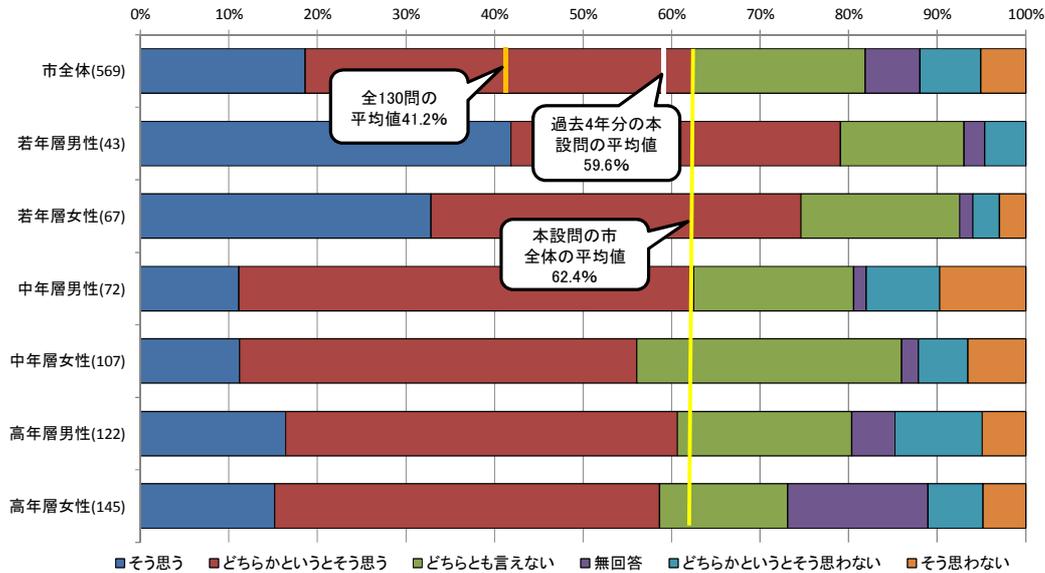
・中年層男性は設問2で生活実感の肯定的回答割合が高かった（71.2%。市全体は61.3%）。

・設問4「大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えてきている。」の生活実感は、中年層男性の肯定的回答割合が最も高かった（50.0%）一方、若年層男性の低さ（27.9%）が著しい。行政区別にみると、中京区（48.5%）、東山区（56.3%）、下京区（48.6%）で特に肯定的回答割合が高かった。

・政策重要度は、肯定的回答割合が若年層男性で26年度の1位から今年度9位に低下したものの、全世代別・性別で総じて高い政策分野である。

2.2 景観 生活実感（世代別・性別）

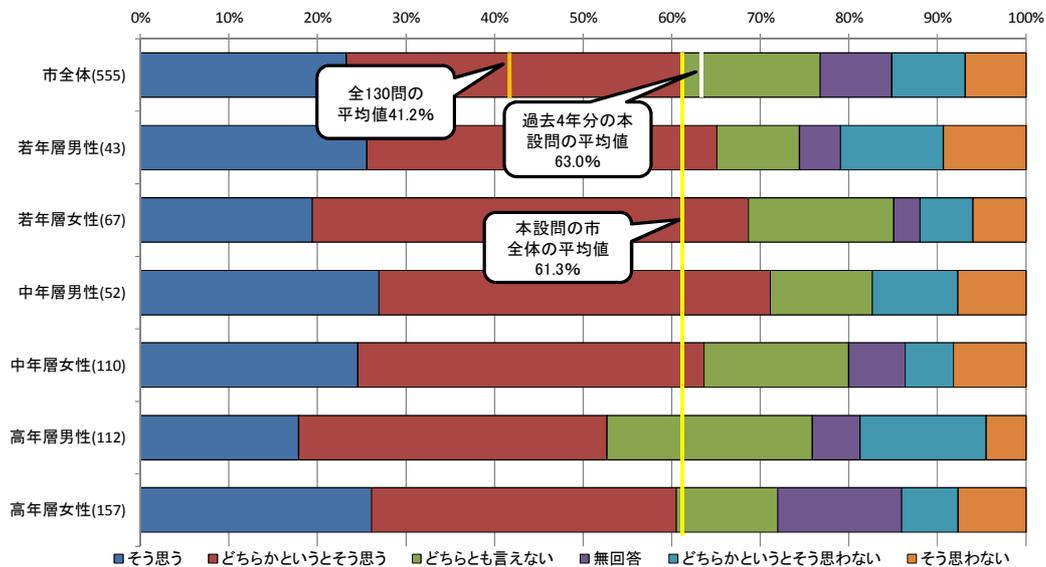
設問1：京都の個性的な町並み景観が守られている。



・設問1の生活実感は、若年層の男女の肯定的回答割合がいずれも高かった（79.1%、74.6%）ことが特徴的である。

2.2 景観 生活実感（世代別・性別）

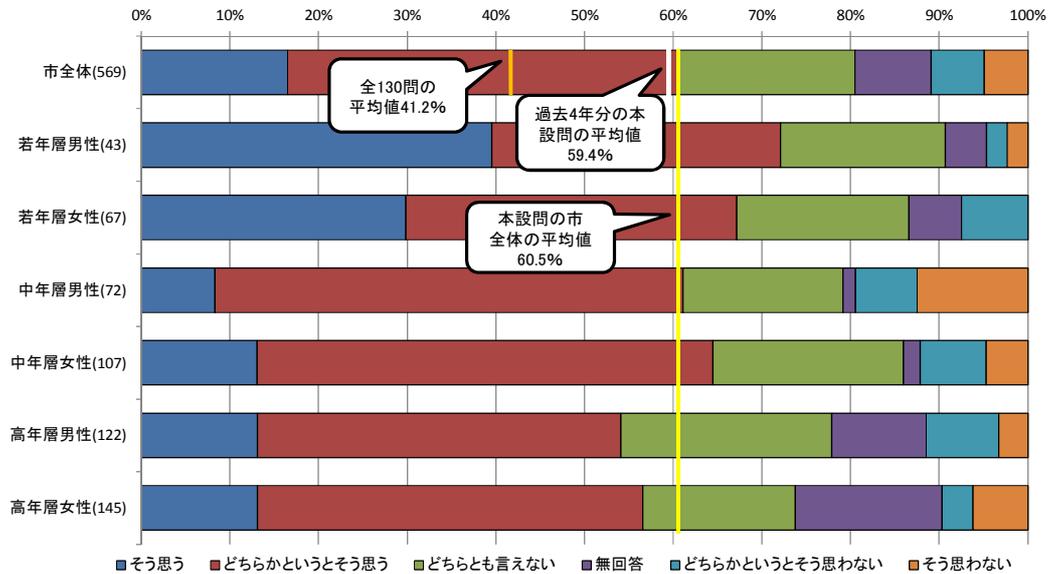
設問2：身近に誇りや愛着を持てる町並みや風景がある。



・設問2の生活実感は、若年層の男女の肯定的回答割合がいずれも高かった（65.1%、68.7%）こと、中年層男性の肯定的回答割合が高かった（71.2%）ことが特徴的である。

2.2 景観 生活実感（世代別・性別）

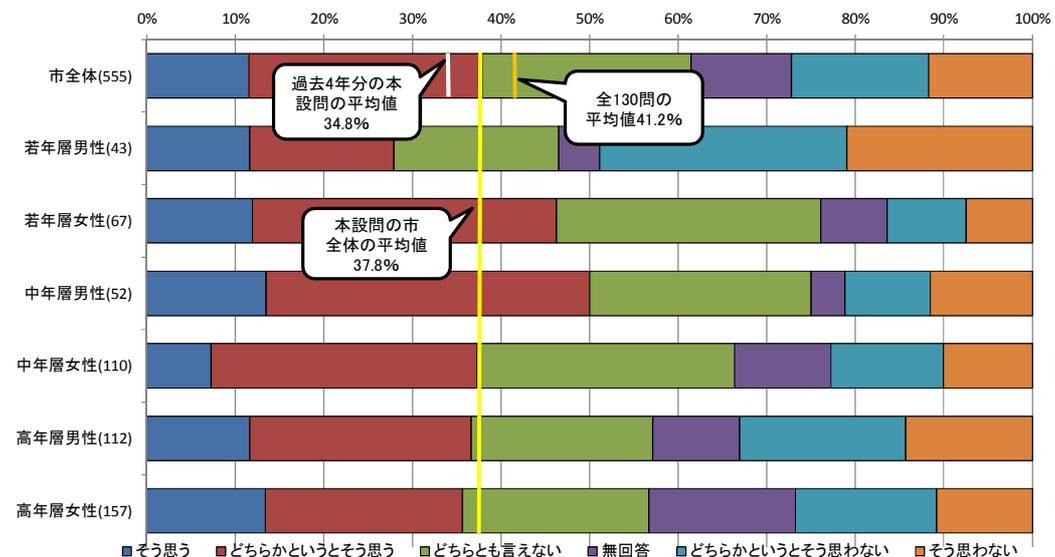
設問3：京都のくらしや文化を伝えている京町家が継承されている。



・設問3の生活実感は、若年層の男女の肯定的回答割合がいずれも高かった（72.1%、67.2%）ことが特徴的である。

2.2 景観 生活実感（世代別・性別）

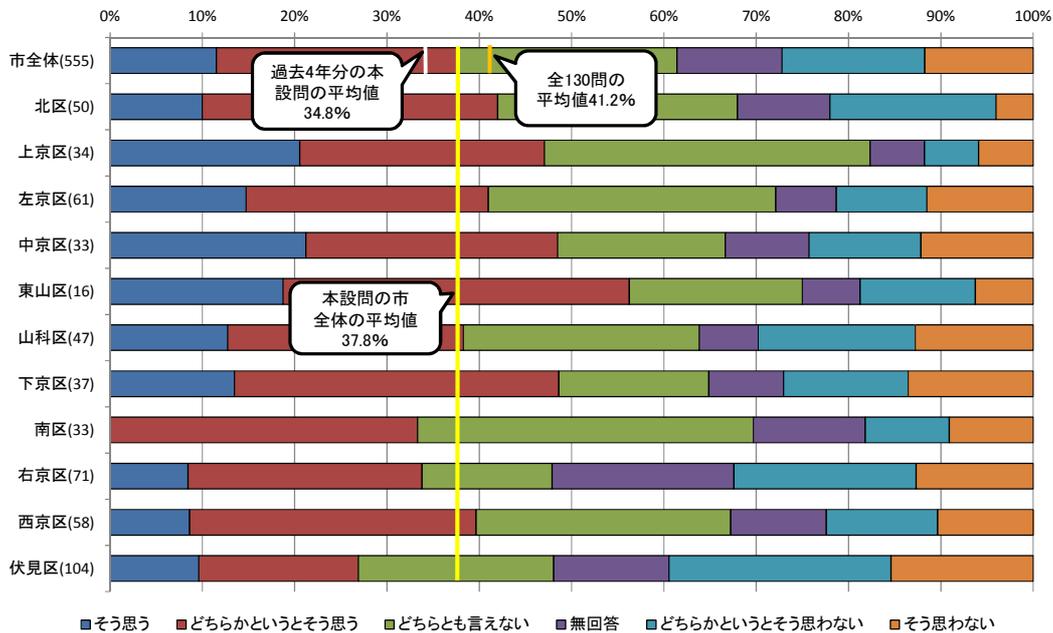
設問4：大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えてきている。



・設問4の生活実感は中年層男性の肯定的回答割合が最も高かった（50.0%）一方、若年層男性の低さ（27.9%）が著しい。

2.2 景観 生活実感（居住区別）

設問4：大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えてきている。



・設問4の生活実感は、行政区別にみると、中京区（48.5%）、東山区（56.3%）、下京区（48.6%）で特に肯定的回答割合が高かった。

2.3 建築物

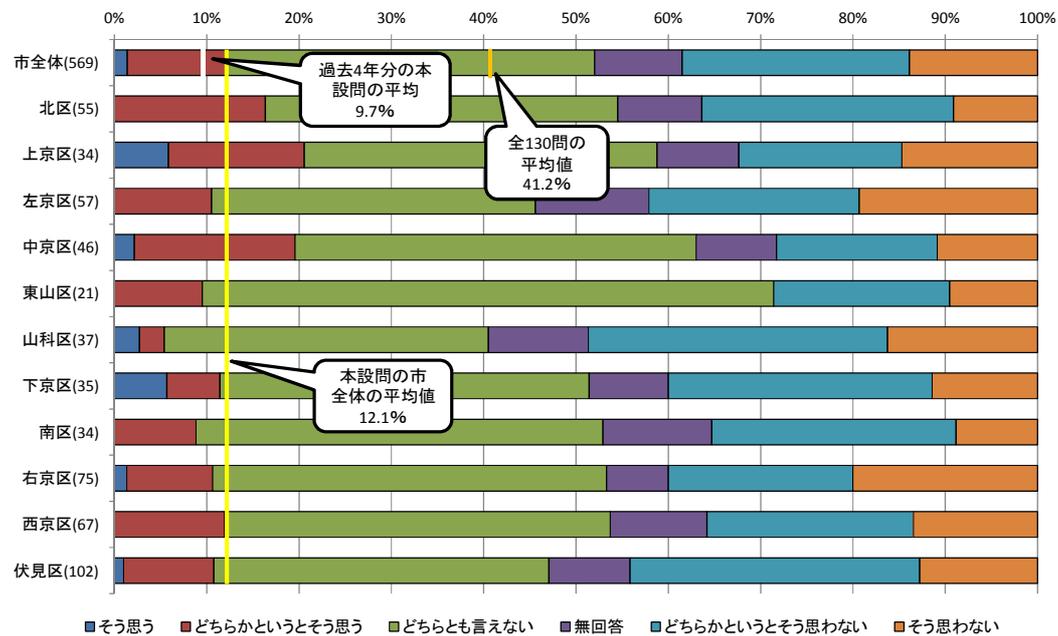
生活実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策重要度	H25	H26	H27
	33.8%	31.8%	33.0%	34.1%	36.8%		80.6%	82.3%	83.5%

【考察】

- ・生活実感のすべての設問において、市全体の肯定的な回答割合が過去4年間の平均値よりも高くなった。
- ・設問4「身近な地域にある細い道は、地震や火災などの災害時に被害が大きくなるよう改善されている。」の生活実感は、5年間連続して肯定的回答割合が10%程度にとどまっており、とりわけ山科区での低さが際立っている（5.4%。市全体は12.1%）。
- ・政策重要度は、どの世代でも男性よりも女性のほうが高く、かつ世代が上がるにつれて肯定的回答割合が増加している。

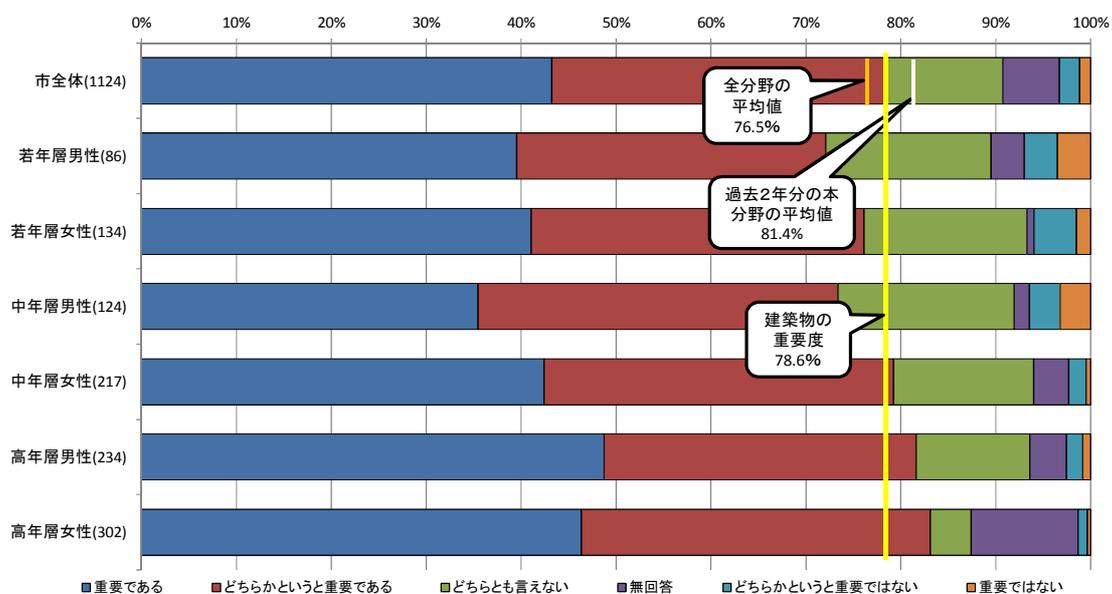
2.3 建築物 生活実感（居住区別）

設問4：身近な地域にある細い道は、地震や火災などの災害時に被害が大きくな
らないよう改善されている。



・設問4の生活実感は、5年間連続して肯定的回答割合が10%程度にとどまっており、とりわけ山科区での低さが際立っている（5.4%。市全体は12.1%）。

2.3 建築物 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度は、どの世代でも男性よりも女性のほうが高く、かつ世代が上がるにつれて肯定的回答割合が増加している。

2 4 住宅

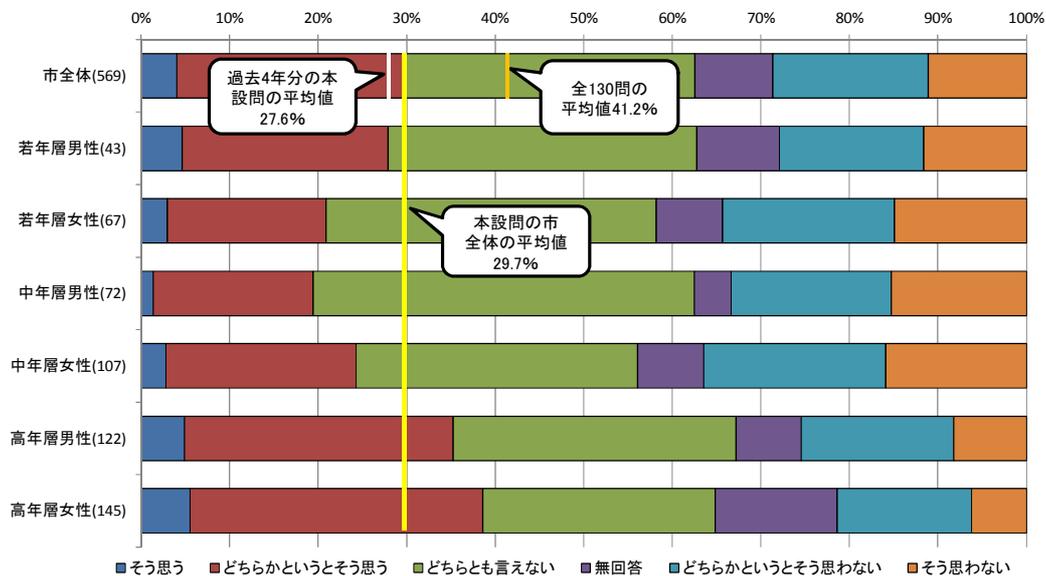
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	23.4%	20.5%	23.1%	24.4%	23.3%		75.5%	77.7%	78.0%

【考察】

- ・設問2「地域の行事や自治会活動に、以前から住んでいるひと、新しく転入してきたひと、分け隔てなく参加している。」の生活実感の肯定的回答割合は、若年層と中年層が低く（20%～28%）、高年層が高かった（35%～39%）。また左京区の低さ（10.5%）が群を抜いていた。
- ・設問3「身近な地域で空き家が減っている。」の生活実感の肯定的回答割合は、どの世代においても男性より女性のほうが高かった。また住民の高齢化が進み、空き家問題が深刻な東山区では、回答数が少ない（16人）とはいえ、肯定的回答がゼロだったことは注目に値する。
- ・設問4「低所得者や高齢者などがくらしやすい市営住宅や民間賃貸住宅が十分に確保されている。」の生活実感は、5年間を通じてきわめて低い（今年度14.1%、過去4年間平均14.0%）ままであることが特徴的である。

2 4 住宅 生活実感（世代別・性別）

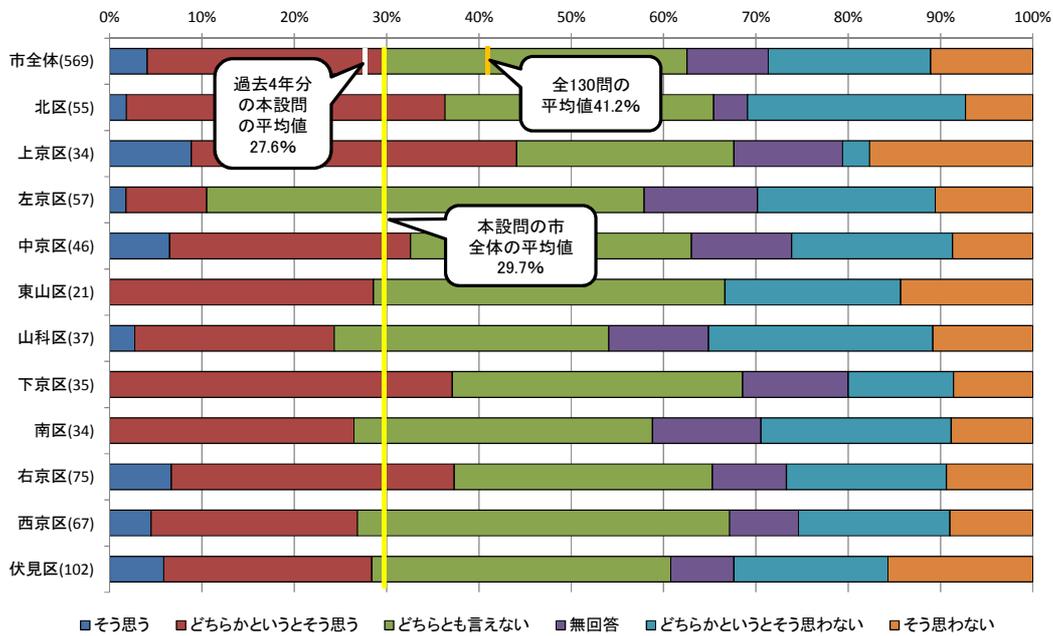
設問2：地域の行事や自治会活動に、以前から住んでいるひと、新しく転入してきたひと、分け隔てなく参加している。



- ・設問2の生活実感の肯定的回答割合は、若年層と中年層が低く（20%～28%）、高年層が高かった（35%～39%）。

2.4 住宅 生活実感（居住区別）

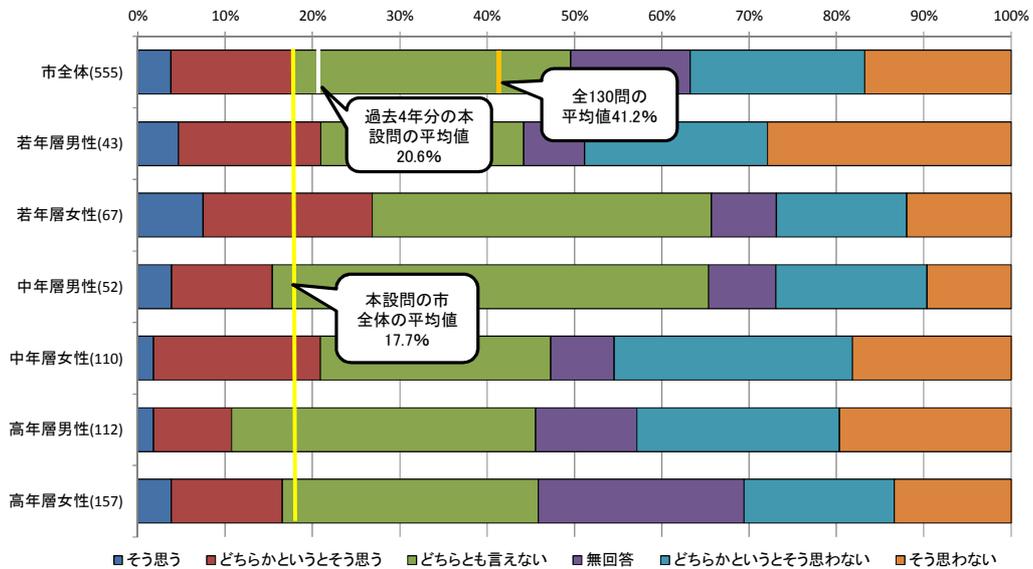
設問2：地域の行事や自治会活動に、以前から住んでいるひと、新しく転入してきたひと、分け隔てなく参加している。



・設問2の生活実感の肯定的回答割合は、左京区の低さ（10.5%）が群を抜いていた。

2.4 住宅 生活実感（世代別・性別）

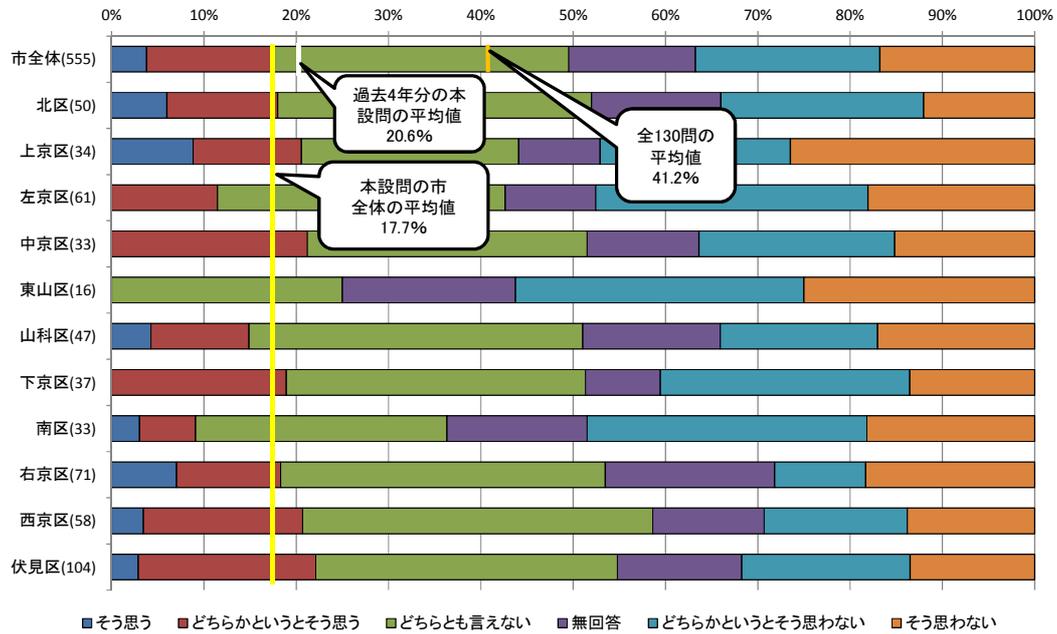
設問3：身近な地域で空き家が減っている。



・設問3の生活実感の肯定的回答割合は、どの世代においても男性より女性のほうが高かった。

2.4 住宅 生活実感（居住区別）

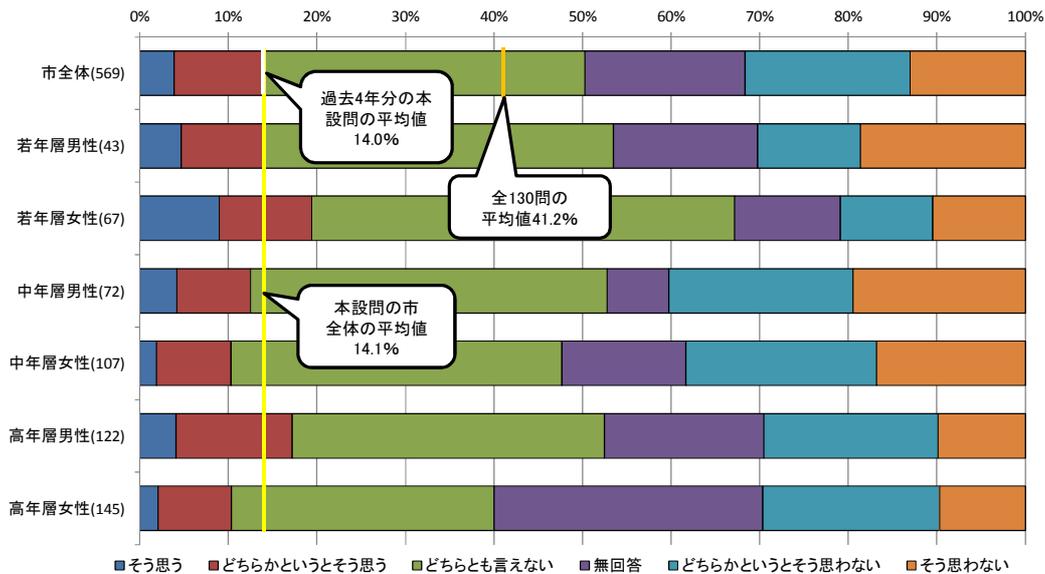
設問3：身近な地域で空き家が減っている。



・設問3の生活実感は、住民の高齢化が進み、空き家問題が深刻な東山区では、回答数が少ない（16人）とはいえ、肯定的回答がゼロだったことは注目に値する。

2.4 住宅 生活実感（世代別・性別）

設問4：低所得者や高齢者などがくらしやすい市営住宅や民間賃貸住宅が十分に確保されている。



・設問4の生活実感は、5年間を通じてきわめて低い（今年度14.1%、過去4年間の平均14.0%）ままであることが特徴的である。

25 道と緑

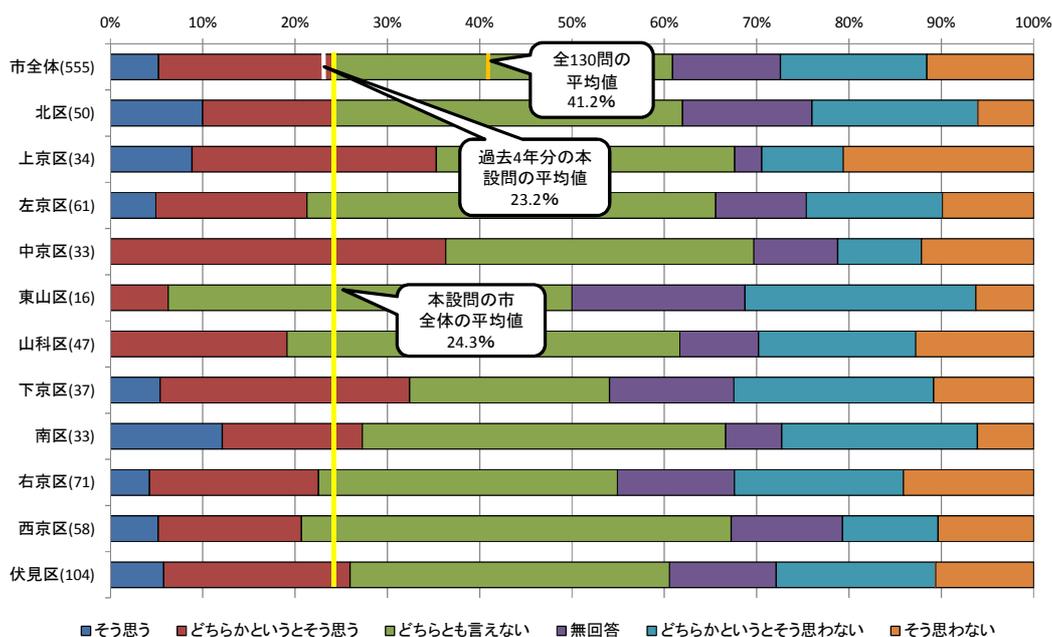
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	44.1%	41.7%	42.9%	44.8%	43.2%		83.6%	83.1%	85.1%

【考察】

- ・設問1「災害時も安全に移動できる道路網ができている。」と設問4「道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。」の生活実感の肯定的回答割合は、東山区での低さが突出（6.3%。市全体は24.3%、23.7%。市全体は42.9%）している。東山区は全設問において市全体を下回っていた。
- ・設問3「市内の道路や橋が、市民の財産として、よい状態で管理されている。」の生活実感の肯定的回答割合は、どの世代でも女性より男性のほうが高かった。
- ・設問4の生活実感の肯定的回答割合は、中年層男性の低さが際立っている（27.8%。市全体は42.9%）。

25 道と緑 生活実感（居住区別）

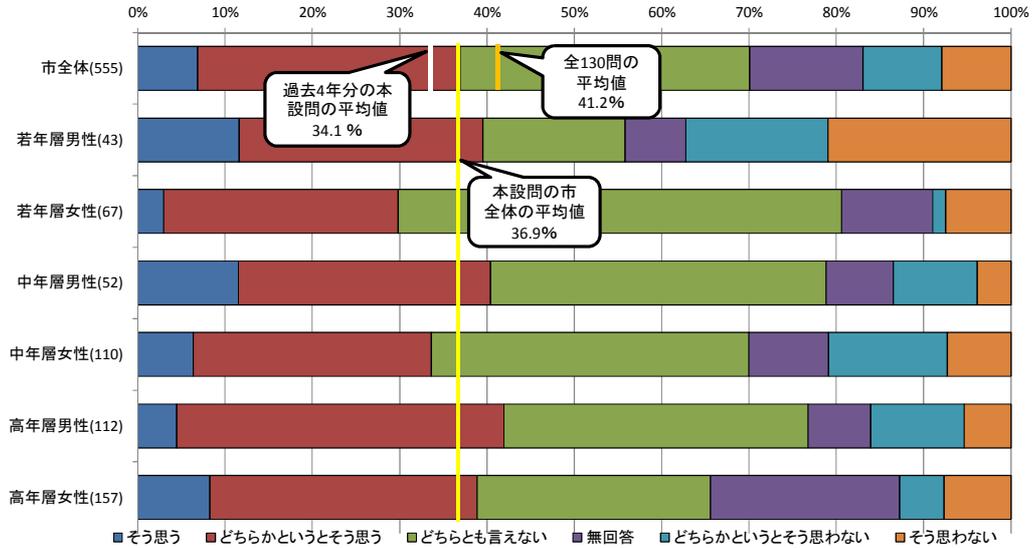
設問1：災害時も安全に移動できる道路網ができている。



- ・設問1の生活実感の肯定的回答割合は、東山区での低さが突出（6.3%。市全体は24.3%）している。

25 道と緑 生活実感（世代別・性別）

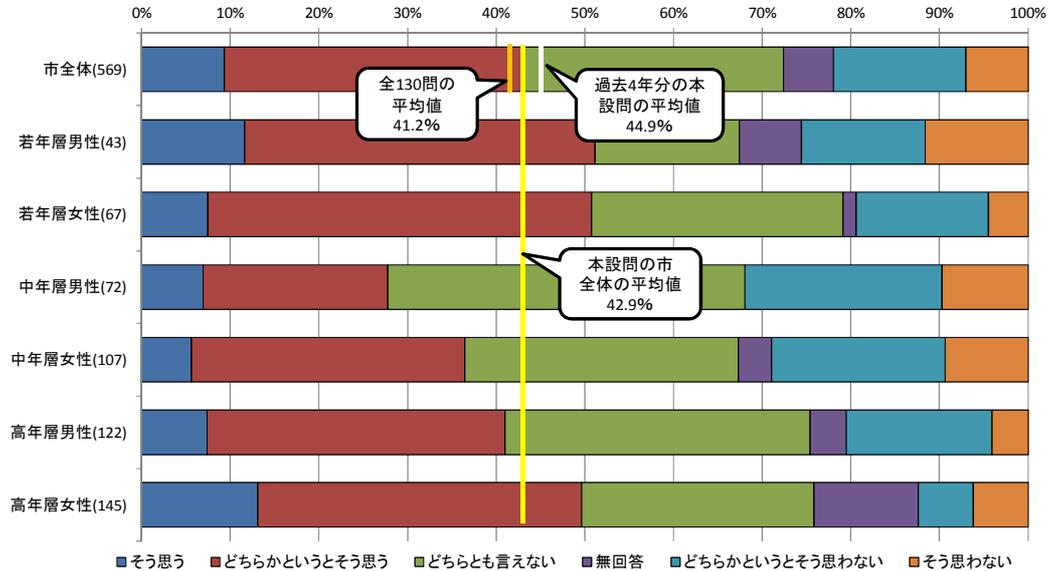
設問3：市内の道路や橋が、市民の財産として、よい状態で管理されている。



・設問3の生活実感の肯定的回答割合は、どの世代でも女性より男性のほうが高かった。

25 道と緑 生活実感（世代別・性別）

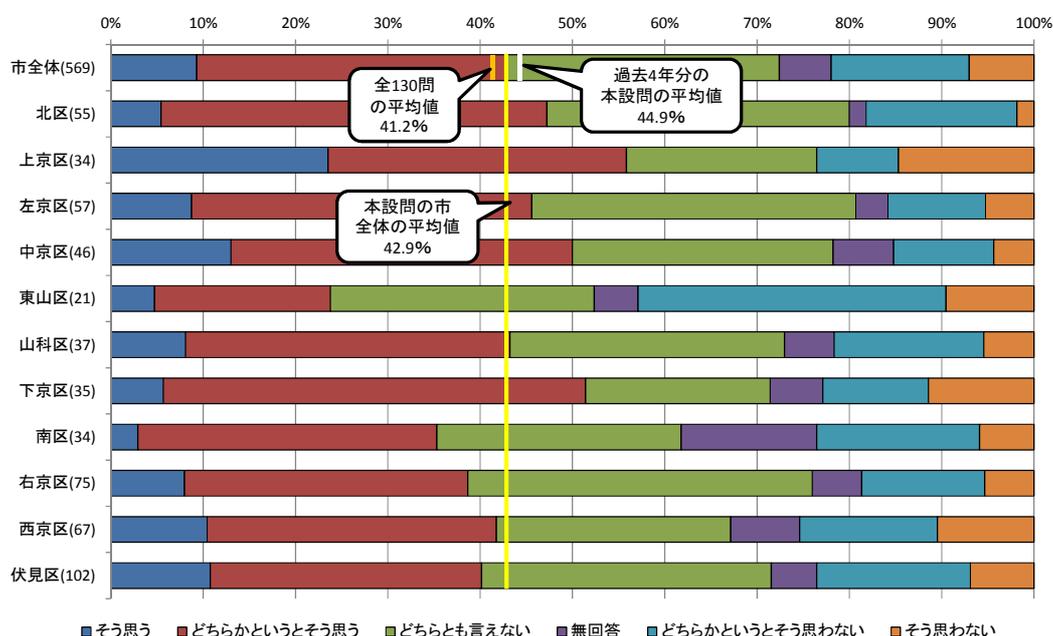
設問4：道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。



・設問4の生活実感の肯定的回答割合は、中年層男性の低さが際立っている（27.8%。市全体は42.9%）。

2.5 道と緑 生活実感（居住区別）

設問4：道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。



・設問4の生活実感の肯定的回答割合は、東山区での低さが突出（23.7%。市全体は42.9%）している。

2.6 消防・防災

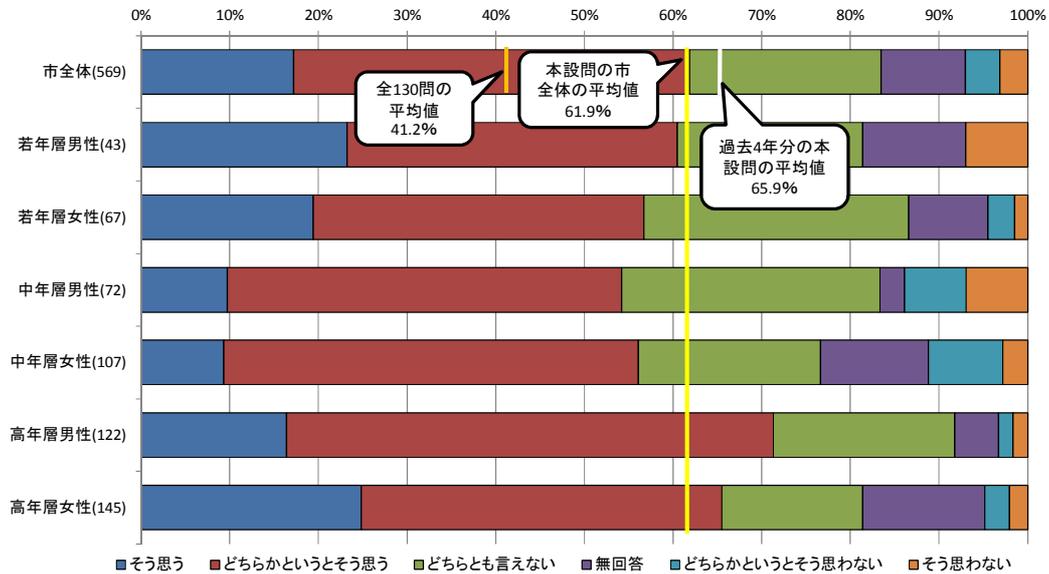
生活実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策重要度	H25	H26	H27
	50.2%	45.2%	49.1%	49.0%	48.4%		90.9%	90.5%	91.9%

【考察】

- ・政策重要度は過去2年に続いて第1位であり、市民にとって最も関心が高い政策分野といえる。
- ・設問2「京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。」と設問5「防災意識の向上とともに、地域ぐるみの災害対応力が高まっている。」の生活実感の肯定的回答割合は、実際の担い手として期待される若年層・中年層が低かった（いずれも市全体の平均値以下）。
- ・設問3「消防署は、火災や事故などが発生した場合に適切に対応し、いざというときに頼りになる。」の生活実感の肯定的回答割合は、若年層男性が低く（51.2%。市全体は70.3%）、逆に中年層男性が高かった（82.7%）。
- ・設問4「応急手当の知識や技術を備えたひとが増えている。」の生活実感の肯定的回答割合は、若年層の男女とも低さが突出している（約19%。市全体は30%）。
- ・政策重要度は、若い世代ほど肯定的回答割合が低い。若年層男女の約83%、85%に比べて、高年層男女は約92%、91%。

2.6 消防・防災 生活実感（世代別・性別）

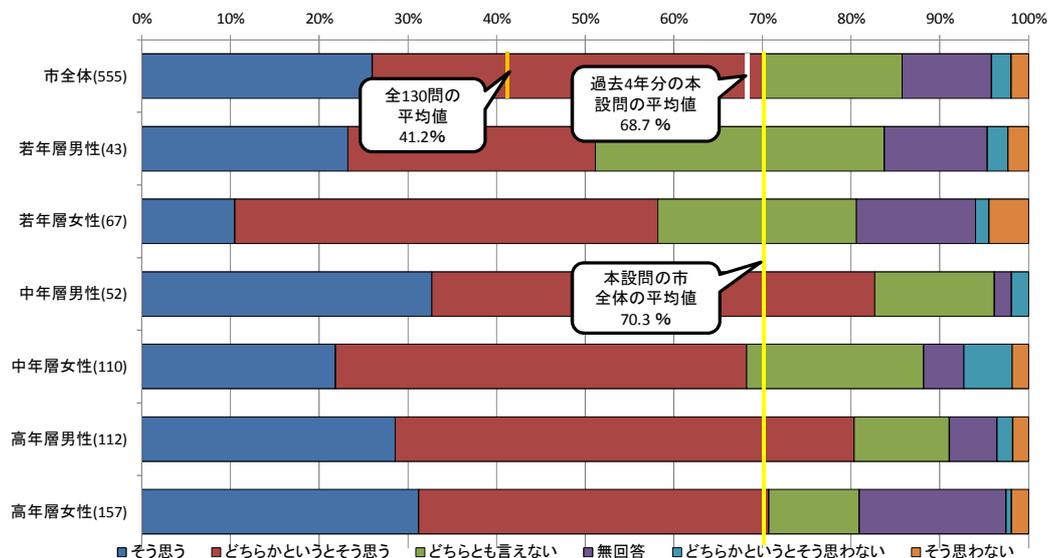
設問2：京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。



・設問2の生活実感の肯定的回答割合は、実際の担い手として期待される若年層・中年層が低かった（いずれも市全体の平均値以下）。

2.6 消防・防災 生活実感（世代別・性別）

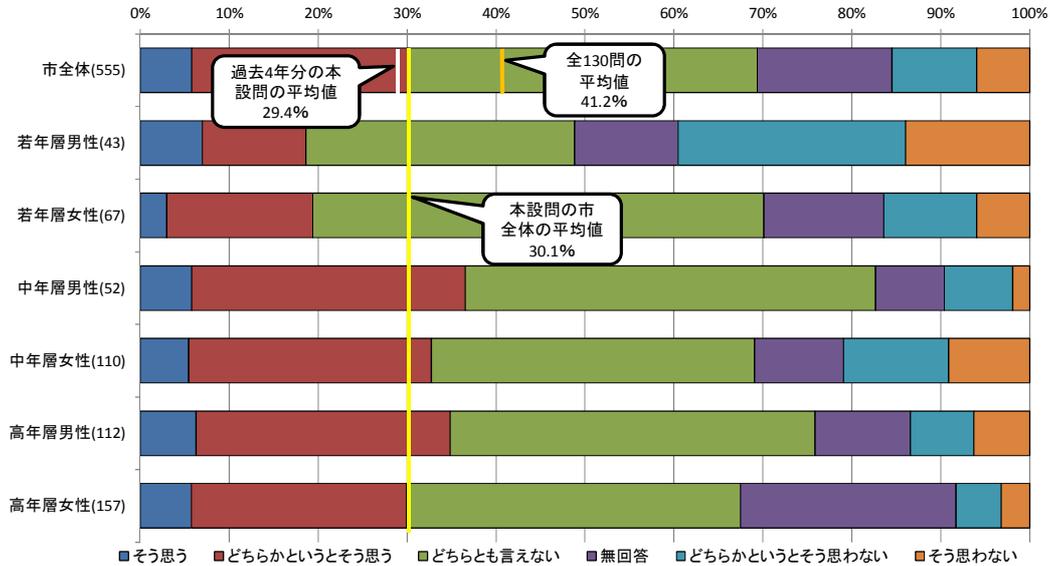
設問3：消防署は、火災や事故などが発生した場合に適切に対応し、いざというときに頼りになる。



・設問3の生活実感の肯定的回答割合は、若年層男性が低く（51.2%。市全体は70.3%）逆に中年層男性が高かった（82.7%）。

26 消防・防災 生活実感（世代別・性別）

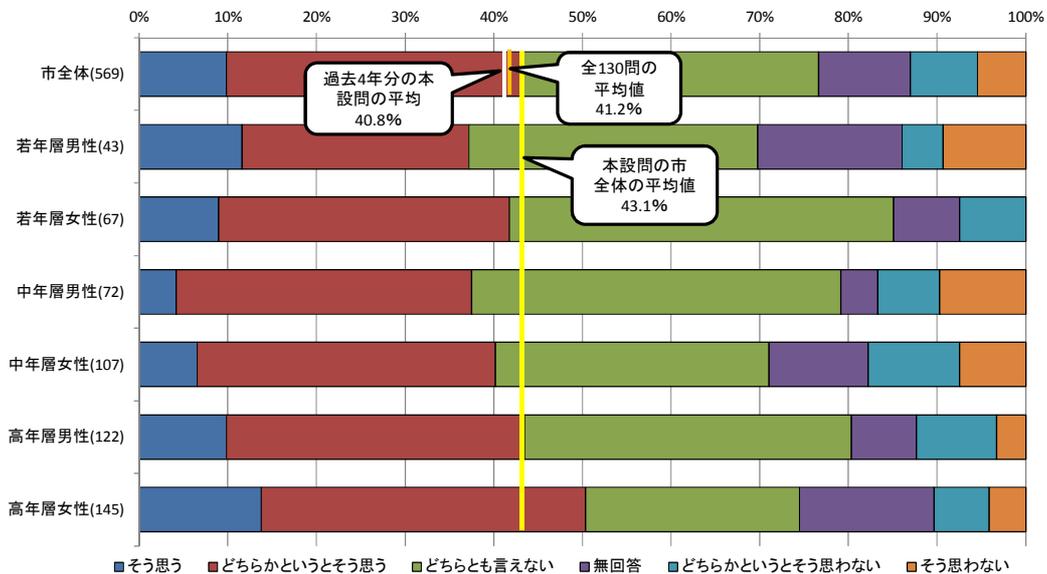
設問4：応急手当の知識や技術を備えたひとが増えている。



・設問4の生活実感の肯定的回答割合は、若年層の男女とも低さが突出している（約19%。市全体は30%）。

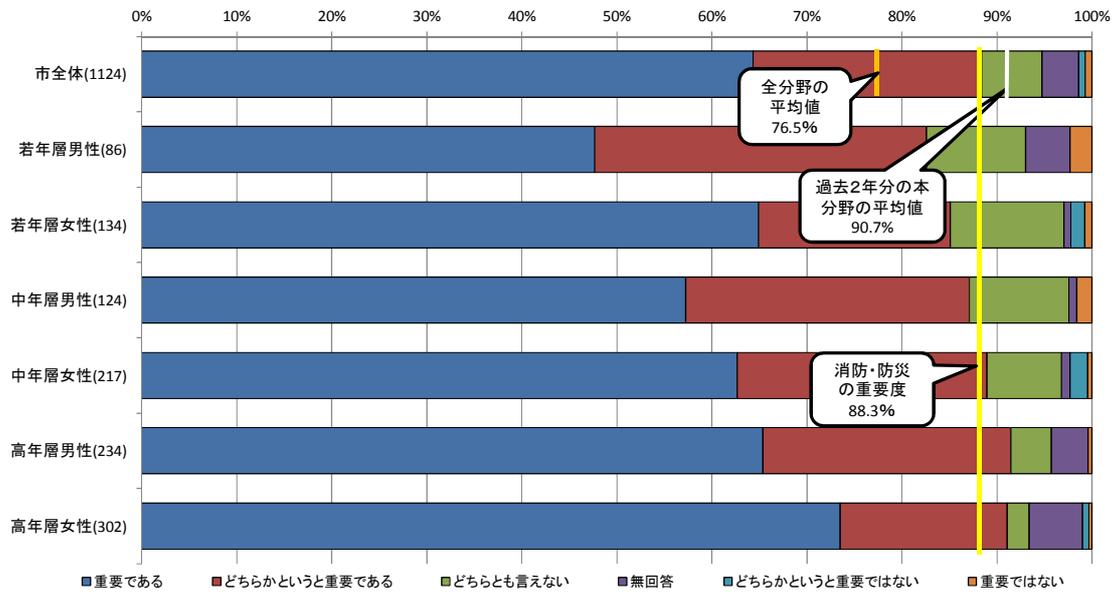
26 消防・防災 生活実感（世代別・性別）

設問5：防災意識の向上とともに、地域ぐるみの災害対応力が高まっている。



・設問5の生活実感の肯定的回答割合は、実際の担い手として期待される若年層・中年層が低かった（いずれも市全体の平均値以下）。

26 消防・防災 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度は、若い世代ほど肯定的回答割合が低い。若年層男女の約83%、85%に比べて、高年層男女は約92%、91%。

27 暮らしの水

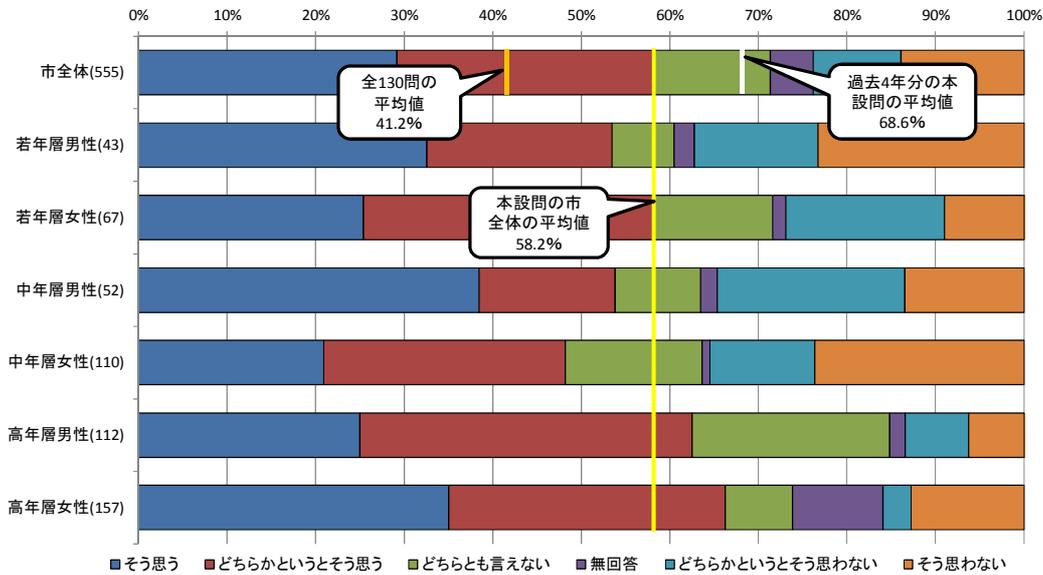
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	63.4%	60.7%	61.9%	60.7%	61.4%		90.1%	89.9%	90.9%

【考察】

- ・生活実感、政策重要度とも、分野全体を通して全体的に高年層の肯定的回答割合が高かった。
- ・設問2「大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。」の生活実感の肯定的回答割合は、顕著に低下した昨年度と比較すると持ち直した（53.1%→58.2%）ものの、過去4年間の平均値（68.6%）を大きく下回っている。行政区別に見ると右京区、西京区及び伏見区が特に低かった（49.3%、43.1%、43.3%）。
- ・設問4「水道水がおいしくなるなど、京都の上下水道サービスは向上している。」、設問5「京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。」、設問6「水や水辺環境が大切にされるなど、水と共に生きる意識が高まっている。」の生活実感は、いずれも若年層の男女とも肯定的回答割合が低かった。

27 暮らしの水 生活実感（世代別・性別）

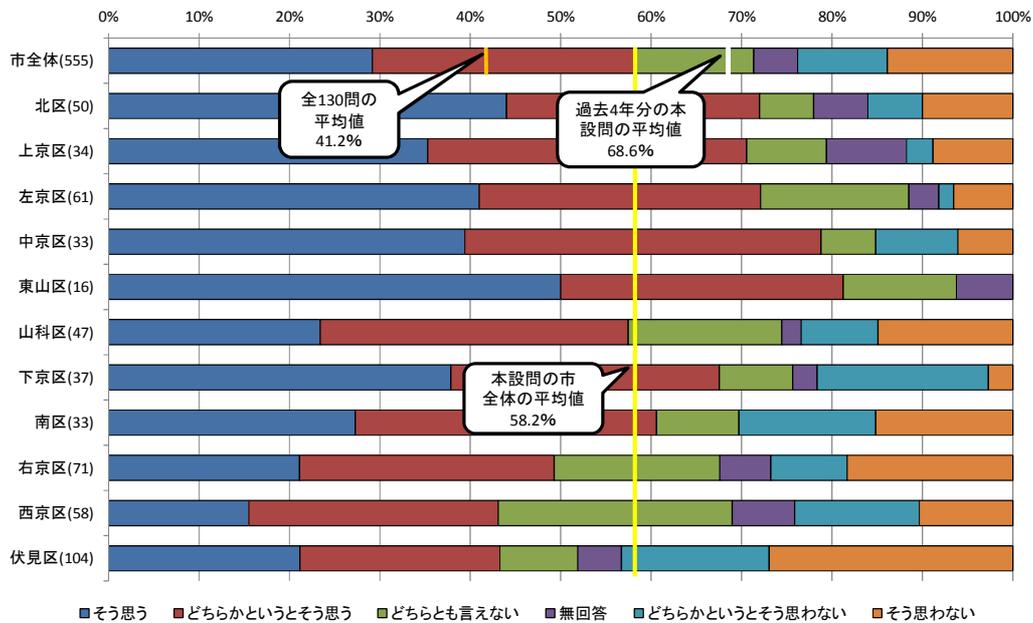
設問2：大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。



・設問2の生活実感の肯定的回答割合は、顕著に低下した昨年度と比較すると持ち直している（53.1%→58.2%）ものの、過去4年間の平均値（68.6%）を大きく下回っている。

27 暮らしの水 生活実感（居住区別）

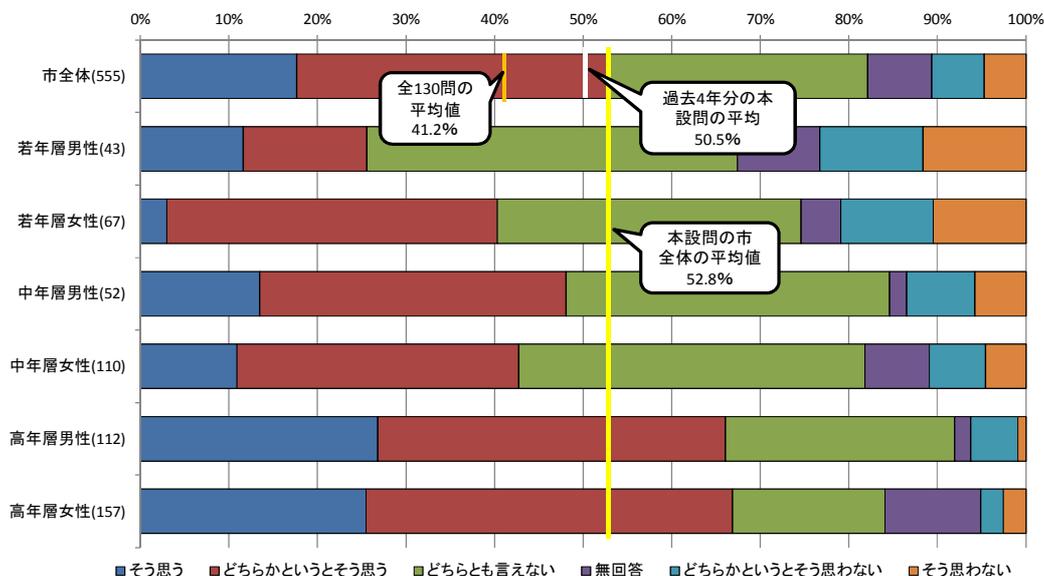
設問2：大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。



・設問2の生活実感の肯定的回答割合は、行政区別に見ると右京区、西京区及び伏見区が特に低かった（49.3%、43.1%、43.3%）。

27 暮らしの水 生活実感（世代別・性別）

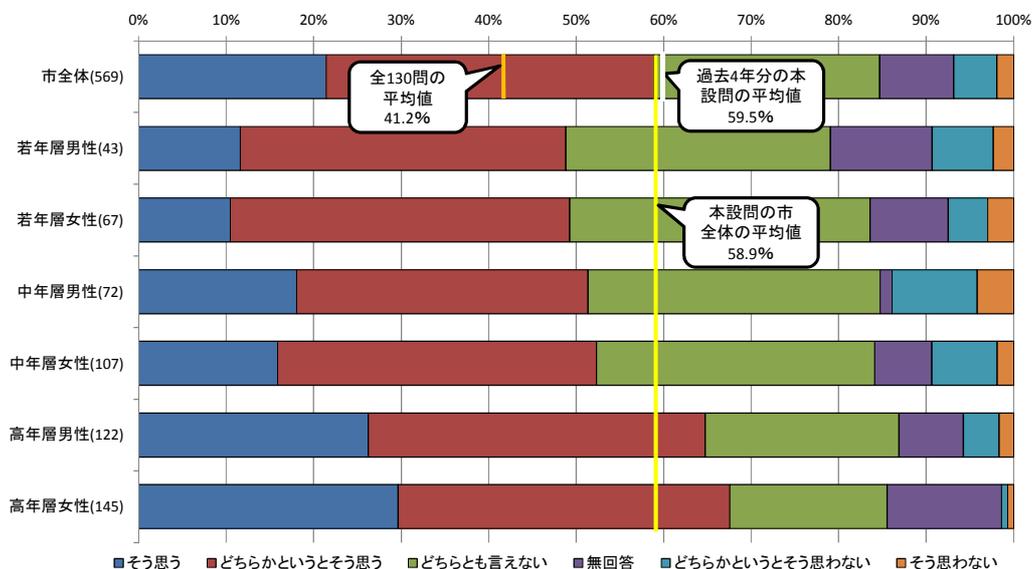
設問4：水道水がおいしくなるなど、京都の上下水道サービスは向上している。



・設問4の生活実感は、若年層の男女とも肯定的回答割合が低かった。

27 暮らしの水 生活実感（世代別・性別）

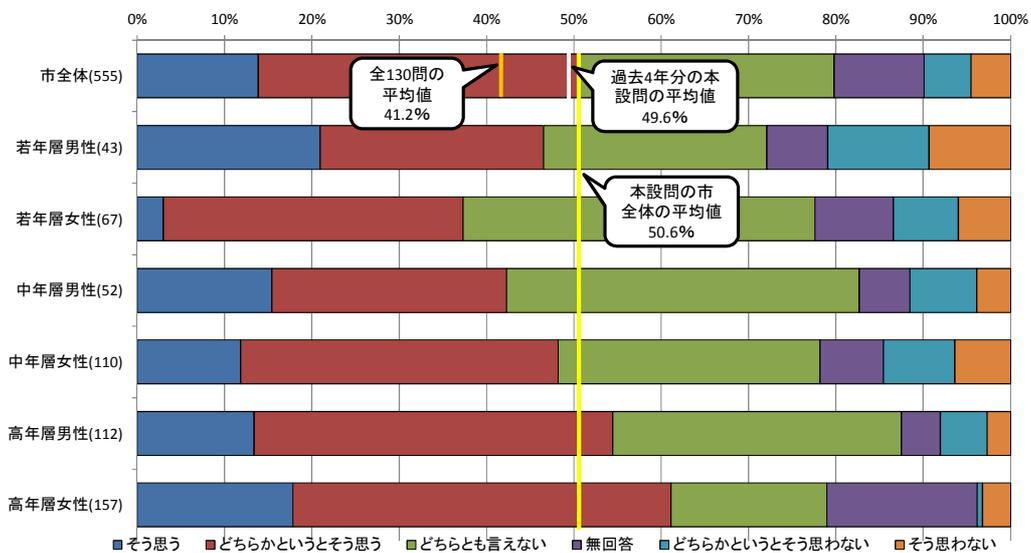
設問5：京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。



・設問5の生活実感は、若年層の男女とも肯定的回答割合が低かった。

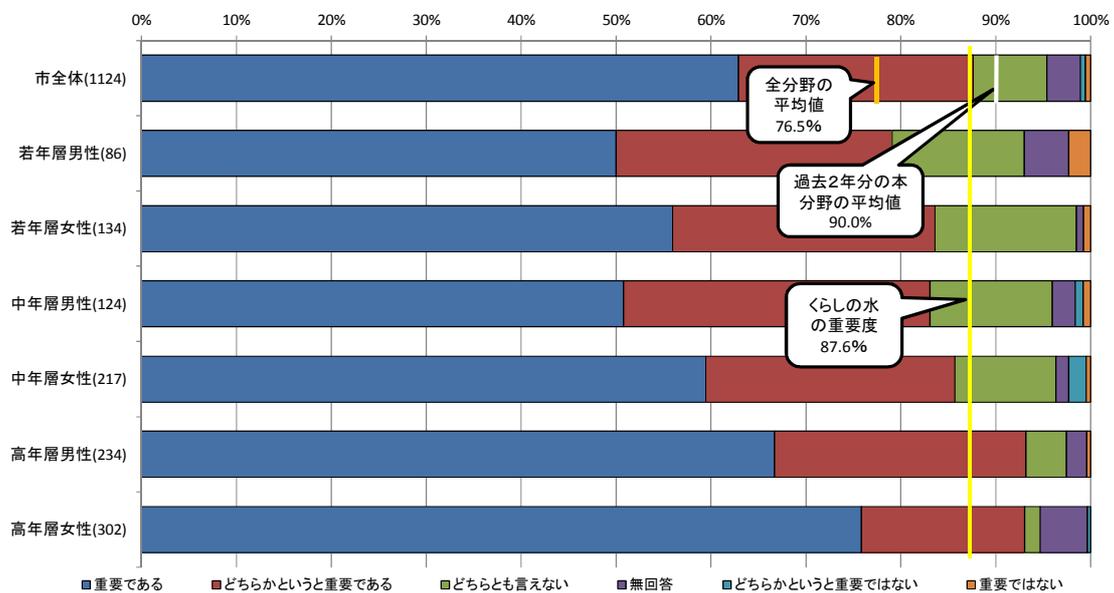
27 暮らしの水 生活実感（世代別・性別）

設問6：水や水辺環境が大切にされるなど、水と共に生きる意識が高まっている。



・設問6の生活実感は、若年層の男女とも肯定的回答割合が低かった。

27 暮らしの水 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度は、高年層の肯定的回答割合が高かった。

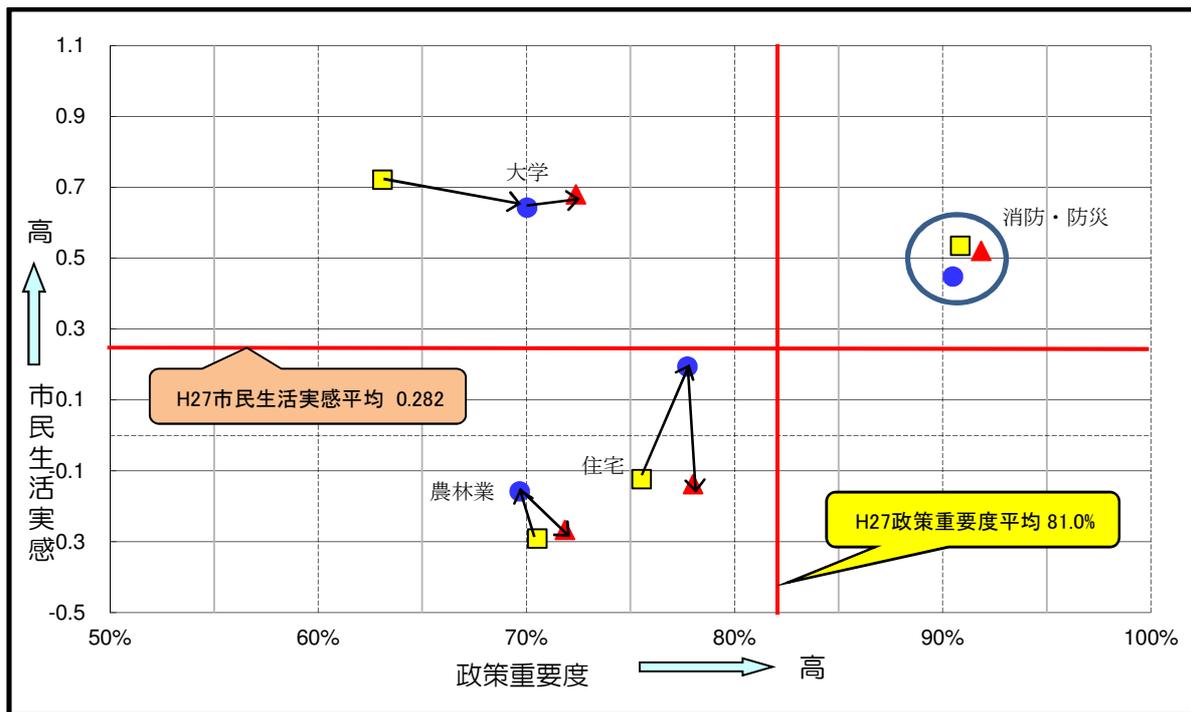
Ⅱ 統計的分析手法を用いた分析について

Ⅱ 統計的分析手法を用いた分析について

1 政策重要度と生活実感の関係について

27の政策分野における世代別・性別の政策重要度と生活実感の関係から、それぞれの分野における市民のニーズを推測することができる。政策重要度と生活実感の分析結果は今後の政策の進め方を検討する参考となる。

以下に市全体の回答結果の3年間の推移を示したサンプルを例示する。推移を追うため、□は25年度の値、●は26年度の値、▲は27年度の値であり、同一の政策分野の動きを線でつないで（一部は囲んで）いる。



◎ 図の設定と見方 ◎

政策重要度と生活実感との関係を分かりやすく表示するため、横軸に政策重要度、縦軸に生活実感を設定し、「重要である」と「そう思う」をプラス2点、「どちらかという重要である」と「どちらかというそう思う」をプラス1点、「どちらとも言えない」を0点、「どちらかという重要ではない」と「どちらかというそう思わない」をマイナス1点、「重要ではない」と「そう思わない」をマイナス2点と換算し、各回答数を掛け合わせたものを総回答数で割ることによって平均値を得た。その値を図にあてはめ、政策重要度と生活実感の関係を示した。

それぞれ次の要因が考えられる。

①政策重要度の高さ

- ・ 当該分野における政策を市民が重要と認識している。

②政策重要度の低さ

- ・ 政策の効果が市民生活に浸透していることにより当該分野における政策の重要性を市民がことさらに認識する必要がない。
- ・ 現在実行されている政策のPR不足等の理由によりそもそも市民が知らない。
- ・ 市民が当該分野の政策の優先順位が低いものと受け止めている。

③生活実感の高さ

- ・ 当該分野における政策の効果が高いと市民が認識している。
- ・ 政策の効果にかかわらず生活場面（その時期に社会で起こった出来事など）における実感が高い。

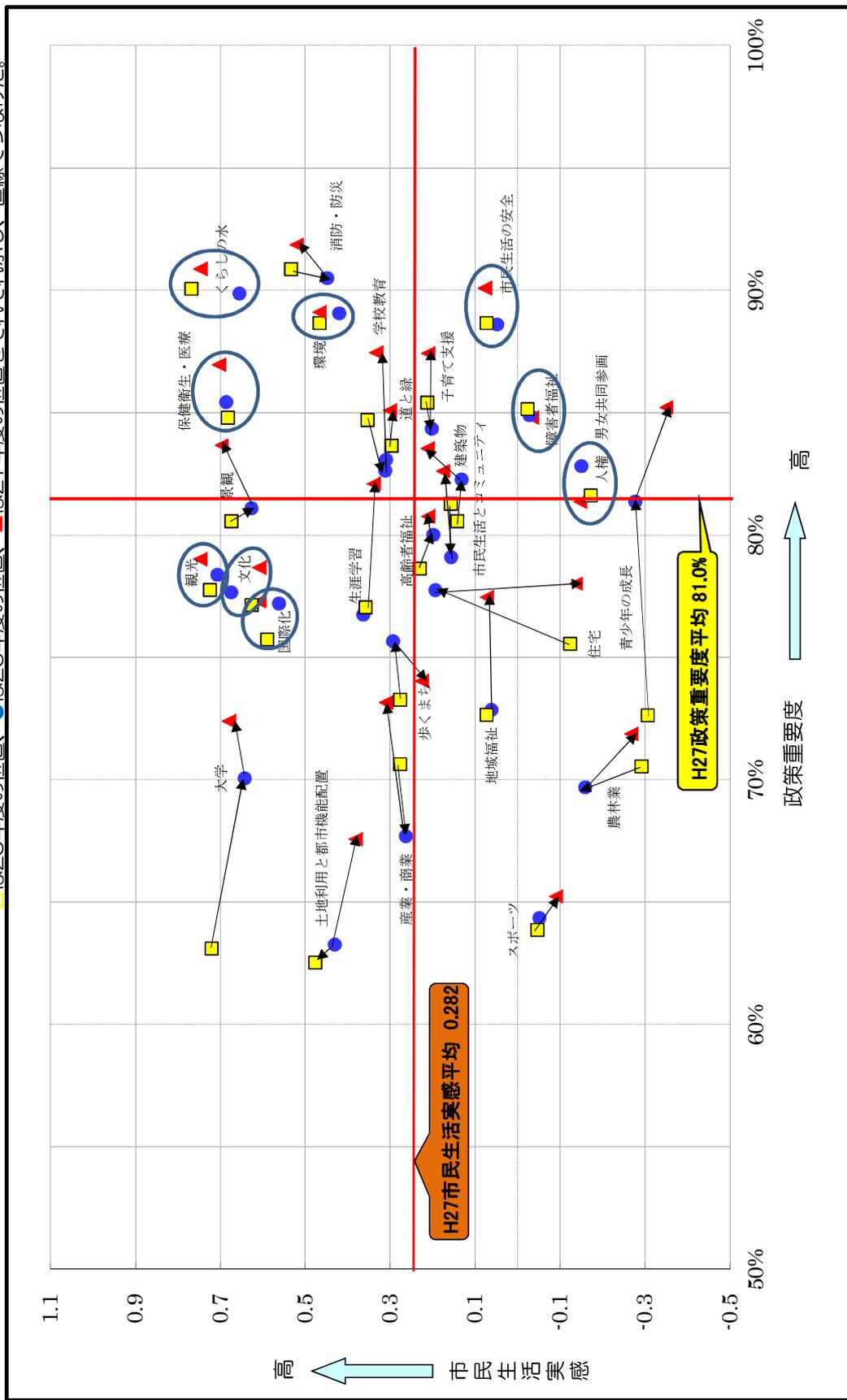
④生活実感の低さ

- ・ 当該分野における政策の効果が低いと市民が認識している。
- ・ 政策の効果にかかわらず生活場面における実感が低い。

政策重要度と生活実感の関係 市全体のH25→H27変化

政策重要度：肯定的な回答率
生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

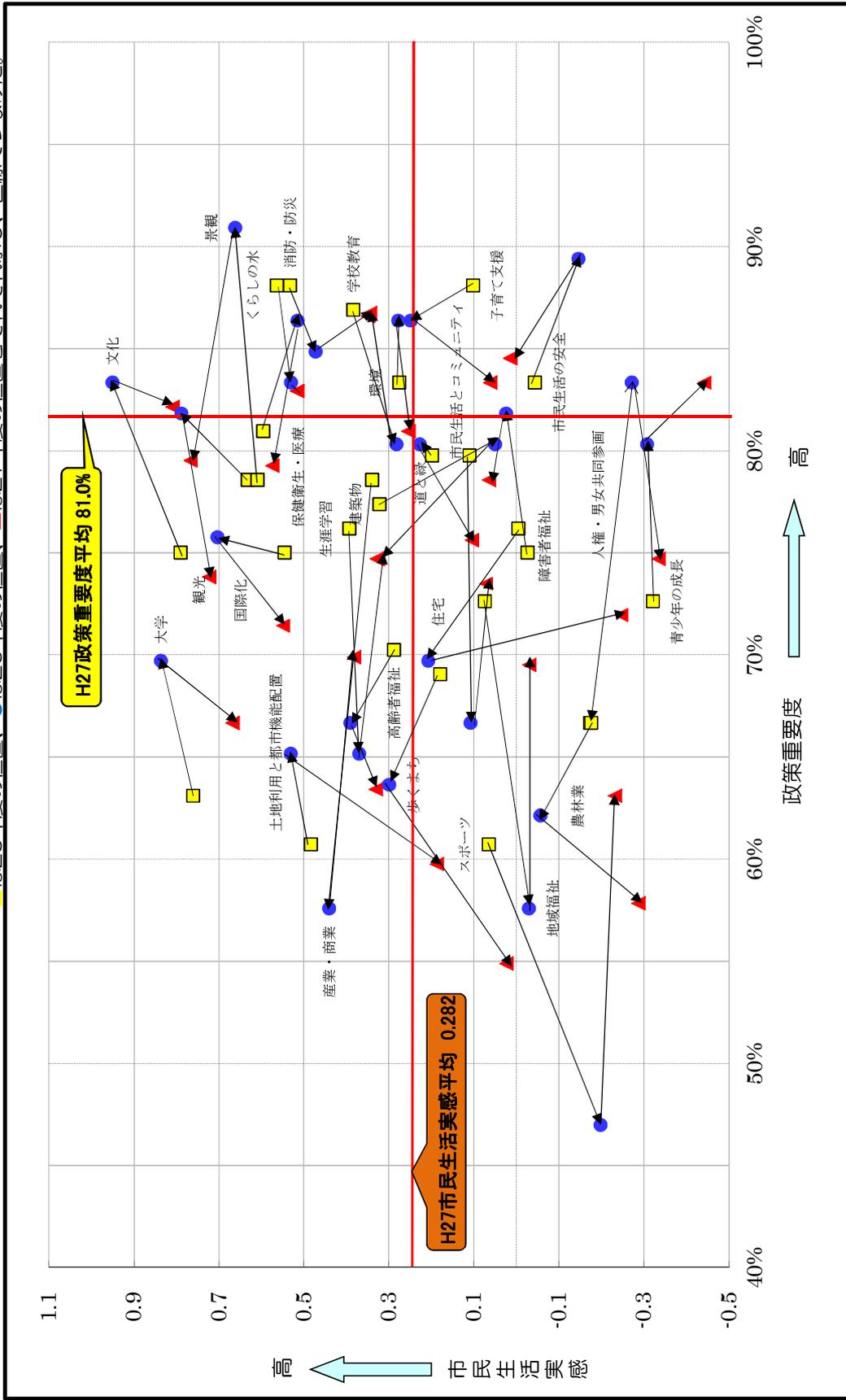
□は25年度の位置、●は26年度の位置、▲は27年度の位置、▲は27年度の位置をそれぞれ示し、直線でつなげた。



政策重要度と生活実感の関係 若年層男性のH25→H27変化

政策重要度：肯定的な回答率
生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

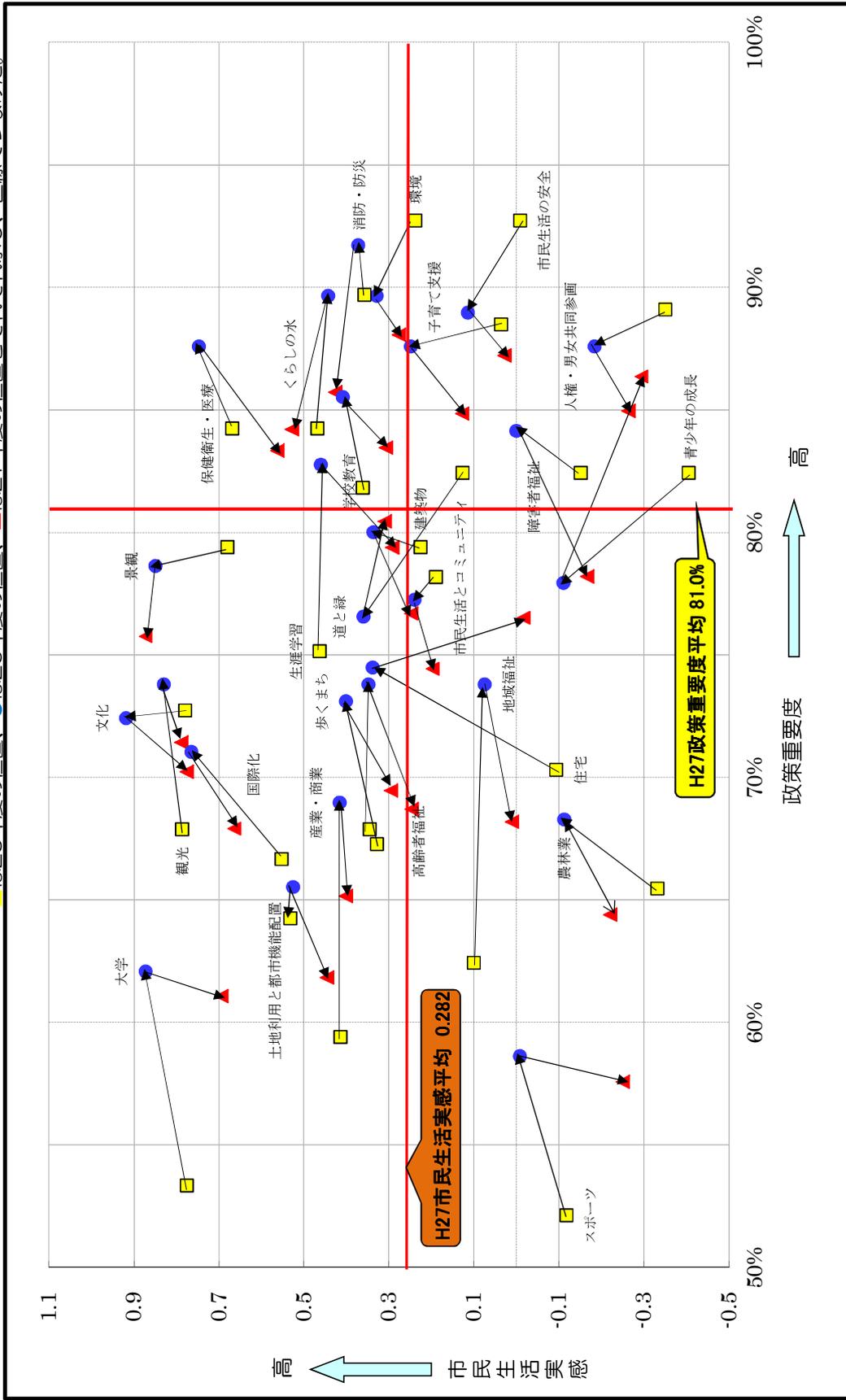
□は25年度の位置、●は26年度の位置、▲は27年度の位置をそれぞれ示し、直線をつなげた。



政策重要度と生活実感の関係 若年層女性のH25→H27変化

政策重要度：肯定的な回答率
生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

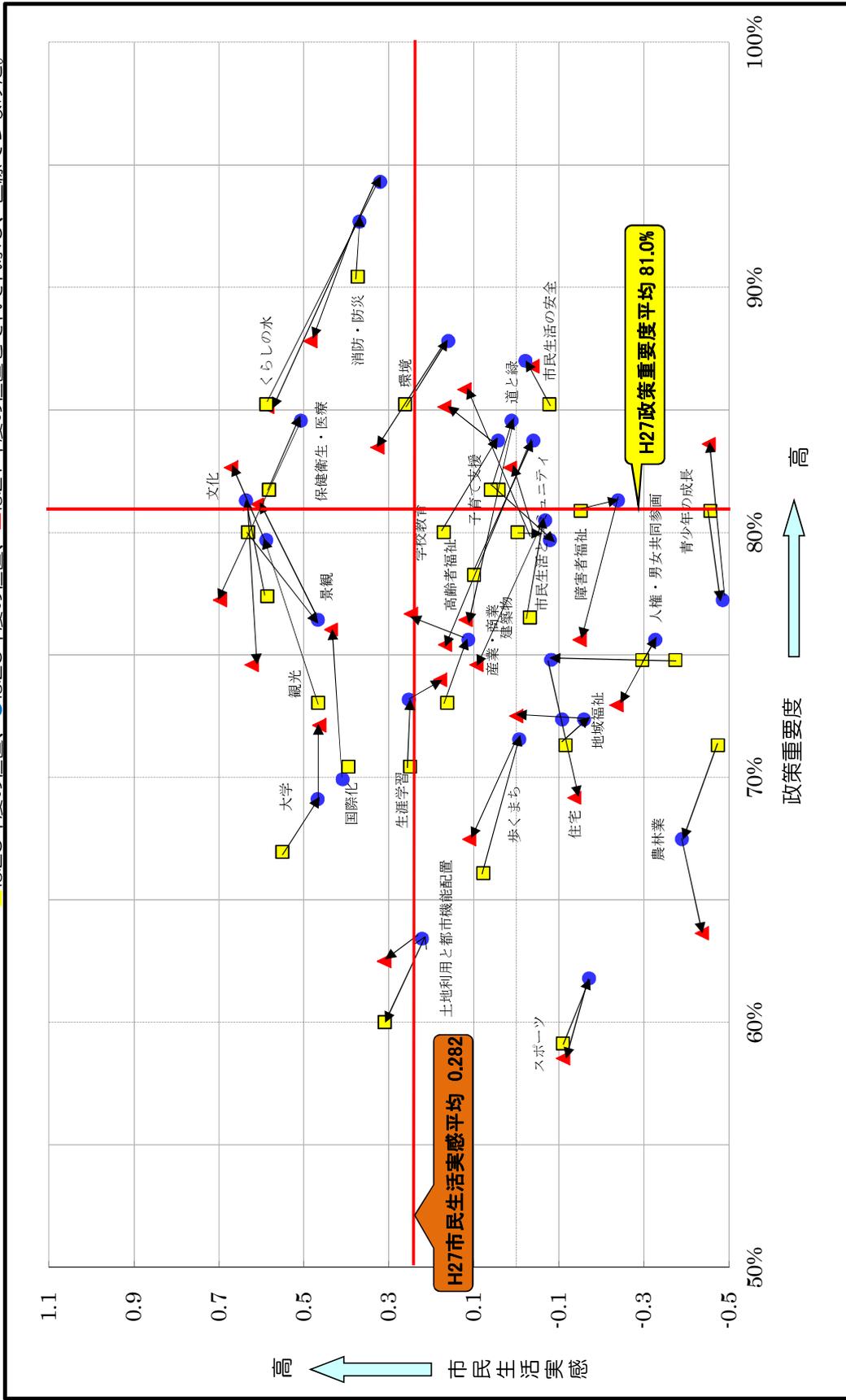
□は25年度の位置、●は26年度の位置、▲は27年度の位置、▲は27年度の位置をそれぞれ示し、直線でつなげた。



政策重要度と生活実感の関係 中年層男性のH25→H27変化

政策重要度：肯定的な回答率
生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

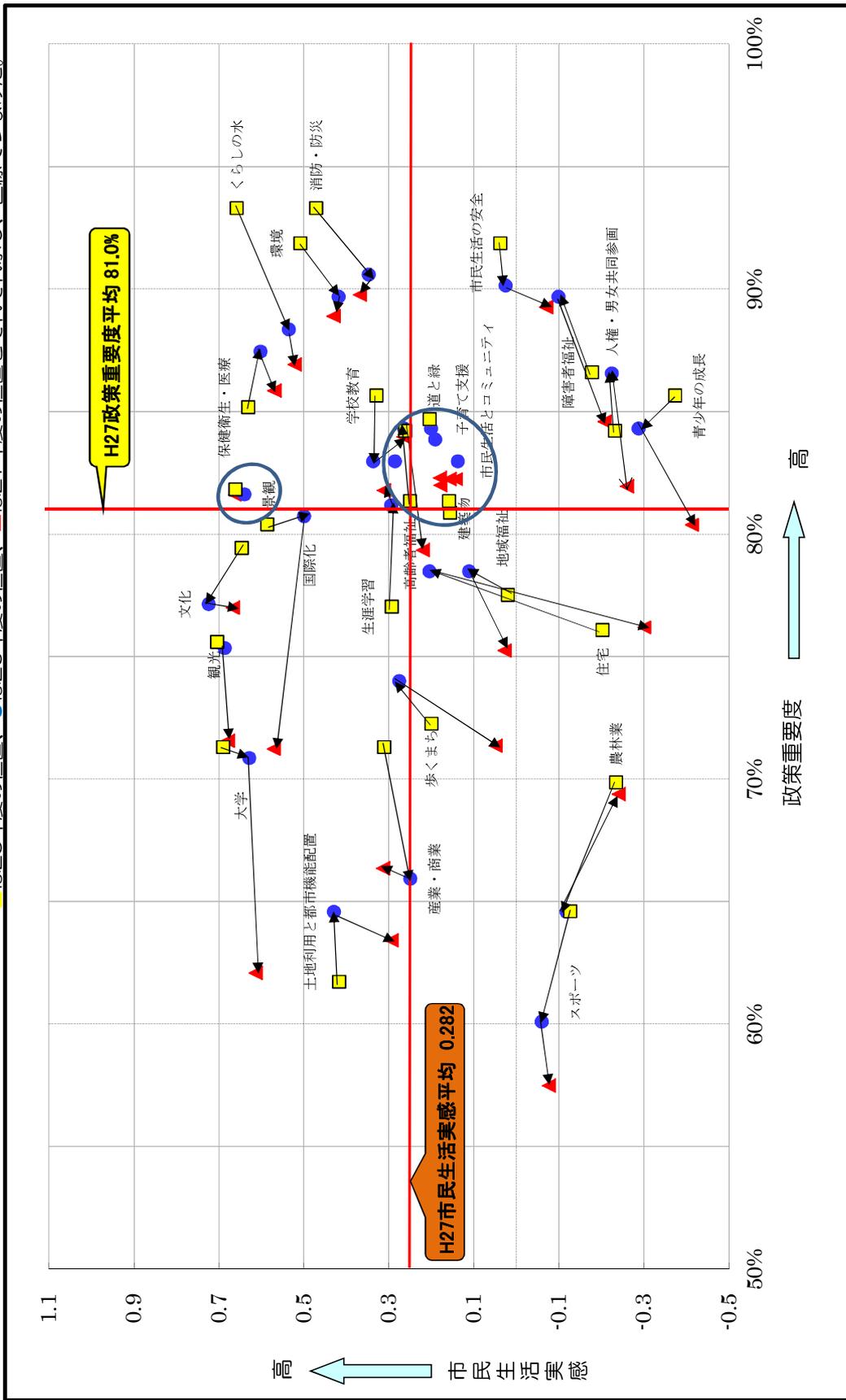
□は25年度の位置、●は26年度の位置、▲は27年度の位置をそれぞれ示し、直線をつなげた。



政策重要度と生活実感の関係 中年層女性のH25→H27変化

政策重要度：肯定的な回答率
生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

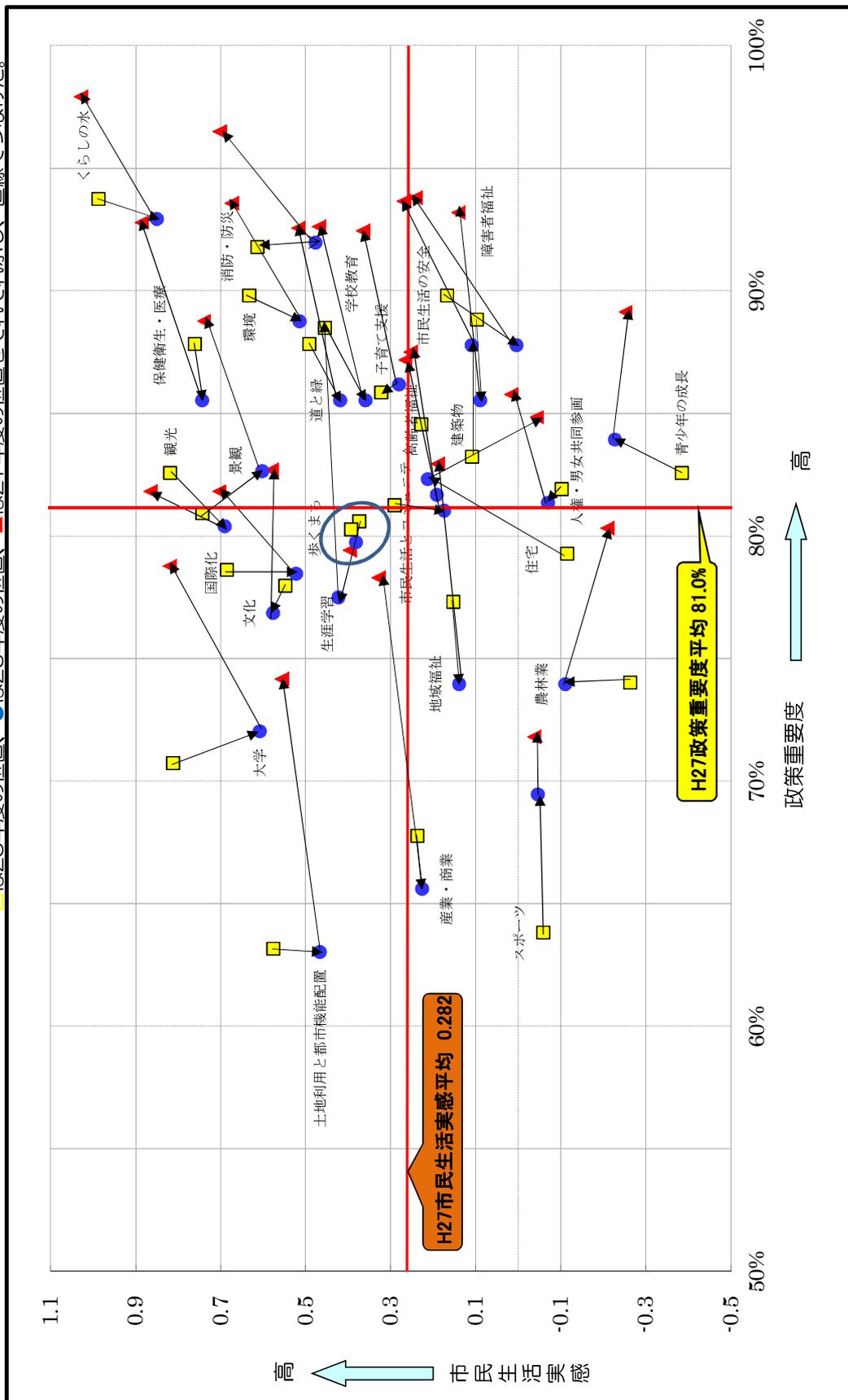
□は25年度の位置、●は26年度の位置、▲は27年度の位置、▲は27年度の位置をそれぞれ示し、直線をつなげた。



政策重要度と生活実感の関係 高年齢女性のH25→H27変化

政策重要度：肯定的な回答率
生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

□は25年度の位置、●は26年度の位置、▲は27年度の位置をそれぞれ示し、直線をつなげた。



2 生活実感と幸福実感における相関について

(1) 今年度の回答結果の中で特徴的な設問

生活実感に関する130の設問と幸福実感との相関関係の分析を行った。この分析により生活実感度合いが大きくなるにつれて幸福実感度合いも大きくなる、という設問がわかる。

これまでと同様に市全体と世代別・性別の相関係数（スピアマンの順位相関係数※）の上位を抽出し、有意水準1%未満に該当するもの（変化の幅が誤差の範囲を超えて顕著な変化を示すか否か）であるかどうかを確認した。市全体と世代別・性別において、中程度の正の相関があるとされる相関係数0.4以上、かつ有意水準が1%未満のものは次の設問であった。

【若年層女性】

政策分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
土地利用と都市機能配置	田の字地域や京都駅の周辺は、にぎわいのある魅力的な地域である。	73.1%	0.502
観光	京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。	59.7%	0.401

【中年層女性】

政策分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
市民生活とコミュニティ	町内会・自治会などの地域の組織の活動が盛んである。	46.4%	0.461

【高年層男性】

政策分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
景観	三山の山並みなどの自然風景は、美しく魅力がある。	83.6%	0.467
くらしの水	京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。	73.8%	0.444
市民生活とコミュニティ	地域の一員として安心してくらせるまちになっている。	51.6%	0.412

今年度の分析結果としては、中程度の正の相関がある0.4以上の設問は少なかった。その中で相関係数が最も大きかったのは若年層女性の「田の字地域や京都駅の周辺は、にぎわいのある魅力的な地域である。」であり、唯一相関係数が0.5を超えた。高年層男性は3設問が該当し、政策分野では「市民生活とコミュニティ」の2設問が該当した。いずれも日々の生活に密着したものであり、事業の着実な実施によって生活実感が高まるのが幸福の増進につながりうる、ということを示している。

※スピアマンの順位相関係数

スピアマンの順位相関係数とは二つの変数間の相関を調べる手法であり、順序尺度に用いられる。正の相関係数が大きい場合、生活実感と幸福実感の相関が強く、生活実感が高いほど幸福実感も高いか、逆に生活実感が低いほど幸福実感も低いことが多いといえる。今後、生活実感を高めるような取組を推進することで幸福実感も上昇する可能性がある。

なお、相関係数は $-1 \sim +1$ の値を取り、 $+1$ に近いほど正の相関が強く、 -1 に近いほど負の相関が強いことを意味する。相関係数が $+1$ の場合は正の完全相関、 -1 の場合は負の完全相関、 0 の場合は無相関となる。相関関係の目安としては以下のように示されることが多い。

項目	値
強い正の相関がある	$+0.7 \sim +1.0$
中程度の正の相関がある	$+0.4 \sim +0.7$
弱い正の相関がある	$+0.2 \sim +0.4$
ほとんど相関がない	$-0.2 \sim +0.2$
弱い負の相関がある	$-0.2 \sim -0.4$
中程度の負の相関がある	$-0.4 \sim -0.7$
強い負の相関がある	$-0.7 \sim -1.0$

(2) 幅広い個人属性が含まれている設問

生活実感に関する130の設問と幸福実感の相関関係について、世代別・性別、居住区別、職業別、居住年数別のすべての個人属性の、過去4年間の各年における相関係数と有意水準を計算し、相関係数が0.4以上のもの、かつ有意水準が1%未満のものを抽出した。

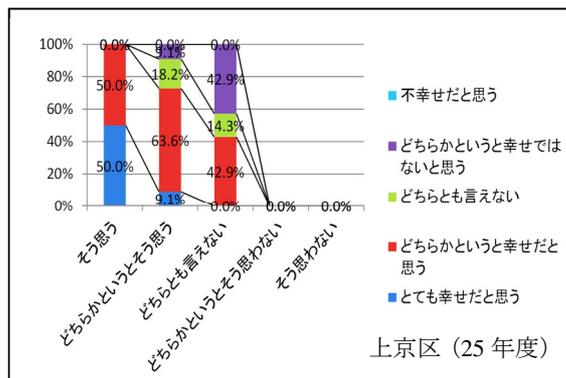
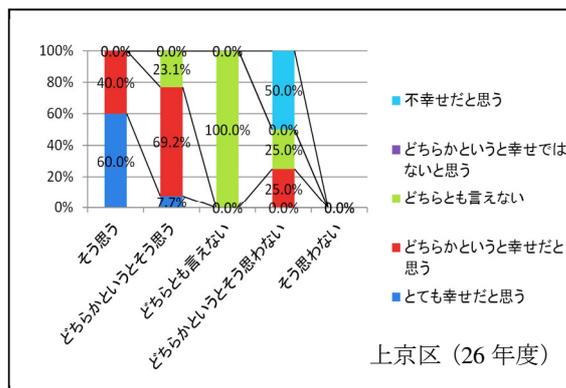
この分析は、130の設問の一つずつに対してすべての属性の4年間の回答結果をみていることから、頻繁に数多く該当した設問ほど生活実感と幸福実感との相関関係が強いといえる。

相関係数0.4以上かつ有意水準1%未満に該当する属性数が多かった設問を以下に一覧表（係数が高い順）とクロス集計の図（原則として係数が最も高かった属性の回答状況）で示す。

なお、分析の結果、市全体において4年間で該当する設問はなかった。しかし個人属性ごとにみれば二者の相関係数が高い設問が複数あることから属性ごとの分析を進める。

設問「地域の一員として安心してらせるまちになっている。」（政策分野：市民生活とコミュニティ）＝15項目が該当

属性	相関係数	年度
上京区	0.717	26
上京区	0.589	25
左京区	0.491	26
山科区	0.488	27
5～11年未満	0.475	26
若年層女性	0.456	24
北区	0.449	25
伏見区	0.448	26
主婦・主夫	0.437	26
自営業・自由業	0.432	24
右京区	0.423	26
高年層女性	0.419	25
左京区	0.414	24
高年層男性	0.412	27
西京区	0.410	25



考察：上京区、左京区、北区など市北部で相関係数が高いといえる。

<<表と図の見方>>

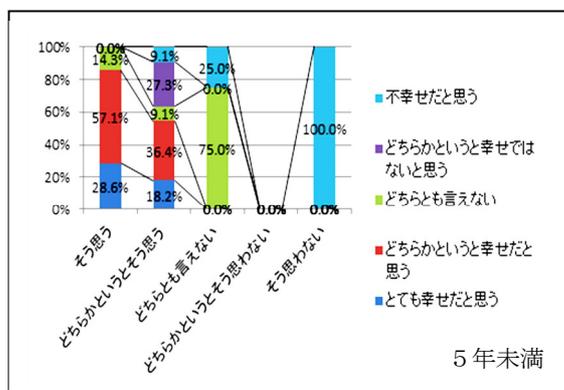
・上京区の25, 26年度の図を掲載したが、この設問に対し、上京区民が24年度から27年度にかけて回答した結果のうち、25年度と26年度の2年続けて比較的高い相関関係があったことを示している（属性名が一つしかないものは4年間で特定の年度にのみ比較的高い相関関係があった）。

・クロス集計図は、例えば26年度に生活実感で「そう思う」と回答した人の60%が「とても幸せだと思う」、40%が「どちらかという幸せだと思う」と答えた、ということの意味している。生活実感の「どちらかというと思う」から「そう思わない」も同様に、幸福実感としてどのように答えたかを棒グラフで示し、幸福実感の回答の同じ項目を直線でつないだ。

設問「道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。」

(政策分野：道と緑) = 12項目が該当

属性	相関係数	年度
5年未満	0.564	26
上京区	0.552	26
上京区	0.525	25
山科区	0.488	27
北区	0.462	25
南区	0.460	26
自営業・自由業	0.451	26
中京区	0.449	25
伏見区	0.411	26
高年層男性	0.407	26
若年層女性	0.405	26
南区	0.404	24



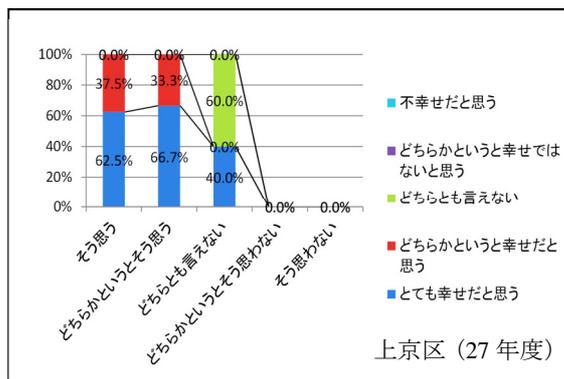
注：生活実感の質問に「そう思わない」人の100%が「不幸せだと思う」となっているが、回答者は1名しかおらず、その者が「そう思わない」と答えた。

考察：京都市での居住年数5年未満が最も高い相関係数であり、上京区はそれに次いで上位に二つ該当したが相関係数の値の差は小さく、回答傾向は読み取れなかった。

設問「三山の山並みなどの自然風景は、美しく魅力がある。」（政策分野：景観）

= 11項目が該当

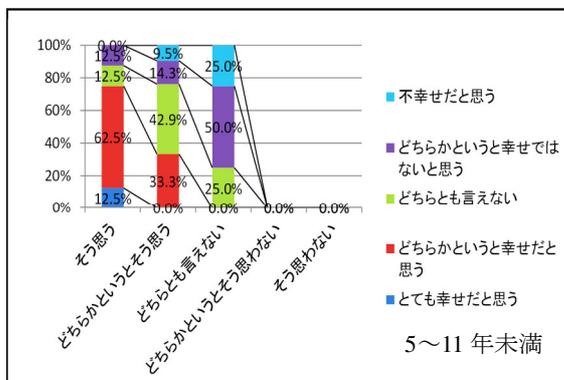
属性	相関係数	年度
上京区	0.749	27
山科区	0.549	27
南区	0.539	26
山科区	0.499	26
高年層男性	0.467	27
北区	0.466	25
西京区	0.440	25
南区	0.436	24
北区	0.424	24
自営業・自由業	0.421	24
中年層男性	0.410	25



考察：上京区が特に相関係数が高かった他は、山科区、南区という市南部で相関係数が比較的高かったことが特徴的である。

設問「事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にらせるまちになっている。」（政策分野：市民生活の安全） = 9項目が該当

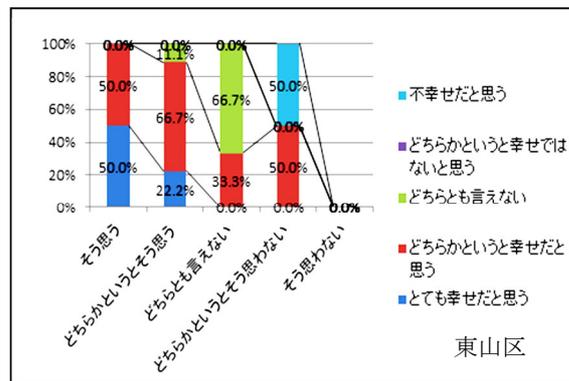
属性	相関係数	年度
5～11年未満	0.499	26
上京区	0.492	26
左京区	0.476	24
左京区	0.450	26
北区	0.449	25
中京区	0.432	25
無職	0.425	26
左京区	0.420	25
若年層女性	0.414	26



考察：京都市での居住年数5～11年未満が僅差で最も高い相関係数であった他は、上京区、左京区、北区など市北部で相関係数が高いといえる。

設問「京都は、市民にとって暮らしやすい観光都市である。」（政策分野：観光）
 = 9項目が該当

属性	相関係数	年度
学生	0.799	26
東山区	0.612	24
下京区	0.594	24
上京区	0.512	26
南区	0.485	27
自営業・自由業	0.466	26
西京区	0.418	27
中京区	0.402	25
若年層女性	0.401	27

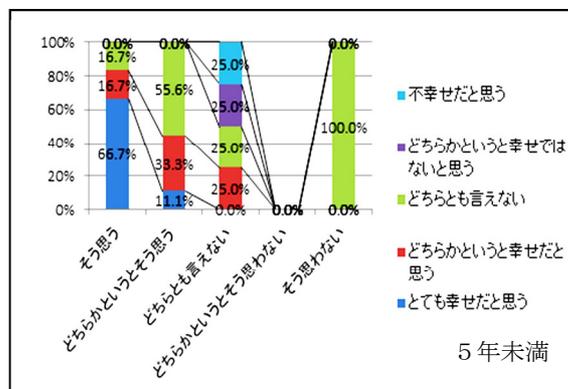


考察：学生と東山区の相関係数が非常に高かったものの、回答者数が少ないため、参考と考える。これら以外では明瞭な回答傾向はなかった。

なお、学生の回答者は市全体でも12名しかいたため、図は示さない。第二位の東山区の図を掲載している。

設問「京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。」（政策分野：消防・防災） = 9項目が該当

属性	相関係数	年度
5年未満	0.635	26
北区	0.529	24
北区	0.517	25
南区	0.506	26
中京区	0.488	25
南区	0.483	24
5年未満	0.474	24
伏見区	0.463	26
主婦・主夫	0.427	26



考察：京都市での居住年数5年未満、北区、南区でそれぞれ二つ該当したことが特徴的である。

(3) 政策分野ごとの相関関係の分析

生活実感と幸福実感との相関関係を求めたが、ベースとなる生活実感の質問内容はじつに多様である。ミクロに設問ごとに分析する意味があると同時に、マクロな政策分野ごとの分析にも意味がある。そこで各設問を分野ごとにくくり、相関係数が大きな設問はどの政策分野にあるのかをみた。

この分析により27政策分野の中でもどの分野が生活実感と幸福実感の相関関係が強いのか、つまり生活実感と幸福実感を同時に高められる可能性がより高い政策分野はどれかということを示すことができる。

世代別・性別、居住区別、職業別、居住年数別のそれぞれに該当する個人属性をとりまとめた一覧表を次ページに示す。

ただし、設定されている設問数は分野ごとにまちまちであるため、1設問あたりの該当数を計算してそのランキングを記載した。設問数あたりの該当個数が多い（順位が高い）ほど生活実感と幸福実感の相関関係が強い政策分野だといえる。

また表には各政策分野の肯定的回答割合を併記している。設問数あたりの該当数の順位が高いが肯定的回答割合が低いもの、例えば「市民生活とコミュニティ」と「市民生活の安全」は27年度に38.6%と31.4%と肯定的回答割合では中・下位であるが、生活実感と幸福実感の相関関係が高いランキングが1位と2位であることから、まさにこれらの分野に力を入れれば生活実感が高まるとともに幸福実感も高まることが大いに期待される。

しかし逆の、例えば「くらしの水」は肯定的回答割合が27年度に最高の65.1%であるが、今後一層の生活実感の上昇は望みづらいことから、生活実感と幸福実感を同時に向上させる余地は少ないかもしれない。

いずれにしても今後、得意な分野を伸ばすという観点からは、設問数あたりの該当数の順位が高い政策分野に注力することが考えられるし、逆に底上げを図るならば順位が低い分野に注力することもありえる。

全属性の4年間の合計、平均、順位

政策分野	該当 個数	設問 数	個数/ 設問数	左の 順位	肯定的 回答割合
環境	9	7	1.29	27	53.0%
人権・男女共同参画	20	4	5.00	3	23.7%
青少年の成長と参加	7	5	1.40	26	12.9%
市民生活とコミュニティ	39	5	7.80	1	38.6%
市民生活の安全	21	4	5.25	2	31.4%
文化	11	4	2.75	20	57.9%
スポーツ	9	3	3.00	16	28.8%
産業・商業	40	8	5.00	3	44.9%
観光	25	7	3.57	14	64.7%
農林業	6	3	2.00	25	19.3%
大学	13	5	2.60	21	61.8%
国際化	12	4	3.00	16	60.8%
子育て支援	18	5	3.60	13	41.5%
障害者福祉	9	4	2.25	23	24.9%
地域福祉	15	4	3.75	12	29.0%
高齢者福祉	15	5	3.00	16	35.1%
保健衛生・医療	14	5	2.80	19	59.5%
学校教育	22	5	4.40	8	34.9%
生涯学習	18	4	4.50	7	38.9%
歩くまち	14	6	2.33	22	45.5%
土地利用と都市機能配置	22	5	4.40	8	43.6%
景観	25	5	5.00	3	61.1%
建築物	9	4	2.25	23	36.8%
住宅	13	4	3.25	15	23.3%
道と緑	16	4	4.00	11	43.2%
消防・防災	25	5	5.00	3	48.4%
くらしの水	25	6	4.17	10	65.1%
合計と平均	472	130	0.28	--	--

考察：

- ・総数では「産業・商業」と「市民生活とコミュニティ」で該当個数が多かった。
- ・各分野の1設問あたりの該当数は「市民生活とコミュニティ」が1位で、「市民生活の安全」「人権・男女共同参画」「産業・商業」「景観」「消防・防災」が続いた。
- ・「環境」「青少年の成長と参加」「農林業」は順位が低い。

3 自由記述の分析について

自由記述の回答に対し、頻出する単語とそれに関連する単語をまとめた。自由記述は与えられた設問ではないため、回答者の潜在的なニーズを抽出することができ、今後実施する政策や事業等を検討するうえで参考となりうる。

自由回答など定性的なものを解析するためには定量的なデータに変換することが効果的であり、今年度も統計的分析手法の一つであるテキストマイニング法※を用いて、市全体と世代別・性別に分けて分析を行った。世代別・性別の区分ごとの自由記述の回答の中から頻出する単語を上位五つ抽出し、それぞれの単語の関連語を上位五つ抽出した。なお、関連語とは「名詞」「サ変名詞」に該当するものとした。

※ テキストマイニング

一般にアンケートの自由回答は回答者が主観的（定性的）に書かれる。多くの文章の中から何かを読み取るためには客観的（定量的）に把握する必要があり、そのための手法としてアナログな文字情報をデータ化することで分析処理が可能となる。この作業をテキストマイニングという。

分析結果から、市全体においては「観光」が最も多く、次いで広く「市民」と「生活」に関する意見が多いことがわかった。しかし過年度と比べて、四条通の歩道拡幅工事に伴う「バス」「渋滞」等への意見が多かったことが今年度の特徴である。

<市全体> 回答数 549

「観光」が最頻出であり、市民と生活、交通に関することなどへの意見も多く見られた。

	頻出語 1位 観光	頻出語 2位 市民	頻出語 3位 生活	頻出語 4位 歩道	頻出語 5位 地域
関連語 1位	市民	観光	市民	工事	活動
関連語 2位	都市	都市	保護	拡張	参加
関連語 3位	バス	生活	都市	渋滞	環境
関連語 4位	渋滞	税金	地域	観光	高齢
関連語 5位	道路	交通	高齢	バス	生活

<若年層男性> 回答数 49

「市民」に対する意見が最も多く見られた。「アンケート」と「観光」も頻出語だったが、回答の傾向は読み取りづらかった。

	頻出語 1位 市民	頻出語 2位 アンケート	頻出語 2位 観光	頻出語 4位 都市	頻出語 5位 子ども
関連語 1位	都市	質問	渋滞	市民	保育園
関連語 2位	観光	生活	拡張	魅力	不足
関連語 3位	道路	回答	道路	施策	公園
関連語 4位	生活	抽象	市民	景観	環境
関連語 5位	税金	渋滞	利用	向上	地域

<若年層女性> 回答数 67

「子供」が最も多く見られ、また関連語にも子育てが複数見られたことが特徴的であった。

	頻出語 1位 子供	頻出語 2位 観光	頻出語 3位 市民	頻出語 4位 子育て	頻出語 5位 バス
関連語 1位	高齢	近所	医療	支援	交通
関連語 2位	子育て	魅力	無料	生活	公共
関連語 3位	場所	市民	マラソン	母親	利用
関連語 4位	安心	子育て	開催	少子化	料金
関連語 5位	環境	対策	観光	保育園	歴史

<中年層男性> 回答数 63

最頻語の「観光」と、関連語としての交通に関する意見が多いことが特徴的であった。

	頻出語 1位 観光	頻出語 2位 市民	頻出語 3位 都市	頻出語 4位 地域	頻出語 4位 生活
関連語 1位	交通	都市	観光	施設	保護
関連語 2位	公共	観光	住民	住民	参加
関連語 3位	利用	状況	市民	交通	仕事
関連語 4位	料金	生活	サービス	生活	住宅
関連語 5位	歴史	具体	市政	風習	渋滞

<中年層女性> 回答数 118

「観光」についての意見が最も多く、バス、地下鉄など交通に関する意見もかなり多く見られたことが特徴的であった。

	頻出語 1 位 観光	頻出語 2 位 市民	頻出語 3 位 バス	頻出語 4 位 生活	頻出語 5 位 自転車
関連語 1 位	交通	観光	交通	交通	マナー
関連語 2 位	バス	文化	地下鉄	利用	歩道
関連語 3 位	市民	料金	観光	仕事	地域
関連語 4 位	渋滞	他府県	料金	地域	渋滞
関連語 5 位	歩道	地下鉄	移動	市民	運転

<高年層男性> 回答数 96

「道路」が最頻で「歩道」が続いたことが特徴的であったことと、頻出語 3 位の「生活」の関連語で年金と所得という語がみられたことが特徴的であった。

	頻出語 1 位 道路	頻出語 2 位 歩道	頻出語 3 位 生活	頻出語 4 位 ゴミ	頻出語 5 位 観光
関連語 1 位	整備	拡張	年金	収集	都市
関連語 2 位	自転車	工事	所得	分別	着物
関連語 3 位	場所	市バス	参加	市民	市長
関連語 4 位	観光	利用	自分	ケイ	看板
関連語 5 位	幹線	渋滞	高齢	建設	電柱

<高年層女性> 回答数 149

「高齢」という語が頻出語の第二位であったことと、関連語の中にも高齢が複数みられることが特徴的であった。

	頻出語 1 位 観光	頻出語 2 位 高齢	頻出語 2 位 市民	頻出語 4 位 生活	頻出語 5 位 地域
関連語 1 位	市民	福祉	観光	年金	参加
関連語 2 位	バス	生活	公共	高齢	活動
関連語 3 位	歩道	地域	交通	都市	家庭
関連語 4 位	都市	関係	バス	観光	環境
関連語 5 位	公共	介護	機関	市民	高齢

Ⅲ 平成27年度市民生活実感調査の概要について

Ⅲ 平成27年度市民生活実感調査の概要について

平成27年度市民生活実感調査の概要は、以下のとおりである。

1 調査対象

20歳以上の京都市民3,000人（住民基本台帳と外国人登録データから無作為抽出）を対象に郵便で調査票を送付し回収した。

2 調査期間

平成27年5月12日～6月12日

3 回収状況＜資料1＞

有効回答数1,124（回収率37.5%）

4 調査項目

- (1) 生活実感
- (2) 政策重要度
- (3) 市政関心度
- (4) 幸福実感
- (5) 自由記述

5 回答者の属性

本分析で用いた属性は、回答者の年代と性別を一つにまとめた「世代別・性別」である。

- ・若年層男性...20歳代・30歳代の男性
- ・若年層女性...20歳代・30歳代の女性
- ・中年層男性...40歳代・50歳代の男性
- ・中年層女性...40歳代・50歳代の女性
- ・高年層男性...60歳代・70歳代・80歳以上の男性
- ・高年層女性...60歳代・70歳代・80歳以上の女性

なお、市民生活実感調査では年代や性別の他にも、お住まいの行政区、職業、京都市での居住年などを回答していただいている。しかし回答数が少ないものもあり、適切な分析ができないため、「居住区別」「職業別」「居住年数別」の集計結果等は当財団のホームページに掲載するにとどめている。

平成27年度 市民生活実感調査の属性別の回答状況

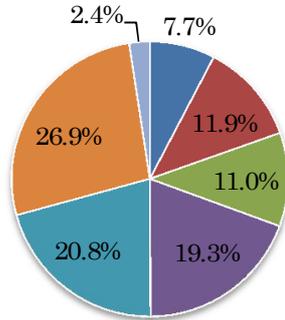
【世代別・性別】

世代別・性別	平成27年度	
	有効回答数	構成比
市全体	1,124	—
若年層男性	86	7.7%
若年層女性	134	11.9%
中年層男性	124	11.0%
中年層女性	217	19.3%
高年層男性	234	20.8%
高年層女性	302	26.9%
無回答	27	2.4%

(過年度)

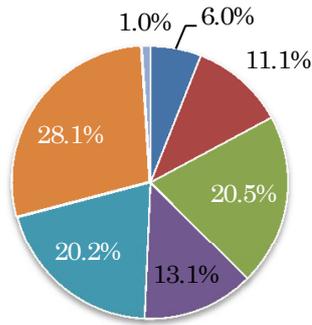
世代別・性別	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
市全体	1,157	—	1,186	—	1,137	—	1,105	—
若年層男性	90	7.8%	90	7.6%	84	7.4%	66	6.0%
若年層女性	165	14.3%	182	15.3%	165	14.5%	123	11.1%
中年層男性	134	11.6%	159	13.4%	115	10.1%	226	20.5%
中年層女性	218	18.8%	218	18.4%	209	18.4%	145	13.1%
高年層男性	208	18.0%	232	19.6%	231	20.3%	223	20.2%
高年層女性	307	26.5%	275	23.2%	304	26.7%	311	28.1%
無回答	35	3.0%	30	2.5%	29	2.6%	11	1.0%

平成27年度



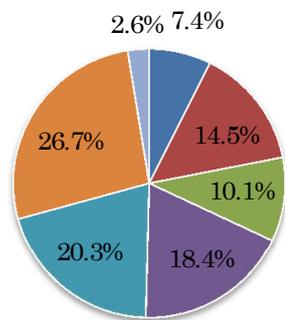
- 若年層男性 ■ 若年層女性 ■ 中年層男性 ■ 中年層女性
- 高年層男性 ■ 高年層女性 ■ 無回答

平成26年度



- 若年層男性 ■ 若年層女性 ■ 中年層男性 ■ 中年層女性
- 高年層男性 ■ 高年層女性 ■ 無回答

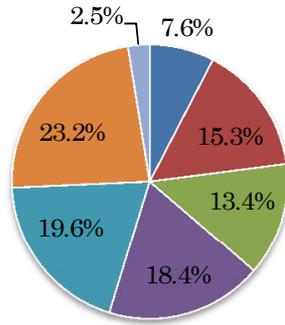
平成25年度



- 若年層男性 ■ 若年層女性 ■ 中年層男性 ■ 中年層女性
- 高年層男性 ■ 高年層女性 ■ 無回答

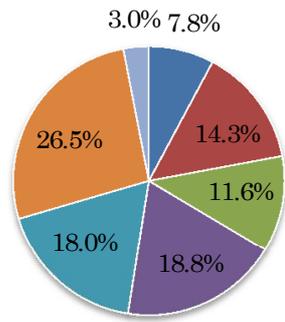
各年度の市民生活実感調査 属性別の回答状況

平成24年度



- 若年層男性 ■ 若年層女性 ■ 中年層男性 ■ 中年層女性
- 高年層男性 ■ 高年層女性 ■ 無回答

平成23年度



- 若年層男性 ■ 若年層女性 ■ 中年層男性 ■ 中年層女性
- 高年層男性 ■ 高年層女性 ■ 無回答

各年度の市民生活実感調査 属性別の回答状況

IV 生活実感、政策重要度、市政関心度、幸福実感の 回答結果について

Ⅳ 生活実感、政策重要度、市政関心度、幸福実感の回答結果について

平成27年度市民生活実感調査における四つの調査項目の結果概要は、以下のとおりである。

以下にいう「肯定的割合」とは、「そう思う」と「どちらかというと思う」など回答者が肯定的に捉えているものを足し合わせた値である。

1 生活実感＜資料2：P121＞

この調査は、現在の生活についての市民の実感を把握するため、京都市政に係る27の政策分野において設定した、「利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。」など合計130の設問について、「そう思う」「どちらかというと思う」「どちらとも言えない」「どちらかというと思わない」「そう思わない」の5段階で回答したものである（どれにもあてはまらない場合は無回答）。

生活実感の高さは、政策の効果が高いと市民が認識しているか、政策の効果にかかわらず、市民の生活場面（その時期に社会で起こった出来事など）における実感が高いことなどが原因と考えられる。一方、生活実感の低さは、政策の効果が低いと市民が認識しているか、政策の効果にかかわらず、生活場面における実感が低いことなどが原因と考えられる。

資料2に130の設問における回答の平均値を記載した。この数値を基準とすることにより、それぞれの設問における世代別・性別、居住区別、職業別、居住年数別の生活実感が、市全体の平均値と比べてどのような状況であるかを把握することが容易になる。

回答結果を肯定的回答割合で見ると、若年層と若年層の男女とも、調査の始期である平成23年度よりも上昇している。しかし途中の経過は一様ではない。ほとんどの世代別・性別において24年度に肯定的回答割合が大きく下降し、その後上昇に転じたのちに27年度は再び下降している。特に若年層の下降が大きかった（若年層男性－4.4%、若年層女性－2.9%）。一方、中年層男性の低さは5年間を通じて一貫しているが、27年度は調査期間の中で最大の上昇幅となった（+2.6%）。

2 政策重要度＜資料3：P122＞

この調査は、27の政策分野の重要度を把握するため、それぞれについて「重要である」「どちらかという重要である」「どちらとも言えない」「どちらかという重要ではない」「重要ではない」の5段階で回答したものである（どれにもあてはまらない場合は無回答）。

政策重要度の高さは、当該分野における政策を市民が重要と認識していることが原因と考えられる。一方、政策重要度の低さは、政策の効果が市民生活に浸透していることにより当該分野における政策の重要性を市民がことさらに認識する必要がないこと、現在実行されている政策のPR不足等の理由により市民に知られていないこと、市民が当該分野の政策の優先順位が低いも

のと受け止めていることなどの理由により、市民が重要であると認識していないことが原因と考えられる。

回答結果を肯定的回答割合で見ると、前年度に比べて高年層男性を除くすべての世代別・性別において全27分野の平均値が下降した。分野ごとにみると「産業・商業」（市全体で25位→23位）、「子育て支援」（市全体で7位→5位）、「学校教育」（市全体で10位→6位）、「生涯学習」（市全体で20位→15位）はほとんどすべての世代別・性別において前年度よりも順位を上げた。逆に「人権・男女共同参画」（市全体で9位→14位）はほとんどすべての世代別・性別において順位を下げた。27年度も「消防・防災」、「くらしの水」、「市民生活の安全」、「環境」は引き続き高い順位となったが、世代別・性別で見ると、若年層男性は「学校教育」が14位から1位となった一方、26年度に1位だった「景観」が9位へと大きく順位を下げるといった特徴的な変化が見られた。また「高齢者福祉」は高年層では順位を上げたものの、若年層・中年層では順位を下げ、特に介護等の問題が身近に感じられ始める中年層では、男性7位→14位、女性10位→16位と大幅に順位を下げているのが興味深い。

※平成25年度から新しい回答方式をとっており、過去2年度との比較のみできる。

3 生活実感と政策重要度における肯定的回答割合の順位<資料4：P125>

今年度の生活実感と政策重要度について、27の政策分野それぞれの肯定的回答割合が高いものから順に示した。これにより各政策分野における生活実感と政策重要度の肯定的回答割合の順位とその差を一覧することができる。

生活実感と政策重要度の順位の差が最も大きかった分野は六つあり、いずれも15位の開きがあった。そのうち、生活実感の肯定的回答割合は高いが政策重要度の肯定的回答割合が低いのは「観光」、「大学」、「土地利用と都市機能配置」であり、逆に政策重要度の肯定的回答割合は高いが生活実感の肯定的回答割合が低いのは「市民生活の安全」、「障害者福祉」、「青少年の成長と参加」であった。これら以外の回答では26年度の回答状況との差が見られなかった。

また生活実感項目を、政策分野ごとにくくった順位の推移も求めた。これにより生活実感から見る政策重要度の位置付けが明らかとなる。分析の結果、「くらしの水」「景観」「観光」が一貫して高かった半面、「青少年の成長と参加」「農林業」「住宅」「人権・男女共同参画」が低かった。

4 市政関心度<資料5：P126>

この調査は、市政に対する関心度合を把握するため、「関心がある」「少しは関心がある」「あまり関心がない」「まったく関心がない」「わからない」の5段階で回答したものである（どれにもあてはまらない場合は無回答）。

回答結果を肯定的回答割合で見ると若年層の低さが顕著であり、世代が上がるにつれて肯定的回答割合も高くなるという点はこれまでと変わらない。また若年層女性を除くすべての世代別・

性別において、調査始期である23年度よりも下降していることには注意を要する。過去4年の平均と比較しても、高年層女性以外はすべての世代別・性別において下降している。途中経過は一樣ではないものの、傾向としてすべての世代別・性別において23年度または24年度がピークとなり、その後大幅な下降を経て、上昇に転じつつ27年度に至っているということを読み取ることができる。

5 幸福実感<資料6：P127>

この調査は、市民の幸福実感を把握するため、「とても幸せだと思う」「どちらかという幸せだと思う」「どちらとも言えない」「どちらかという幸せではないと思う」「不幸せだと思う」の5段階で回答した結果である（どれにもあてはまらない場合は無回答）。

回答結果を肯定的回答割合で見ると、4年間一貫して全世代で男性よりも女性のほうが高い。とりわけ27年度は、肯定的な回答の中でも「とても幸せだと思う」とした割合は、全世代において男性は下降、女性は上昇するという結果が見られた。若年層では女性の肯定的回答割合が下降した（若年層女性84.8%→82.1%）ものの、男性の肯定的回答割合がそれ以上に大きく下降し（72.7%→66.3%）、また高年層でも女性の肯定的回答割合に大幅な上昇がみられるなど（72.3%→78.5%）、男女間の差が開いた。しかし中年層では女性の肯定的回答割合が下降（80.3%→75.1%）する一方、男性の肯定的回答割合が大幅に上昇した結果（66.7%→75.0%）、男女間の差が縮まっている。

※平成24年度から実施しており、過去3年間の平均との比較のみできる。

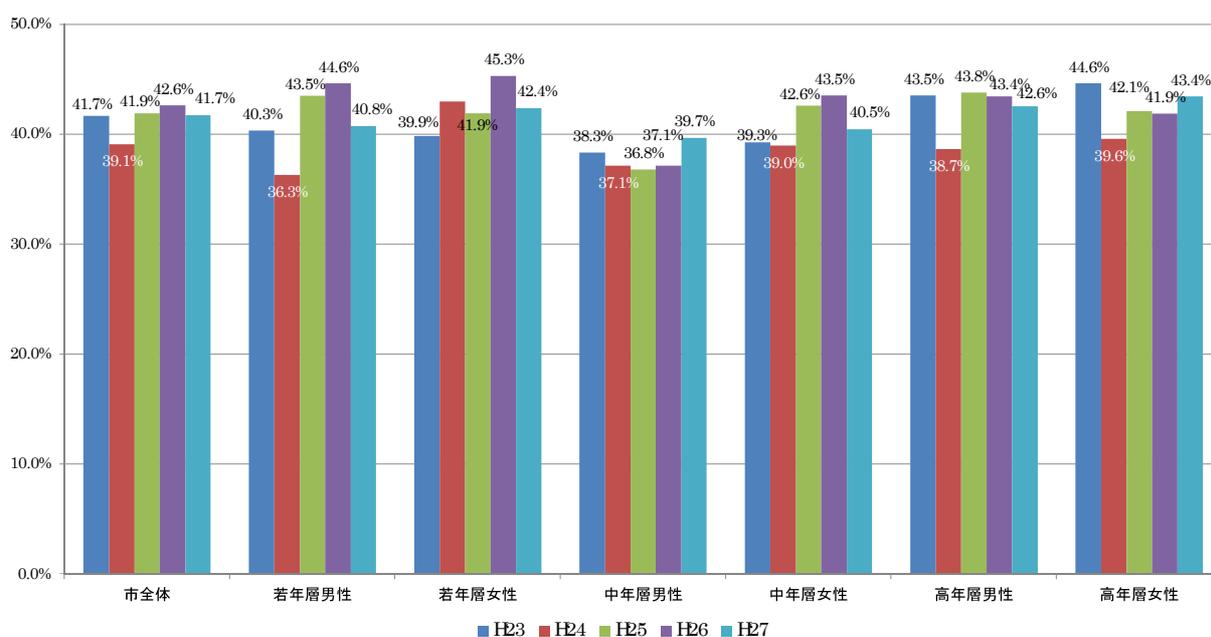
1 生活実感
(1)5年間の集計

	肯定的回答の割合					過去4年の平均
	H23	H24	H25	H26	H27	
市全体	41.7%	39.1%	41.9%	42.6%	41.7%	41.3%
若年層男性	40.3%	36.3%	43.5%	44.6%	40.8%	41.2%
若年層女性	39.9%	43.0%	41.9%	45.3%	42.4%	42.5%
中年層男性	38.3%	37.1%	36.8%	37.1%	39.7%	37.3%
中年層女性	39.3%	39.0%	42.6%	43.5%	40.5%	41.1%
高年層男性	43.5%	38.7%	43.8%	43.4%	42.6%	42.4%
高年層女性	44.6%	39.6%	42.1%	41.9%	43.4%	42.0%

	そう思う					どちらかというと思う					どちらとも言えない				
	H23	H24	H25	H26	H27	H23	H24	H25	H26	H27	H23	H24	H25	H26	H27
市全体	11.2%	10.6%	11.9%	11.8%	12.3%	30.5%	28.5%	30.0%	30.8%	29.4%	33.1%	30.1%	29.3%	30.1%	29.6%
若年層男性	11.7%	10.6%	13.8%	14.4%	15.1%	28.7%	25.7%	29.7%	30.2%	25.6%	30.6%	29.7%	30.7%	27.8%	28.0%
若年層女性	10.4%	12.7%	12.8%	14.4%	12.3%	29.5%	30.3%	29.1%	30.9%	30.1%	34.6%	28.6%	27.2%	32.4%	31.9%
中年層男性	9.1%	9.1%	8.8%	8.4%	10.6%	29.3%	28.0%	28.0%	28.8%	29.1%	37.2%	34.8%	34.4%	31.6%	32.8%
中年層女性	8.0%	9.2%	9.9%	9.6%	10.3%	31.3%	29.8%	32.7%	33.9%	30.2%	35.6%	32.0%	32.5%	31.6%	31.6%
高年層男性	10.7%	10.6%	12.8%	12.4%	11.8%	32.9%	28.1%	31.0%	31.1%	30.7%	34.4%	31.7%	30.1%	29.4%	31.3%
高年層女性	13.6%	10.5%	12.9%	12.7%	13.9%	31.0%	29.0%	29.2%	29.2%	29.5%	31.1%	25.7%	26.0%	28.4%	25.6%

	どちらかというと思わない					そう思わない					無回答				
	H23	H24	H25	H26	H27	H23	H24	H25	H26	H27	H23	H24	H25	H26	H27
市全体	12.3%	12.8%	12.0%	11.8%	11.5%	6.5%	7.0%	6.0%	6.1%	6.7%	6.3%	11.0%	10.7%	9.4%	10.6%
若年層男性	15.6%	13.3%	13.7%	14.0%	12.5%	11.9%	9.0%	7.3%	7.1%	10.0%	1.6%	8.6%	4.9%	6.5%	8.7%
若年層女性	13.9%	12.3%	12.4%	10.7%	11.7%	6.7%	7.3%	7.5%	5.2%	7.0%	4.9%	8.8%	11.0%	6.4%	7.1%
中年層男性	14.6%	15.9%	14.8%	15.9%	14.5%	8.7%	8.6%	7.7%	9.9%	8.2%	1.2%	3.5%	6.3%	5.5%	4.9%
中年層女性	13.5%	13.0%	12.4%	11.7%	12.8%	7.7%	7.0%	6.1%	6.0%	7.4%	3.9%	9.0%	6.4%	7.2%	7.7%
高年層男性	12.6%	14.2%	11.8%	11.9%	12.1%	4.5%	5.9%	5.2%	5.6%	5.9%	4.9%	9.4%	9.1%	9.6%	8.1%
高年層女性	9.7%	9.8%	10.2%	10.2%	8.7%	4.3%	5.4%	4.9%	5.2%	5.1%	10.2%	19.5%	16.8%	14.3%	17.2%

(2) 肯定的回答割合の変化(H23～H27の比較)



2 政策重要度

(1)属性ごとの政策重要度の経年変化

政策分野	市全体						若年層男性						若年層女性					
	肯定的回答		肯定的回答		肯定的回答		肯定的回答		肯定的回答		肯定的回答		肯定的回答		肯定的回答			
	H25	順位	H26	順位	H27	順位	H25	順位	H26	順位	H27	順位	H25	順位	H26	順位		
環境	88.7%	3	89.0%	3	85.9%	4	83.3%	6	86.4%	3	79.1%	7	92.7%	1	89.7%	2	88.1%	1
人権・男女共同参画	81.6%	11	82.8%	9	77.7%	14	66.7%	23	83.3%	7	72.1%	12	89.1%	3	87.6%	5	84.3%	5
青少年の成長と参加	82.2%	10	81.4%	12	80.5%	9	72.6%	19	80.3%	13	81.4%	4	82.4%	6	77.9%	13	85.1%	3
市民生活とコミュニティ	81.3%	12	79.1%	15	78.6%	11	79.8%	8	66.7%	19	70.9%	17	78.2%	14	77.2%	14	73.9%	16
市民生活の安全	88.1%	4	88.6%	4	87.3%	3	84.5%	5	89.4%	2	82.6%	3	86.1%	5	89.0%	4	86.6%	2
文化	77.1%	17	77.6%	18	73.5%	18	75.0%	16	83.3%	8	80.2%	6	72.7%	16	72.4%	21	68.7%	18
スポーツ	63.9%	26	64.3%	26	61.6%	26	60.7%	26	47.0%	27	61.6%	23	52.1%	27	58.6%	27	56.7%	27
産業・商業	70.6%	23	67.7%	25	67.6%	23	78.6%	10	57.6%	25	67.4%	20	59.4%	25	69.0%	23	64.2%	23
観光	77.7%	16	78.4%	16	75.0%	17	78.6%	10	81.8%	10	72.1%	12	67.9%	18	73.8%	17	70.9%	17
農林業	70.5%	24	69.7%	24	66.4%	25	66.7%	23	62.1%	24	55.8%	26	65.5%	22	68.3%	24	63.4%	24
大学	68.2%	25	70.0%	23	67.2%	24	63.1%	25	69.7%	17	65.1%	22	53.3%	26	62.1%	26	59.7%	26
国際化	75.7%	19	77.2%	19	72.7%	19	75.0%	16	75.8%	16	69.8%	18	66.7%	21	71.0%	22	67.9%	19
子育て支援	85.4%	5	84.3%	7	83.5%	5	88.1%	1	86.4%	5	81.4%	4	88.5%	4	87.6%	6	83.6%	6
障害者福祉	85.1%	6	84.9%	6	81.4%	8	75.0%	16	81.8%	11	76.7%	9	82.4%	6	84.1%	9	77.6%	11
地域福祉	72.6%	22	72.9%	22	70.9%	21	72.6%	19	57.6%	26	66.3%	21	62.4%	23	73.8%	18	67.2%	21
高齢者福祉	78.6%	15	80.0%	14	77.0%	16	70.2%	21	66.7%	20	60.5%	24	67.9%	18	73.8%	19	67.2%	21
保健衛生・医療	84.8%	7	85.4%	5	82.5%	6	81.0%	7	86.4%	4	75.6%	11	84.2%	6	87.6%	7	82.1%	9
学校教育	84.7%	8	82.6%	10	82.5%	6	86.9%	4	80.3%	14	83.7%	1	81.8%	11	85.5%	8	82.8%	8
生涯学習	77.0%	18	76.7%	20	77.5%	15	76.2%	14	65.2%	22	72.1%	12	75.2%	15	82.8%	10	77.6%	11
歩くまち	73.3%	21	75.7%	21	69.8%	22	69.0%	22	63.6%	23	52.3%	27	67.3%	20	73.1%	20	67.9%	19
土地利用と都市機能配置	62.5%	27	63.3%	27	60.2%	27	60.7%	26	65.2%	21	57.0%	25	64.2%	23	65.5%	25	60.4%	25
景観	80.6%	13	81.1%	13	78.4%	13	78.6%	10	90.9%	1	76.7%	9	79.4%	12	78.6%	12	74.6%	15
建築物	80.6%	13	82.3%	11	78.6%	12	77.4%	13	80.3%	15	72.1%	12	79.4%	12	80.0%	11	76.1%	13
住宅	75.5%	20	77.7%	17	72.6%	20	76.2%	14	69.7%	18	68.6%	19	70.3%	17	74.5%	16	75.4%	14
道と緑	83.6%	9	83.1%	8	80.2%	10	79.8%	8	80.3%	12	72.1%	12	82.4%	6	76.6%	15	79.9%	10
消防・防災	90.9%	1	90.5%	1	88.3%	1	88.1%	1	84.8%	6	82.6%	2	89.7%	2	91.7%	1	85.1%	3
くらしの水	90.1%	2	89.9%	2	87.6%	2	88.1%	1	83.3%	9	79.1%	7	84.2%	6	89.7%	3	83.6%	6
平均	78.9%		79.1%		76.5%		76.0%		75.0%		71.7%		75.0%		77.8%		74.5%	

政策分野	中年層男性						中年層女性						高年層男性					
	肯定的回答		肯定的回答		肯定的回答		肯定的回答		肯定的回答		肯定的回答		肯定的回答		肯定的回答			
	H25	順位	H26	順位	H27	順位	H25	順位	H26	順位	H27	順位	H25	順位	H26	順位		
環境	85.2%	3	87.8%	3	81.5%	7	91.9%	3	89.7%	3	88.5%	2	85.7%	7	90.3%	2	87.6%	3
人権・男女共同参画	74.8%	16	75.6%	16	71.8%	20	84.2%	10	86.5%	7	81.6%	8	83.1%	12	82.3%	9	76.1%	21
青少年の成長と参加	80.9%	8	77.2%	14	82.3%	6	85.6%	6	84.3%	8	79.3%	14	82.7%	14	80.5%	15	81.6%	13
市民生活とコミュニティ	80.0%	10	72.4%	20	80.6%	8	80.9%	15	84.3%	9	81.1%	9	85.3%	8	81.0%	12	82.1%	11
市民生活の安全	87.0%	2	87.0%	4	84.7%	2	89.5%	4	90.1%	2	88.0%	3	90.9%	3	89.4%	3	87.6%	3
文化	77.4%	14	81.3%	9	73.4%	17	79.4%	17	77.1%	20	75.6%	17	77.5%	19	79.2%	17	75.6%	22
スポーツ	59.1%	27	61.8%	27	58.1%	27	64.6%	26	60.1%	27	56.7%	27	73.6%	25	71.2%	25	70.5%	26
産業・商業	73.0%	18	75.6%	17	74.2%	14	71.3%	23	65.9%	24	64.5%	24	77.1%	21	70.4%	26	70.9%	25
観光	73.0%	18	79.7%	12	80.6%	8	75.6%	21	75.3%	21	69.6%	21	81.8%	16	80.1%	16	82.5%	10
農林業	71.3%	20	67.5%	25	62.1%	25	69.9%	25	64.6%	25	66.8%	23	71.0%	26	73.9%	22	73.5%	24
大学	67.0%	24	69.1%	24	71.0%	21	71.3%	23	70.9%	23	60.4%	25	75.3%	23	73.0%	23	77.4%	19
国際化	70.4%	22	69.9%	23	74.2%	14	80.4%	16	80.7%	17	69.6%	21	77.5%	19	81.0%	13	81.2%	15
子育て支援	81.7%	5	79.7%	13	83.1%	3	84.2%	10	83.9%	11	81.1%	9	84.8%	9	83.2%	8	85.0%	7
障害者福祉	80.9%	8	81.3%	10	75.0%	13	86.6%	5	89.7%	4	83.4%	6	86.6%	4	83.6%	7	80.8%	16
地域福祉	71.3%	20	72.4%	21	70.2%	22	77.5%	18	78.5%	18	71.4%	19	74.0%	24	72.6%	24	76.9%	20
高齢者福祉	78.3%	13	83.7%	7	74.2%	14	81.3%	13	84.3%	10	77.9%	16	82.3%	15	81.9%	11	85.0%	8
保健衛生・医療	81.7%	5	84.6%	5	76.6%	11	85.2%	8	87.4%	6	83.9%	5	86.6%	4	84.5%	6	86.3%	5
学校教育	80.0%	10	83.7%	8	83.1%	3	85.6%	6	83.0%	12	82.0%	7	86.1%	6	79.2%	18	83.8%	9
生涯学習	70.4%	22	73.2%	19	73.4%	17	77.0%	19	81.2%	16	80.6%	11	81.4%	17	75.7%	21	79.9%	17
歩くまち	66.1%	25	71.5%	22	66.9%	23	72.2%	22	74.0%	22	70.0%	20	77.9%	18	81.0%	14	78.2%	18
土地利用と都市機能配置	60.0%	26	63.4%	26	60.5%	26	61.7%	27	64.6%	26	59.9%	26	67.1%	27	62.8%	27	65.4%	27
景観	80.0%	10	76.4%	15	79.8%	10	81.8%	12	81.6%	15	79.7%	12	83.5%	10	82.3%	10	82.1%	11
建築物	76.5%	15	80.5%	11	73.4%	17	81.3%	13	83.0%	13	79.3%	14	83.1%	12	79.2%	19	81.6%	13
住宅	74.8%	16	74.8%	18	66.9%	23	76.1%	20	78.5%	19	73.7%	18	76.6%	22	79.2%	20	74.4%	23
道と緑	81.7%	5	84.6%	6	75.8%	12	84.7%	9	83.0%	14	79.7%	12	83.5%	10	86.3%	5	85.9%	6
消防・防災	90.4%	1	92.7%	2	87.1%	1	93.3%	1	90.6%	1	88.9%	1	93.1%	1	91.2%	1	91.5%	2
くらしの水	85.2%	3	94.3%	1	83.1%	3	93.3%	1	88.3%	5	85.7%	4	93.1%	1	89.4%	4	93.2%	1
平均	76.2%		77.8%		74.9%		80.2%		80.0%		76.3%		81.5%		80.2%		80.6%	

政策分野	高年層女性					
	肯定的回答		肯定的回答		肯定的回答	
	H25	順位	H26	順位	H27	順位
環境	89.8%	3	88.7%	3	86.8%	4
人権・男女共同参画	81.9%	14	81.4%	15	77.8%	16
青少年の成長と参加	82.6%	12	83.9%	11	78.8%	12
市民生活とコミュニティ	81.3%	15	81.0%	16	78.8%	12
市民生活の安全	87.8%	6	87.8%	4	90.1%	3
文化	78.0%	21	76.8%	21	71.2%	21
スポーツ	63.8%	26	69.5%	25	63.2%	26
産業・商業	67.8%	25	65.6%	26	66.9%	25
観光	82.6%	12	80.4%	17	74.5%	17
農林業	74.0%	23	74.0%	23	67.5%	23
大学	70.7%	24	72.0%	24	67.5%	23
国際化	78.6%	20	78.5%	19	71.5%	19
子育て支援	85.9%	9	86.2%	6	85.1%	6
障害者福祉	88.8%	4	85.5%	7	86.1%	5
地域福祉	77.3%	22	74.0%	22	70.9%	22
高齢者福祉	84.5%	10	81.7%	14	81.1%	11
保健衛生・医療	87.8%	6	85.5%	9	85.1%	6
学校教育	88.5%	5	85.5%	10	83.1%	8
生涯学習	80.6%	17	77.5%	20	78.8%	12
歩くまち	80.3%	18	79.7%	18	71.5%	19
土地利用と都市機能配置	63.2%	27	63.0%	27	58.9%	27
景観	80.9%	16	82.6%	12	78.5%	15
建築物	83.2%	11	87.8%	5	83.1%	9
住宅	79.3%	19	82.3%	13	74.2%	18
道と緑	87.8%	6	85.5%	8	82.5%	10
消防・防災	91.8%	2	92.0%	2	91.1%	2
くらしの水	93.8%	1	92.9%	1	93.0%	1
平均	81.2%		80.8%		77.7%	

政策重要度の属性ごとの順位の変動

政策重要度の3年間の回答状況の推移を属性ごとにみると、以下のことが考察できる。

- ・順位が高い分野は「消防・防災」「くらしの水」「市民生活の安全」「環境」であり、どの属性においてもこれら4分野は、ほぼ上位3位以内に位置している。

- ・逆に「土地利用と都市機能配置」「スポーツ」は、ほとんどの属性で下位3位以内に位置している。

- ・若年層男性と中年層男性は、男性の子育てと教育への参加・協力が唱えられる中、「子育て支援」と「学校教育」で25年度と27年度に政策重要度が1位、3位という回答を複数示したことは興味深い。

- ・高年層の男女は「産業・商業」で、ほぼすべて25位、26位の低い政策重要度であったことが特徴的である。

(2) 生活実感と政策重要度における肯定的回答割合の順位(市全体)

<資料4>

順位	生活実感		政策重要度	
	政策分野	肯定的回答割合	政策分野	肯定的回答割合
1	くらしの水	65.1%	消防・防災	88.3%
2	観光	64.7%	くらしの水	87.6%
3	大学	61.8%	市民生活の安全	87.3%
4	景観	61.1%	環境	85.9%
5	国際化	60.8%	子育て支援	83.5%
6	保健衛生・医療	59.5%	保健衛生・医療	82.5%
7	文化	57.9%	学校教育	82.5%
8	環境	53.0%	障害者福祉	81.4%
9	消防・防災	48.4%	青少年の成長と参加	80.5%
10	歩くまち	45.5%	道と緑	80.2%
11	産業・商業	44.9%	市民生活とコミュニティ	78.6%
12	土地利用と都市機能配置	43.6%	建築物	78.6%
13	道と緑	43.2%	景観	78.4%
14	子育て支援	41.5%	人権・男女共同参画	77.7%
15	生涯学習	38.9%	生涯学習	77.5%
16	市民生活とコミュニティ	38.6%	高齢者福祉	77.0%
17	建築物	36.8%	観光	75.0%
18	高齢者福祉	35.1%	文化	73.5%
19	学校教育	34.9%	国際化	72.7%
20	市民生活の安全	31.4%	住宅	72.6%
21	地域福祉	29.0%	地域福祉	70.9%
22	スポーツ	28.8%	歩くまち	69.8%
23	障害者福祉	24.9%	産業・商業	67.6%
24	人権・男女共同参画	23.7%	大学	67.2%
25	住宅	23.3%	農林業	66.4%
26	農林業	19.3%	スポーツ	61.6%
27	青少年の成長と参加	12.9%	土地利用と都市機能配置	60.2%

※ 網掛けは生活実感と政策重要度の順位が著しく乖離している分野を示している。

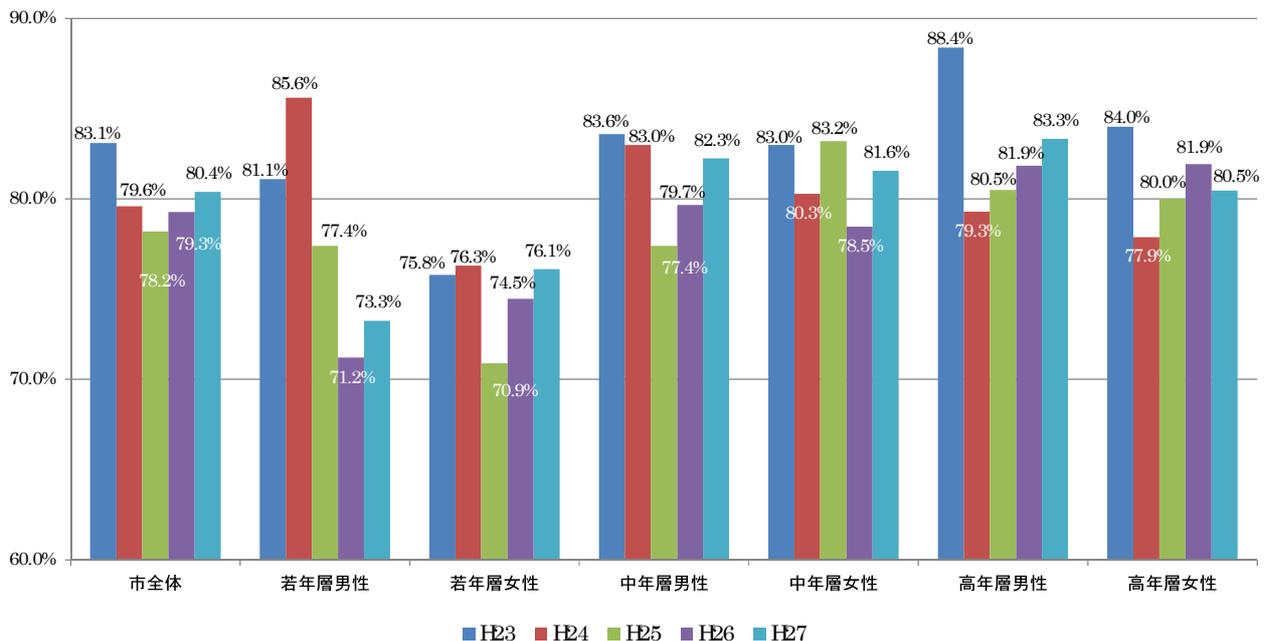
4 市政関心度
(1)5年間の集計

	肯定的回答割合					
	H23	H24	H25	H26	H27	過去4年の平均
市全体	83.1%	79.6%	78.2%	79.3%	80.4%	80.0%
若年層男性	81.1%	85.6%	77.4%	71.2%	73.3%	78.8%
若年層女性	75.8%	76.3%	70.9%	74.5%	76.1%	74.4%
中年層男性	83.6%	83.0%	77.4%	79.7%	82.3%	80.9%
中年層女性	83.0%	80.3%	83.2%	78.5%	81.6%	81.2%
高年層男性	88.4%	79.3%	80.5%	81.9%	83.3%	82.5%
高年層女性	84.0%	77.9%	80.0%	81.9%	80.5%	81.0%

	関心がある					少しは関心がある					あまり関心がない				
	H23	H24	H25	H26	H27	H23	H24	H25	H26	H27	H23	H24	H25	H26	H27
市全体	35.8%	33.1%	34.5%	35.7%	35.0%	47.3%	46.5%	43.7%	43.6%	45.4%	8.5%	10.3%	8.6%	9.3%	9.1%
若年層男性	40.0%	36.7%	28.6%	30.3%	29.1%	41.1%	48.9%	48.8%	40.9%	44.2%	11.1%	10.0%	14.3%	16.7%	16.3%
若年層女性	26.7%	25.8%	21.8%	21.4%	19.4%	49.1%	50.5%	49.1%	53.1%	56.7%	12.7%	13.7%	13.3%	16.6%	14.2%
中年層男性	29.1%	36.5%	40.9%	36.6%	41.1%	54.5%	46.5%	36.5%	43.1%	41.1%	9.7%	9.4%	9.6%	8.9%	5.6%
中年層女性	28.4%	28.0%	28.2%	25.6%	26.7%	54.6%	52.3%	55.0%	52.9%	54.8%	11.0%	11.5%	8.1%	10.8%	10.6%
高年層男性	46.6%	40.9%	47.6%	47.3%	45.7%	41.8%	38.4%	32.9%	34.5%	37.6%	2.9%	9.1%	9.1%	5.3%	6.4%
高年層女性	40.4%	32.4%	36.2%	42.4%	38.7%	43.6%	45.5%	43.8%	39.6%	41.7%	6.8%	8.7%	4.6%	6.3%	7.3%

	まったく関心がない					わからない					無回答				
	H23	H24	H25	H26	H27	H23	H24	H25	H26	H27	H23	H24	H25	H26	H27
市全体	1.3%	0.9%	1.1%	0.9%	0.9%	2.6%	3.9%	3.2%	3.5%	2.6%	4.5%	5.3%	8.9%	7.0%	7.0%
若年層男性	4.4%	0.0%	2.4%	1.5%	3.5%	1.1%	2.2%	1.2%	4.5%	1.2%	2.2%	2.2%	4.8%	6.1%	5.8%
若年層女性	3.6%	1.1%	1.8%	1.4%	0.7%	6.7%	4.4%	9.7%	4.1%	3.0%	1.2%	4.4%	4.2%	3.4%	6.0%
中年層男性	2.2%	1.9%	1.7%	1.6%	1.6%	1.5%	1.9%	6.1%	0.0%	4.0%	3.0%	3.8%	5.2%	9.8%	6.5%
中年層女性	0.0%	0.5%	1.4%	1.8%	0.9%	1.8%	5.5%	1.9%	4.5%	3.2%	4.1%	2.3%	5.3%	4.5%	3.7%
高年層男性	1.0%	1.3%	0.4%	0.4%	0.4%	1.9%	3.4%	0.9%	2.2%	0.9%	5.8%	6.9%	9.1%	10.2%	9.0%
高年層女性	0.0%	0.4%	0.7%	0.0%	0.3%	2.3%	4.4%	2.0%	4.5%	3.0%	6.8%	8.7%	12.8%	7.3%	8.9%

(2) 肯定的回答の変化(H23～H27の比較)



5 幸福実感
(1)4年間の集計

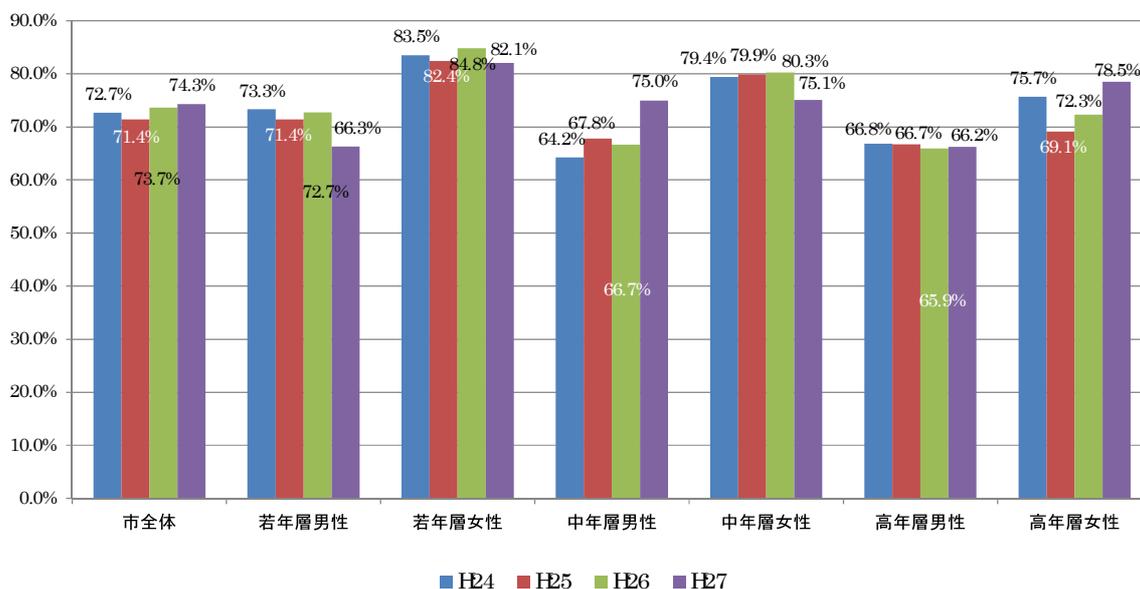
<資料6>

	肯定的回答割合				
	H24	H25	H26	H27	過去3年の平均
市全体	72.7%	71.4%	73.7%	74.3%	72.6%
若年層男性	73.3%	71.4%	72.7%	66.3%	72.5%
若年層女性	83.5%	82.4%	84.8%	82.1%	83.6%
中年層男性	64.2%	67.8%	66.7%	75.0%	66.2%
中年層女性	79.4%	79.9%	80.3%	75.1%	79.9%
高年層男性	66.8%	66.7%	65.9%	66.2%	66.5%
高年層女性	75.7%	69.1%	72.3%	78.5%	72.4%

	とても幸せだと思う				どちらかという 幸せだと思う				どちらとも言えない			
	H24	H25	H26	H27	H24	H25	H26	H27	H24	H25	H26	H27
市全体	17.3%	19.1%	16.8%	19.8%	55.4%	52.3%	56.9%	54.5%	16.7%	16.6%	16.0%	15.2%
若年層男性	24.4%	25.0%	19.7%	16.3%	48.9%	46.4%	53.0%	50.0%	13.3%	20.2%	15.2%	20.9%
若年層女性	26.4%	30.3%	24.1%	33.6%	57.1%	52.1%	60.7%	48.5%	11.0%	10.3%	6.9%	11.9%
中年層男性	16.4%	13.9%	17.9%	16.1%	47.8%	53.9%	48.8%	58.9%	25.8%	20.0%	21.1%	17.7%
中年層女性	17.9%	19.1%	16.6%	23.0%	61.5%	60.8%	63.7%	52.1%	12.8%	13.9%	13.0%	14.7%
高年層男性	9.5%	17.3%	14.6%	11.5%	57.3%	49.4%	51.3%	54.7%	22.0%	20.3%	20.4%	19.2%
高年層女性	17.5%	16.1%	14.1%	20.2%	58.2%	53.0%	58.2%	58.3%	14.9%	16.4%	17.4%	11.3%

	どちらかという 幸せではないと思う				不幸せだと思う				無回答			
	H24	H25	H26	H27	H24	H25	H26	H27	H24	H25	H26	H27
市全体	3.8%	4.7%	3.4%	4.8%	1.4%	0.6%	1.2%	1.2%	5.4%	6.7%	5.8%	4.5%
若年層男性	4.4%	3.6%	4.5%	9.3%	3.3%	0.0%	3.0%	2.3%	5.6%	4.8%	4.5%	1.2%
若年層女性	2.2%	6.1%	3.4%	2.2%	2.7%	0.6%	0.7%	0.7%	0.5%	0.6%	4.1%	3.0%
中年層男性	6.3%	7.8%	4.9%	4.8%	1.9%	1.7%	2.4%	0.8%	1.9%	2.6%	4.9%	1.6%
中年層女性	3.2%	4.3%	2.7%	7.8%	0.9%	0.5%	0.9%	0.9%	3.7%	1.4%	3.1%	1.4%
高年層男性	3.0%	3.5%	4.0%	3.4%	0.9%	0.4%	0.9%	2.6%	7.3%	9.1%	8.8%	8.5%
高年層女性	4.0%	3.6%	2.6%	3.6%	0.4%	0.7%	1.0%	0.3%	5.1%	10.2%	6.8%	6.3%

(2) 肯定的回答の変化(H24~H27の比較)



むすびに

5年間のデータを得たことにより、単年度の分析と5年間を通した分析が詳細にできたと考えている。回答傾向からは、たとえば「大学」のうち、『ノーベル賞効果』といえるような市民生活実感のプラス方向へ変動や、逆に一つの大型台風によって深刻な浸水被害が出たことによる「くらしの水」における生活実感のマイナス方向への変動など、行政の取組だけではどうしようもない出来事で市民の意識が大きく変動することがあるということがわかった。

そんな中でも市全体で「観光」の2項目と「保健衛生・医療」の1項目でプラス方向に顕著に（右肩上がりに）生活実感が上昇していることは、市の取組が評価の一因であると考えられる。

今年度の生活実感と幸福実感の相関関係の分析結果から、若年層女性では「土地利用と都市機能配置」の中の『田の字地域や京都駅の周辺は、にぎわいのある魅力的な地域である。』で生活実感の向上が幸福実感の向上に結びつく可能性が最も高いという関係がみられた。にぎわいのある魅力的な地域づくりは、若年層女性のみならず多くの人にプラスの影響を与えるであろうことから、この分野の取組に注目したい。

また同じく今年度の生活実感と幸福実感の相関関係の分析結果で、中年層女性は「市民生活とコミュニティ」の中の『町内会・自治会などの地域の組織の活動が盛んである。』で相関係数は高かったものの肯定的回答割合が最も低かったこと、しかしそれは換言すれば今後の伸び代が最も大きいこと、および4年間の相関関係の分析結果では「市民生活とコミュニティ」の中の『地域の一員として安心してらせるまちになっている。』が最も幅広い属性において高い相関係数を多く得たことから、市民生活とコミュニティの分野に力を入れれば二つの実感度の向上が同時に図れるということが期待される。

京都市民のみなさんにおかれては、この分析結果をまちづくり活動等に生かしていただければ幸いである。特に京都に数多くいる学生・研究者にはさまざまな分析結果を材料としてゼミ活動や研究等に生かしていただくことを期待したい。

分析体制

平成27年度のデータ分析は、公益財団法人 大学コンソーシアム京都の専門委員会である「都市政策研究推進委員会」の協力を得て、以下の体制で実施した。

○事務局：公益財団法人 大学コンソーシアム京都 調査・広報事業部

- ・プロジェクト・マネージャー 水田哲生，博士（政策科学）
- ・主幹 矢野裕史

○アドバイザー：

- ・京都大学 人間・環境学研究科 教授 佐野 亘，博士（人間・環境学）
- ・京都文教大学 総合社会学部 准教授 山本真一，博士（経済学）

※両名とも「都市政策研究推進委員会」委員

○アドバイザー兼実務担当者：

- ・同志社大学 政策学部 助教 増田知也，博士（政策科学）

※「都市政策研究推進委員会」委員の推薦

（肩書はすべて平成28年3月31日現在）

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 「未来の京都創造研究事業」

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル
キャンパスプラザ京都（京都市大学のまち交流センター）

TEL：075-708-5803

FAX：075-353-9101

大学コンソーシアム京都 未来の京都

検索

